

# 上田市歴史文化基本構想

平成 31 年 3 月

上田市・上田市教育委員会

<b>第1章 上田市歴史文化基本構想策定の目的</b>	<b>1</b>
1 策定の背景と目的	1
2 行政上の位置付け	2
<b>第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状</b>	<b>7</b>
1 上田市の概要	7
(1) 上田市の社会環境	
(2) 上田市の自然環境	
(3) 上田市の歴史環境	
2 上田市の指定等文化財	30
(1) 指定等文化財の一覧	
3 上田市の歴史と文化の特徴	41
(1) 時代別特徴	
(2) 地域別特徴	
(3) 歴史文化の特性	
4 上田市の文化財の保存・活用施策の現状と課題	63
(1) 調査・指定	
(2) 保存・整備・公開	
(3) 文化財と周辺環境の一体的な保全	
(4) 生涯学習・人材育成	
(5) 体制づくり	
<b>第3章 文化財把握の方針</b>	<b>67</b>
1 文化財調査の履歴	67
(1) 旧市町村別調査履歴	
(2) 長野県全域を対象とした調査履歴	
2 構想策定に伴う文化財調査	69
(1) 仏教文化財（仏像）調査	
(2) 蚕都上田に関わる養蚕家屋等調査	
3 今後実施すべき文化財調査	72
(1) 指定等に向けた調査	
(2) 早急に行うべき記録等の調査	



第4章	文化財の保存・活用の基本方針	74	
1	基本目標の設定	74	
2	基本方針	75	
	(1) 文化財調査と指定の推進		
	(2) 文化財の保存と活用の推進		
	(3) 文化財と周辺環境の一体的な保全		
	(4) 歴史文化の学習と人材・後継者の育成		
	(5) 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針		
第5章	関連文化財群の設定	79	
1	関連文化財群の設定の考え方	79	
2	関連文化財群の概要と保存・活用の基本的な方向性	80	
	関連文化財群-1 信濃国分寺と仏教文化財		
	関連文化財群-2 水と信仰の農業開発文化財		
	関連文化財群-3 真田氏の活躍と城郭文化財		
	関連文化財群-4 城下町と街道筋の文化財		
	関連文化財群-5 蚕都上田の文化財		
	関連文化財群-6 近代の保養・観光開発の文化財		
第6章	歴史文化保存活用区域	113	
1	歴史文化保存活用区域の考え方	113	
2	保存活用の方向性（地域別）	114	
	(1) 中央地域	(2) 西部地域	(3) 城南地域
	(4) 神科・豊殿地域	(5) 塩田地域	(6) 川西地域
	(7) 丸子地域	(8) 真田地域	(9) 武石地域
第7章	文化財保存活用地域計画に関する事項	131	
1	基本的な考え方	131	
2	地域計画に定める事項	131	
第8章	文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針	132	
1	文化財保護行政の庁内体制の構築	132	
2	地域内分権における文化財保護の体制整備	132	
3	高等教育施設や専門家との連携体制	132	

## 例 言

- 1 本書は、長野県上田市における文化財の保存と活用のマスタープラン「上田市歴史文化基本構想」（以下、「構想」という。）である。
- 2 本構想策定にかかる事業は、平成 28～30 年度に国庫補助「文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）」を活用して実施した。
- 3 本構想は、平成 29 年 12 月 14 日に上田市教育委員会が構想の策定について「上田市歴史文化基本構想策定委員会」（以下、「委員会」という。）に諮問し、平成 30 年 11 月 1 日から 11 月 30 日までパブリックコメントを実施、平成 31 年 3 月 14 日に委員会から答申を得て策定した。

表 1 上田市歴史文化基本構想策定委員会委員名簿

職 名	氏 名	所 属 等	専門分野
会 長	かわかみ つかさ 川上 元	長野県文化財保護協会会長	考古学・歴史学
会長代理	つちもと としかず 土本 俊和	信州大学工学部教授	建築学
委 員	おおた き み こ 太田 喜美子	駒澤大学博物館学講座講師	民俗学
委 員	おぐら えりこ 小倉 絵里子	前高崎市タワー美術館学芸員	美術史学
委 員	まちだ りゅういちろう 町田 龍 一 郎	筑波大学生命環境科学研究科教授	生物学
委 員	みずさわ きょうこ 水沢 教子	長野県埋蔵文化財センター調査研究員	考古学
委 員	みやもと たつろう 宮本 達郎（故人）	東信史学会会長	歴史学・民俗学

- 4 策定作業に係る事務は、上田市教育委員会事務局生涯学習・文化財課が行った。

表 2 事務局体制一覧（年度別）

年 度	教育長	教育次長	課 長	担当係長	担 当
平成 28 年度	小林一雄	中村栄孝	浅野之宏	塩崎幸夫・和根崎剛	中沢徳士・滝沢敬一・松崎訓央
平成 29 年度	小林一雄	中村栄孝	小林 薫	塩崎幸夫・和根崎剛	中沢徳士・滝沢敬一・谷口弘毅
平成 30 年度	峯村秀則	中村栄孝	小林 薫	塩崎幸夫・和根崎剛	中沢徳士・滝沢敬一・谷口弘毅

- 5 本構想の検討については、（株）文化財保存計画協会に作業の一部を委託した。
- 6 本事業では、上田市の歴史と文化を特徴づける仏像（木彫）と養蚕家屋等について、悉皆調査を実施した。  
 仏像調査は、実践女子大学の武笠朗教授、委員会の小倉絵里子委員の指導のもとに実施した。また、養蚕家屋等調査は、委員会の太田喜美子委員の指導のもとに実施した。  
 【仏像調査者】河本理緒、常松亜衣、平井理恵、棚橋麻衣、山崎祐子、北條緋菜、竹田有佑、林幸太郎、田澤直子  
 【養蚕家屋等調査者】松浦誠、HUANG KATHLEEN、長瀬光仁、小笠原理帆、竹田有佑、中谷優花、西野真悠、林幸太郎、小倉絵里子、江口真由、大和田結花
- 7 調査にあたり、仏像を所有・管理する寺院、保存会の皆さまや、家屋居住の皆さまに多大な御理解と御協力をいただいた。記して感謝する。

---

## 上田市歴史文化基本構想

発行日：平成31（2019）年3月

発行：上田市・上田市教育委員会

（担当課）上田市教育委員会事務局生涯学習・文化財課

長野県上田市天神一丁目8番1号

TEL 0268 (23) 6362

---

## 第1章 上田市歴史文化基本構想策定の目的

### 1 策定の背景と目的

現在の上田市は、平成18年(2006)に上田市、丸子町、真田町、武石村が対等合併してから10年余りが経過し、長野県東部の中心都市としての歴史をさらに発展させるための歩みを始めている。

上田市の歴史は古く、奈良時代には国分寺、国分尼寺が建立され、信濃国で最初の国府が置かれた地と考えられている。鎌倉時代に入ると、幕府の信濃守護職、北条氏が市内の塩田平に居を構えて、三代60年に渡り鎌倉の仏教文化を花咲かせた。鎌倉時代に『信州の学海』と称された塩田平には、安楽寺の木造八角三重塔(国宝)をはじめ、数多くの歴史的建造物、寺社が残されている。戦国時代の天正11年(1583)には、真田昌幸によって上田城が築かれ、城下町が形成された上田の地は、政治・文化の中心、物資の集散地としてその後長く栄えることとなった。明治から大正時代にかけては、全国有数の蚕種の生産地となり、全国の蚕糸業を支える「蚕都」として隆盛を極めた。

こうした上田市の歴史研究の集大成として、合併前の旧4市町村(上田市・丸子町・真田町・武石村)は、それぞれに市町村誌を刊行している。また、上田市には現在、約300件の指定等文化財があり、ひとつひとつに本市の多様かつ豊かな歴史と文化が反映されている。

上田市にはまた、菅平高原や美ヶ原高原などの雄大な自然、開湯時期が古代にさかのぼるといわれる別所温泉や鹿教湯温泉、交流文化施設サントミュージアムや信州国際音楽村、塩田平の仏教文化財群、上田城をはじめとする城郭群、蚕都の面影を伝える近代の産業遺産など、数多くの観光資源に恵まれて、年間約400万人の観光客が訪れることから、現在は観光をリーディング産業として位置付けている。このほか、晴天が多いという気象上のメリットを生かして、映画・テレビのロケ撮影を官民一体となって支援するフィルムコミッション活動に積極的に取り組み、劇場公開された著名な作品も多い。

こうした地域の個性を生かした産業振興やまちづくりにおいて、上田市に存在する多くの文化財は「強み」として認識されるものであり、積極的に文化財を活用できる機会を増やし、情報を発信することの必要性が高まっている。

各種施策と連携して、一貫性を持った文化財保護施策を推進するには、市域全体の文化財の保存・活用を取り巻く課題を確認したうえで、総合的な文化財保護施策を定める必要がある。このため、上田市における文化財保護のマスタープランとしての役割をもつ「上田市歴史文化基本構想」を定めるものとする。

「上田市歴史文化基本構想」は、文化財保護のマスタープランとして以下の点に留意して定めることとする。

#### (策定の方針)

- ①文化財保護施策を一貫性を持って進めるための構想とする。
- ②未指定文化財を視野に含め、文化財保護施策の充実を図るための構想とする。
- ③文化財とそれを取りまく環境の一体的な保護を図るための構想とする。
- ④個々の文化財の価値や性質を十分踏まえた構想とする。
- ⑤文化財保護に関する情報を、多くの関係者と共有するための構想とする。
- ⑥住民協働に基づく、文化財を核としたまちづくりの構想とする。

## 2 行政上の位置付け

「上田市歴史文化基本構想」は、上田市において「第二次上田市総合計画」と「第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想」を上位計画として定めるものである。

平成 13 年(2001)に公布された「文化芸術振興基本法」では、文化芸術の振興にあたって、多様な文化芸術の保護及び発展や、各地域の歴史、風土等を反映した特色ある文化芸術の発展を図ることなどが基本理念として掲げられている。その中では文化財の保存・活用に関する基本的施策として、国が有形及び無形の文化財及びその保存技術（以下「文化財等」）の保存・活用を図るため、文化財等に関し、修復、防災対策、公開等への支援等の施策を講ずることとしている。

したがって、上田市歴史文化基本構想は、文化芸術振興基本法で提唱されたこれらの基本理念、基本的施策等を背景として、地域の様々な文化財等とその周辺環境を、各地域の歴史や風土の特徴を活かしながら総合的に保存・活用していくために策定するものと位置付ける。

本構想で定めた事項の実現に向けては、文化財保護行政のみならず、観光やまちづくり、産業振興・農業振興など関連分野における施策との横断的な取組が不可欠であり、既存の関連計画である「上田市都市計画マスタープラン」や「上田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「上田市中心市街地活性化基本計画」等、あるいは今後認定にむけて取り組む「歴史的風致維持向上計画」とも密接に連携を図っていくものとする。

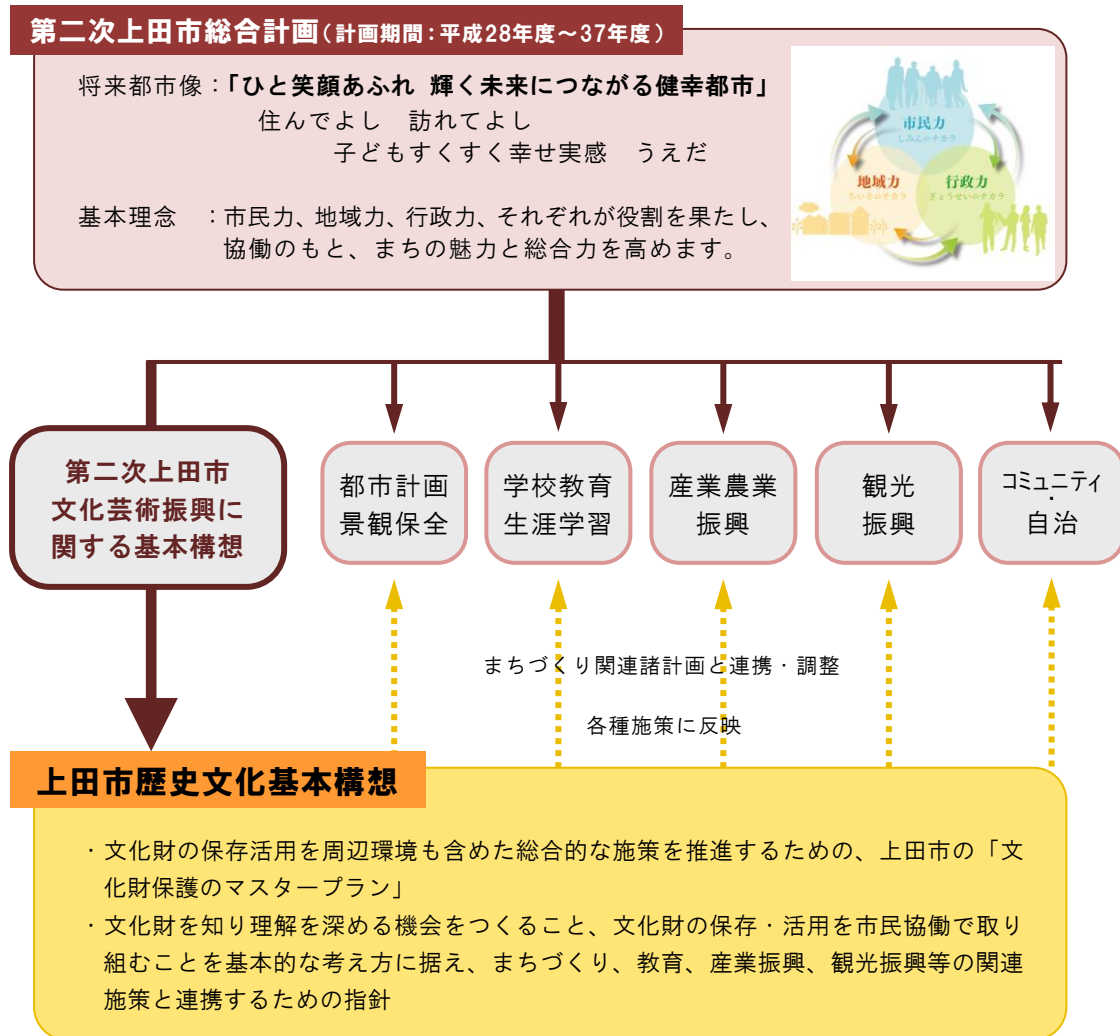
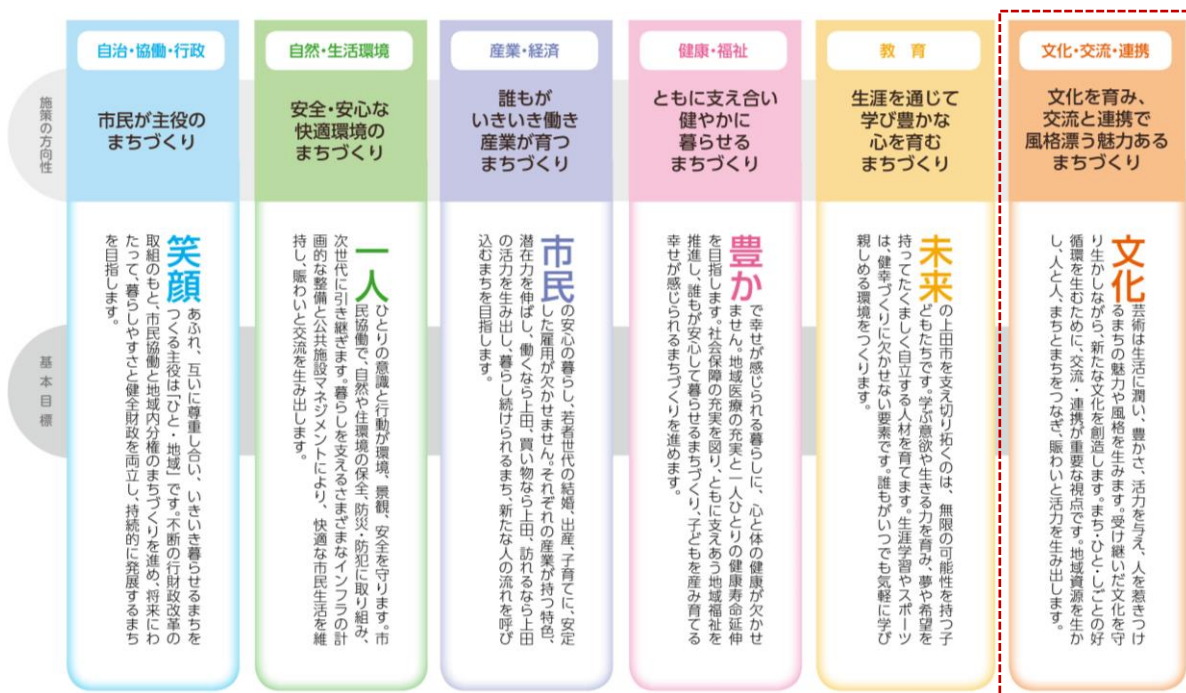


図1 上田市歴史文化構想の位置付け

## ■第二次上田市総合計画

上田市は市政運営の基本的指針となる第二次上田市総合計画（計画期間：平成28年度～37年度）において、10年後の目指すべき将来都市像として「ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる健幸都市」を掲げている。市民一人ひとりがライフスタイルにあった幸福を感じ、健康に暮らし、将来にわたって活力と笑顔あふれるまちを実現するため、推進する6つの施策の方向性と基本目標（施策大綱）を定めており、このうち、文化財に関連する施策は、「文化を育み、交流と連携で風格漂う魅力あるまちづくり」のなかに含まれる。



### 施策の方向性・展開

#### 基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します

##### ①地域の歴史と文化を知る機会の創出

- 市誌編さん時の史資料の公開とともに、博物館、公民館、図書館などでの学ぶ機会の提供を通して、市民の学習・研究活動を促進します。
- 学校教育において、地域の歴史・文化・自然、優れた業績を残した先人などを教材とする学習を充実します。
- 市民が伝統行事などに参加しやすい環境づくりを進めます。

##### ②市民協働による文化財の保存

- 地域の歴史的・文化的遺産などに関する基礎資料の収集、調査、記録保存を行い、文化財指定などを通じて適切に保全管理します。
- 文化財所有者が行う修理をはじめ、市民や企業などが自主的に行う文化財保護活動を支援します。
- 伝統芸能の保存団体や指導者、後継者を支援し、団体間の交流促進も含め、地域に根ざした継承活動を促進します。

#### 基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます

##### ①市民協働による歴史的・文化的遺産の活用

- 文化財を市民の学習活動や文化活動の場として積極的に活用できるよう整備します。
- 地域の特色ある文化遺産を、まちづくりや観光の資源として活用されるようにします。

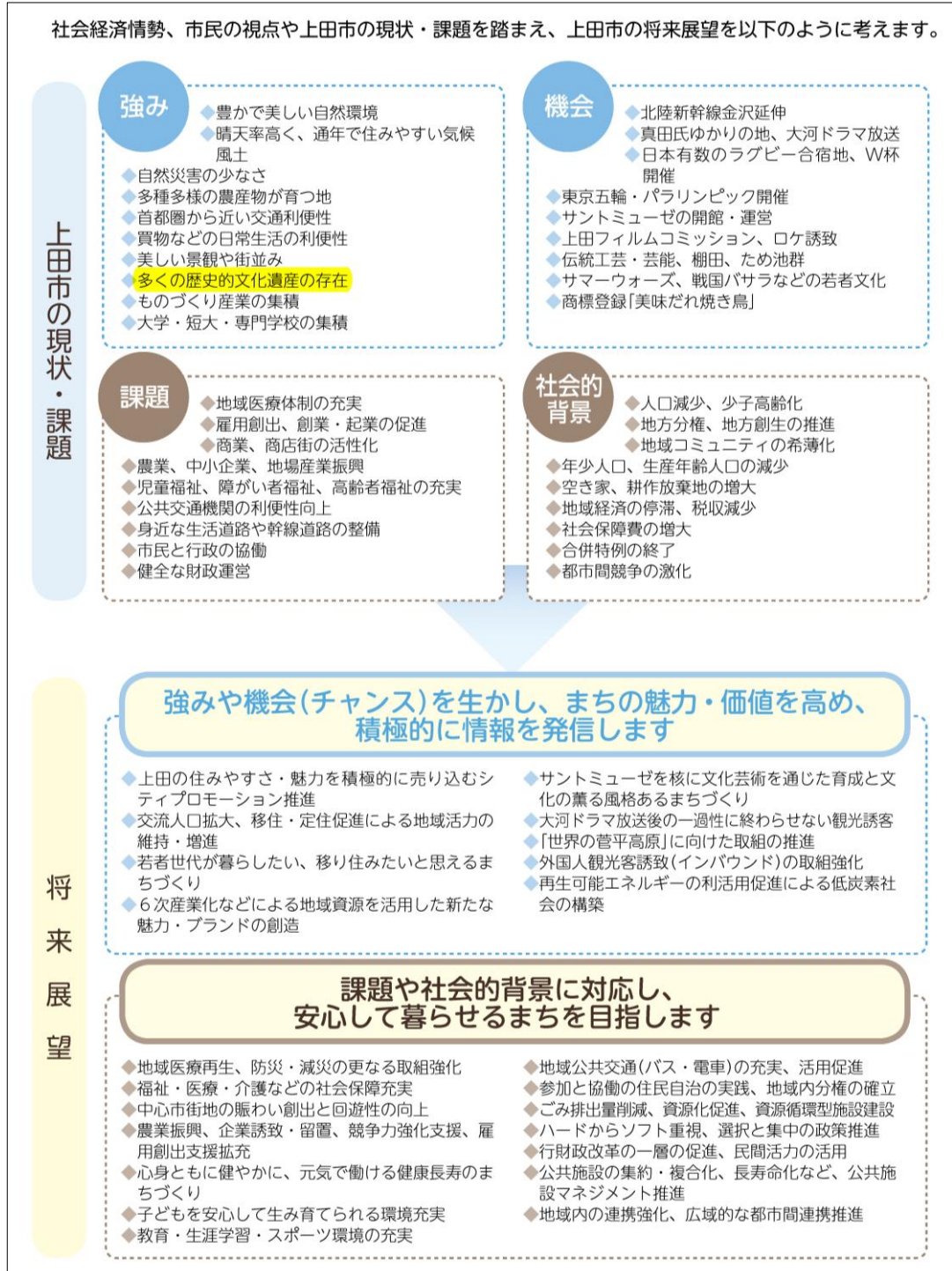
##### ②文化遺産の継承と活用に関する基本構想の策定

- 総合計画に基づく個別計画として「上田市文化芸術振興に関する基本構想」を策定します。
- 文化財保護に関するマスタープランとして「歴史文化基本構想」を策定し、周辺環境も含めて総合的に保存活用する施策を進めます。



文化財保護行政の施策項目である「文化遺産の継承と活用」においては、地域の歴史・文化を知る機会を創出し、歴史的・文化的遺産の活用と継承に向けた取組を推進することを掲げている。そのための基本施策を設定した中に、「歴史文化基本構想を策定して文化財の保存活用を周辺環境も含めた総合的な施策を推進する。」ことを定めている。

〔参考〕 上田市の現状・課題において、「多くの歴史的文化的遺産の存在」は上田市における強みとして認識されている。



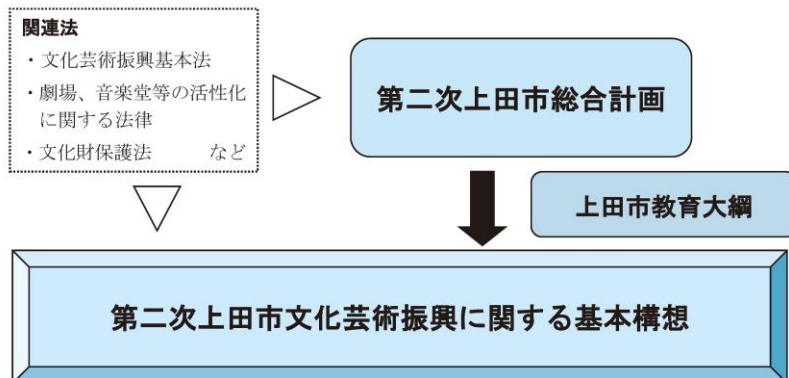


## ■第二次上田市文化芸術振興に関する基本構想（上田市教育委員会文化振興課）

この基本構想は、市政運営の基本となる第二次上田市総合計画を踏まえ、上田市の文化芸術分野における中長期的な視点に立った基本施策や方向性を定めるものであり、文化芸術振興基本法第4条の規定に沿うものである。

### 【文化芸術振興基本法（平成13年12月施行）第4条】

「地方公共団体は、基本理念にのっとり、文化芸術の振興に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」



この基本構想においては、文化芸術の継承と創造のための基本的施策を、「1. 文化遺産の継承と活用」、「2. 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造」という、2つの項目に整理している。このうち、「1. 文化遺産の継承と活用」の項目において定めた各種施策は、地域の歴史的・文化的遺産を後世に残すため、まずは文化財を知り理解を深める機会をつくること、多くの文化財は民間が所有しているという現状を踏まえ文化財の保存・活用を市民協働で取り組むことを基本的な考え方としている。これらは、すべて歴史文化基本構想において検討する必要がある施策である。

### 1. 文化遺産の継承と活用

基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します	基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます
① 地域の歴史と文化を知る機会の創出	市民協働による歴史的・文化的遺産の活用
《基本的な施策》 ① 史資料の積極的な公開 ② 社会教育機関における史資料を活用した学習機会の提供 ③ 学校における郷土の歴史や文化を知る学習 ④ 伝統的な芸能に触れる機会の創出 ⑤ 先人・偉人の顕彰	《基本的な施策》 ① 歴史的・文化的遺産の情報発信 ② 文化遺産の文化活動での利用 ③ 文化遺産の観光資源としての活用 ④ 地域の特色のある文化遺産を連携させた、まちづくりへの活用
② 市民協働による文化財の保存	
《基本的な施策》 ① データの収集・集積と情報の整理 ② 文化遺産の保護と保全 ③ 地域に残る伝統芸能の継承と活動の促進 ④ 仮称「公文書館」の設置 ⑤ 各分野における後継者の育成	

## 第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状

### 1 上田市の概要

上田市は、長野県東部に位置する人口 16 万を擁する都市であり、概要は以下のとおりである。

#### (1) 上田市の社会環境

##### ① 位置・地勢

上田市は長野県東部に位置し、東京から約 190km、県庁所在地の長野市から約 40 km の距離にある。北は長野市、千曲市、須坂市、坂城町、筑北村、西は松本市、青木村、東は嬬恋村（群馬県）、東御市、南は長和町、立科町と接している。市域は上田盆地を中心に、東西約 31km、南北約 37km、面積 552km<sup>2</sup> の広がりを持つ。市役所本庁の位置は、東経 138 度 15 分、北緯 36 度 24 分、海拔 456m である。

上田市の北部に位置する菅平高原一帯は上信越高原国立公園に指定され、<sup>あづまや</sup>四阿山や<sup>えぼし</sup>烏帽子岳がそびえている。南部は八ヶ岳中信高原国定公園に指定され、美ヶ原高原をはじめ、標高 2,000m 級の山々が連なっている。また、佐久盆地から流下する千曲川は、本市の中央部を東西に通過し、周囲の山地から依田川、神川、浦野川等が合流しながら長野盆地へと流れている。これらの河川沿いに広がる標高 400～800m の平坦地や丘陵地帯には、市街地や集落が形成されている。



図2 位置図（出典：上田市 HP）



図3 上田市の概況図（出典：上田市 HP）

## ② 人口

上田市の人口は、平成 30 年(2018) 10 月 1 日時点で 158,265 人となっている。これは長野県内の 77 市町村の中で、長野市、松本市に次いで第 3 位である。かつて増加の一途を辿っていた人口は、平成 13 年の 16 万 6 千人台※をピークに減少に転じている。平成 27 年の将来推計では、平成 52 年(2040)には 12 万人程度まで減少すると試算されている。

世帯数については、平成 30 年 10 月 1 日の推計値で 67,820 世帯と継続して増加しているものの、世帯人員は昭和 35 年(1960)の 4.53 人※から平成 30 年の 2.3 人と約半数まで減少しており、単身者が増えていることが顕著に現れている。

平成 30 年 10 月 1 日時点の住民基本台帳に基づき、9 つに区分した地域別人口をみると、中央地域が 31,099 人と最も多く、城南地域が 29,798 人と続いている。最も少ない武石地域は 3,474 人で、高齢化率も 36.3%と最も高くなっている。

※現市域の合算値（図 4、5 についても同じ）

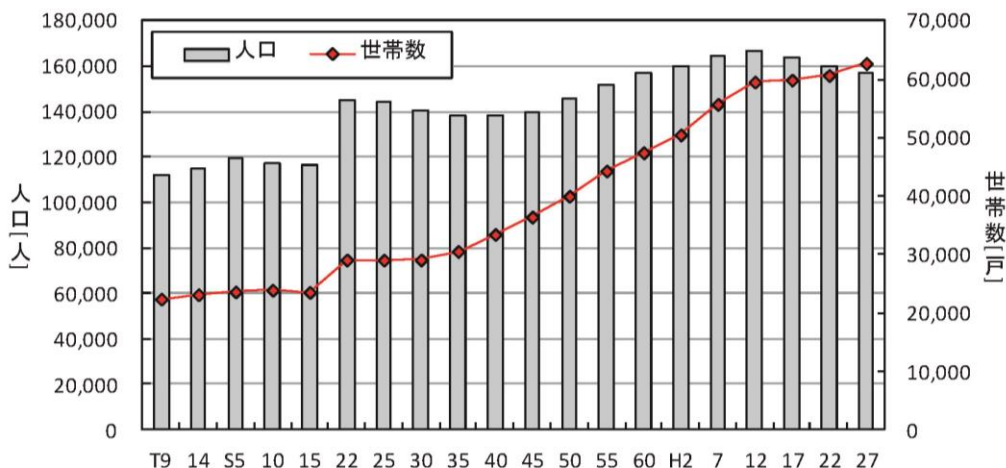


図 4 人口及び世帯数の推移（国勢調査結果）（出典：上田市の統計平成 28 年）

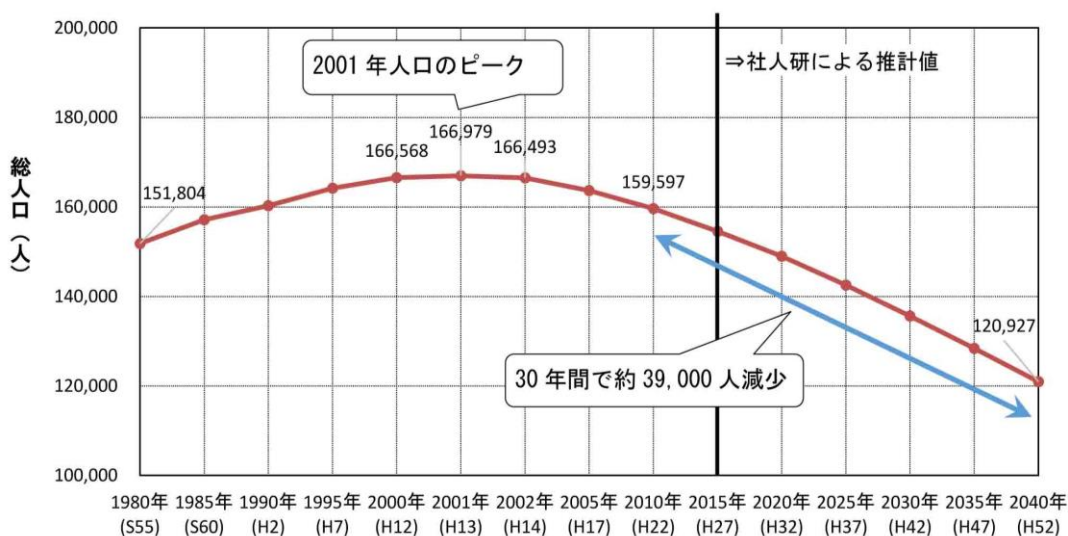


図 5 総人口の推移と将来推計（出典：上田市版人口ビジョン平成 27 年）

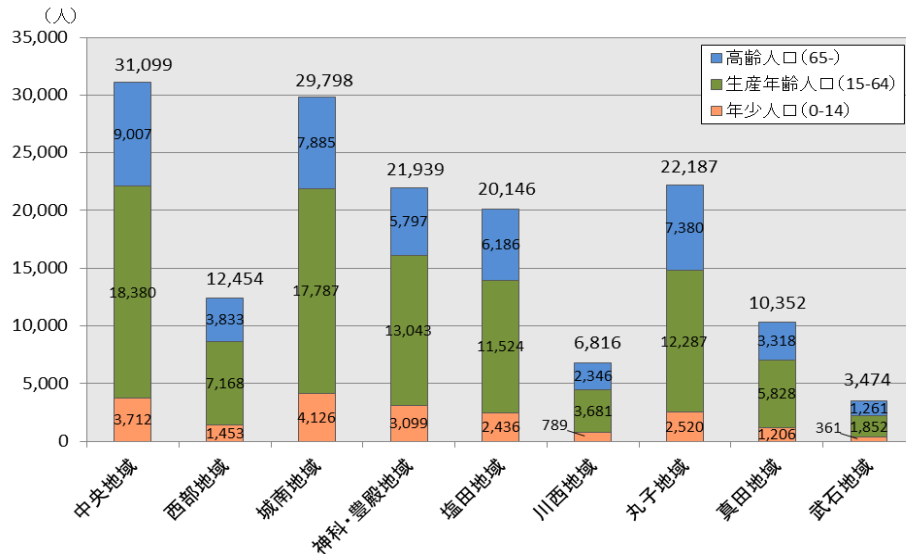


図6 地域別人口（住民基本台帳・平成30年10月1日現在）

### ③ 行政単位の変遷

上田市は、大正8年(1919)5月1日に市制が施行されて誕生した。大正10年に城下村を編入、昭和29年に塩尻村と川辺村を、昭和31年に神川村と泉田村を編入した。昭和32年(1957)に大字小泉（半過を除く）を分市したが、同年に神科村を、昭和33年に豊殿村を編入、さらに昭和45年に塩田町、昭和48年に川西村を編入した。

平成18年(2006)3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が新設合併し、現在に至っている。

なお、上小地域<sup>じょうしょう</sup>とは上田市を中心とした地域を指す名称で、概ね旧小県郡の範囲に一致する。上小地方、上田地域、上田地方と呼ばれることもある。

上小地域（旧小県郡）の範囲と、行政区の変遷は図7、表1のとおりである。

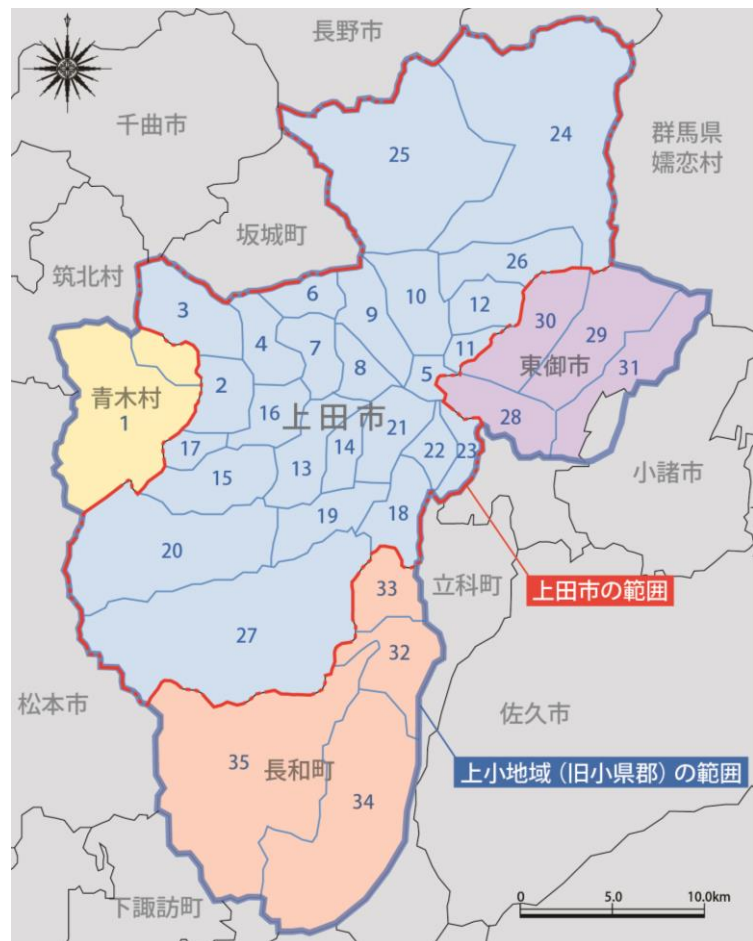


図7 上小地域（旧小県郡）の範囲と上田市の範囲

※図中の数字は、町村制施行時（明治22年（1889））の町村に対応（表1）

表1 上小地域（旧小県郡）の市町村の変遷

明治22年 4月1日	明治22年～ 大正15年	昭和元年～ 昭和29年	昭和30年～昭和39年		昭和40年～ 昭和64年	平成元年～	現在
1. 青木村			昭和32年3月31日 青木村				青木村
2. 浦里村			浦里村				
3. 室賀村				昭和32年3月31日 川西村	昭和48年4月1日 上田市に編入		
4. 泉田村			昭和31年9月30日 上田市に編入				
5. 神川村							
6. 塩尻村		昭和29年4月1日 上田市に編入					
7. 川辺村							
8. 城下村	大正10年9月10日 上田市に編入		上田市		上田市		
9. 上田町	大正8年5月1日 上田市	上田市					
10. 神科村			昭和32年8月1日 上田市に編入				
11. 豊里村			昭和31年9月30日 豊殿村	昭和33年4月1日 上田市に編入			
12. 殿城村							
13. 東塩田村		昭和24年9月1日 東塩田村					
14. 富士山村							
15. 西塩田村			昭和31年5月1日 塩田町		昭和45年4月1日 上田市に編入	平成18年3月6日 上田市	上田市
16. 中塩田村							
17. 別所村							
18. 丸子村	大正元年10月30日 丸子町						
19. 東内村		昭和29年10月1日 丸子町に編入	丸子町				
20. 西内村							
21. 依田村			昭和30年4月1日 丸子町に編入				
22. 長瀬村							
23. 塩川村			昭和31年9月30日 丸子町に編入				
24. 長村							
25. 傍陽村			昭和33年10月1日 真田町		真田町		
26. 本原村							
27. 武石村							
28. 県村		昭和29年10月1日 田中町					
29. 柵津村			昭和30年4月1日 東部町		東部町	平成16年4月1日 東御市の一部	東御市
30. 和村							
31. 滋野村			昭和33年4月10日 東部町に編入 ※一部小諸市に編入				
32. 長窪古町							
33. 長久保新町			昭和31年9月30日 長門町		長門町	平成17年10月1日 長和町	長和町
34. 大門村							
35. 和田村							



## ④ 土地利用

平成28年(2016)の土地利用状況について、土地利用区分別に見ると、総面積55,204haのうち、山林は39,780ha(72.1%)、田は3,147ha(5.7%)、畑は3,313ha(6.0%)となっており、水面等を含めた自然的土地利用は48,196ha(87.3%)である。残りの面積7,008ha(12.7%)は、住宅用地が2,778ha(5.0%)、商業用地が407ha(0.7%)、工業用地が552ha(1.0%)、道路用地が1,627ha(3.0%)等となっている。

表2 土地利用区分別面積(出典:平成28年度都市計画基礎調査)

単位:ha

市街地区分			用途地域 指定区域	用途地域 指定外区域	都市計画 区域	都市計画 区域外	合 計
自然的土地 利用	農 地	田	88.4	2,410.7	2,499.1	648.7	3,147.8
		畑	101.2	1,827.0	1,928.2	1,385.1	3,313.3
		小 計	189.6	4,237.7	4,427.3	2,033.8	6,461.1
	山 林		10.9	12,082.5	12,093.4	27,687.2	39,780.6
	水 面		12.5	397.1	409.6	93.6	503.2
	その他の自然地		28.7	1,002.7	1,031.4	420.8	1,452.2
	小 計		241.7	17,719.3	17,961.0	30,235.4	48,196.4
都市的土地 利用	宅 地	住宅用地	631.4	1,686.3	2,317.7	460.1	2,777.8
		商業用地	137.6	182.0	319.6	87.8	407.4
		工業用地	96.7	405.0	501.7	50.4	552.1
		小 計	865.7	2,273.3	3,139.0	598.3	3,737.3
	公共・公益用地（注1）		193.3	519.8	713.1	320.8	1,033.9
	道 路 用 地		218.0	964.8	1,182.8	443.8	1,626.6
	交通施設用地		17.2	17.3	34.5	0.0	34.5
	その他の公的施設用地		—	—	—	—	—
	その他の空地		66.6	196.4	263.0	311.7	574.7
	小 計		1,360.8	3,972.2	5,333.0	1,674.6	7,007.6
合 計		1,602.5	21,691.5	23,294.0	31,910.0	55,204.0	
可 住 地		1,122.4	6,709.6	7,832.0	2,944.5	10,776.5	
非可住地（注2）		480.6	14,983.5	15,464.1	28,966.2	44,430.3	

注1. 「公共・公益用地」は土地利用現況図の「公共施設用地」と「公共空地」の合計。

注2. 非可住地は、以下の通りとする。

「山林」、「水面」、「その他の自然地」、「商業用地」、「工業用地」の内で1ha以上の大規模施設用地、「公共・公益用地」、「道路用地」、「交通施設用地」、「その他公的施設用地」。

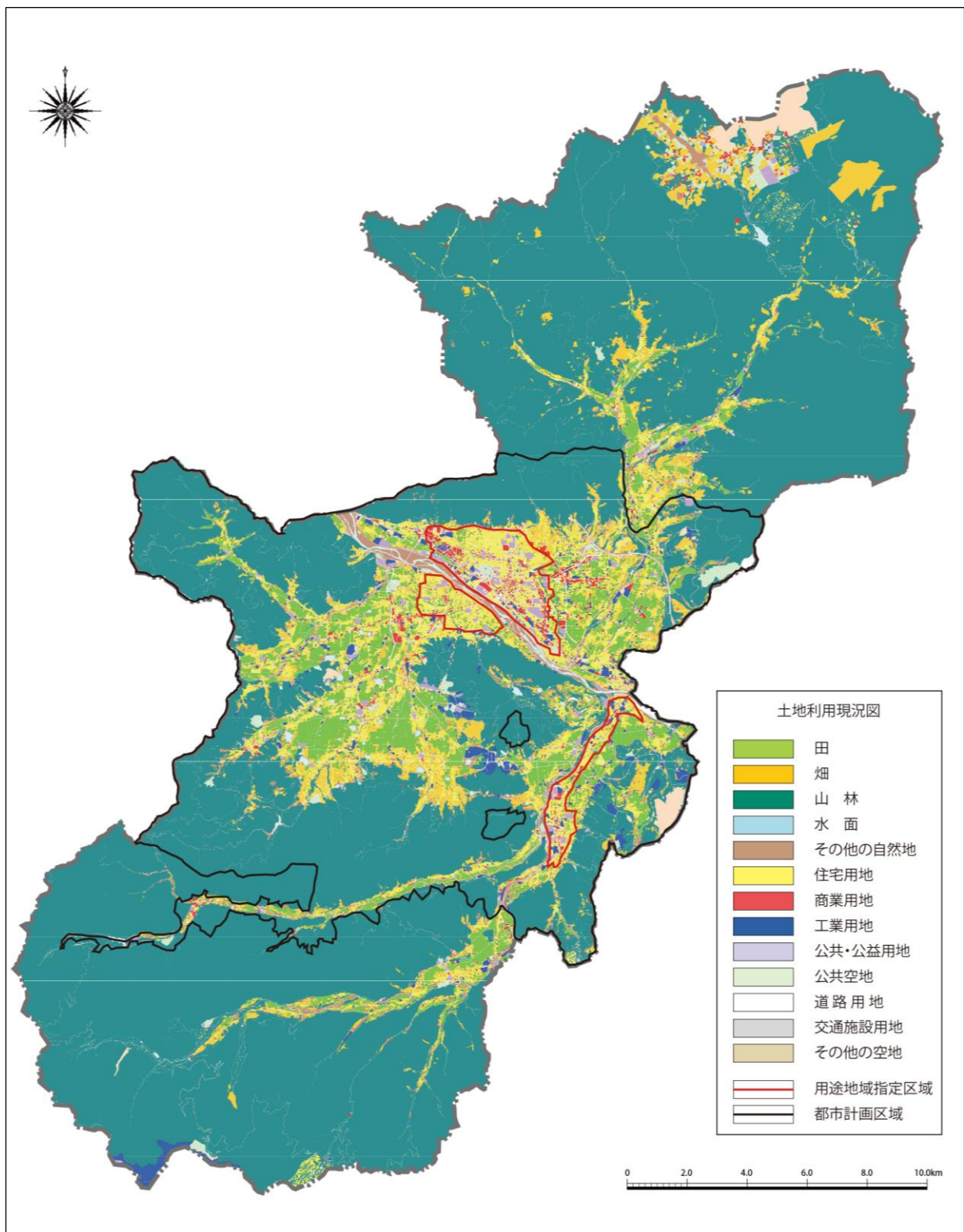


図8 土地利用現況図

## ⑤ 産業

上田市の農業は、標高差が大きく、少雨多照な気象条件を活かし、多様な農産物が生産されている。比較的標高の低い平坦地では水稻、果樹、花きなど、準高冷地では野菜や花き、高冷地では高原野菜の生産が主力となっている。真田地域（菅平高原地区）の「レタス」、川西地域の「トルコキキョウ」、丸子地域の「リンドウ」、武石地域の「ひめゆり」など地場農畜産物の産地化・ブランド化を推進している。



菅平高原のレタス畑

観光地としての上田市は、数多くの寺社や城館跡、特色ある伝統行事、二つの高原に代表される雄大な自然、由緒ある温泉等、地域の個性が際立つ豊富な観光資源を有しており、四季折々に訪れる人を魅了している。真田地域には、夏・冬のスポーツリゾート地である菅平高原や真田氏ゆかりの地に年間約 110 万人が、中央地域には、上田城跡、信濃国分寺跡等に年間約 190



美ヶ原高原

万人、塩田地域には、「信州の鎌倉」と称される塩田平、別所温泉等に年間約 80 万人が訪れる。また、丸子地域には、鹿教湯温泉や信州国際音楽村等に年間約 46 万人、武石地域には、360 度大パノラマが楽しめる美ヶ原高原等に年間約 47 万人が訪れる。

これら観光資源の魅力を高め、有機的に連携させ、さらに集客力を高める取り組みを行うとともに、農業体験やグリーンツーリズムを推進し、新たな広域体験観光にも力を入れている。

かつて「<sup>さんど</sup>蚕都」として、地域の主力産業であった蚕糸業（養蚕、蚕種、製糸）は大きな時代変化の中で衰退した。しかし、蚕糸業で培われた技術的基盤や進取の精神は機械金属工業に受け継がれ、現在は輸送関連機器や精密電気機器などを中心とする製造業が地域経済を牽引し、高度な技術を有する企業の集積が見られる。

また、平成 14 年(2002) 2 月、信州大学繊維学部内に設置した上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター：A R E C 通称エーレック)においては、地域企業と信州大学と上田市が連携し、共同研究を通して新製品の開発や技術開発などに取り組んでおり、地域産業の活性化及び産学官連携のトップランナーとして全国から注目されている。

このように上田市は、長野県東部の中核となる都市として、商業、工業、農業、観光のバランスのとれた発展を続けている。



A R E C



## ⑥ 信州上田フィルムコミッション

上田市では、大正 12 年(1923)に上田城跡内で映画「乃木大将幼年時代」の撮影が行われて以降、数多くの映画などのロケが行われ、劇場公開映画だけでも 110 を超える作品のロケ地となっている。

その背景には、年間平均降水量が 900mm と全国有数の少雨地帯でロケが安定してできること、東京から比較的近距離であること、夏冬の寒暖差が大きく四季がはっきりしていること、大人数のスタッフが宿泊できる温泉宿などがあったことが挙げられる。

そして何より、市民の娯楽として多くの映画館が建てられ、地域の財界人達の間で、上田で撮影した映画が観たいという機運が高まった。彼らは、東京の撮影所へ足を運び、上田でロケ歓迎会を開くなどの活動を行った。

前述の気候や立地条件の良さ、そして、上田市の豊かな歴史を伝える寺社建築や城郭、養蚕家屋や洋風建築、豊かな自然景観などが伝わり、数々の映画ロケが行われるようになった。

平成 13 年(2001)、信州上田フィルムコミッションが設立され、映像制作全般を対象にロケに関する手配やエキストラ・サポーター制度によるエキストラ募集などを行い、その数は年間 60 件近くにのぼり、「映画のまち」上田のさらなる発展を支えている。

表 3 ロケで使用された文化財（指定等文化財関連のみ抜粋）

文化財	主な作品名	文化財	主な作品名
信濃国分寺跡	エキストラランド	依水館	うさぎ追いしー山極勝三郎物語ー
常楽寺	世直し公務員・ザ・公証人 10	旧宣教師館	黒い福音～国際線スチュワーデス殺人事件～
千曲公園	サムライフ	宗咩寺	カノン
呈蓮寺	水で書かれた物語	真田氏本城跡	真田丸
塩野神社	過ぐる日のやまねこ	文殊堂	弁護士・迫まり子の遺言作成ファイル(5) 告発
日吉神社	TRICK(トリック)(3) Episode2	塩田城跡	JX 日鉱日石エネルギーCM
上田蚕種株式会社	犬神家の一族	小泉大日堂	EVER GREEN(RYO the SKYWALKER) MV
笠原工業株式会社	うさぎ追いしー山極勝三郎物語ー	妙見寺	裸の大將(1)～放浪の虫が動き出したので～
信州大学繊維学部	ゼロの焦点	上田高等学校	姿三四郎
鴻の巣	樗山節考	上田城跡	青天の霹靂
向源寺	けんかえれじい	芳泉寺	姿三四郎
北向観音堂	男はつらいよ 寅次郎純情詩集	毘沙門堂	姿三四郎
信濃国分寺	犬神家の一族	本陽寺	姿三四郎
大輪寺	ロストメモリーズ	塩田水上神社	呪われたパワースポット
花屋ホテル	卓球温泉	砥石・米山城跡	サマーウォーズ
山家神社周辺	過ぐる日のやまねこ	前山寺	男はつらいよ 寅次郎純情詩集
大六のけやき	好夏 2 ミントプロコトル	安楽寺	淀川長治物語 神戸編 サイナラ
生島足島神社	イカロスと息子		

## ⑦ 交通

上田市は、古代から都と東北地方を結ぶ「東山道」の拠点のひとつとして栄え、近世においては北国街道が上田城下町を通過し、長く交通の要衝となってきた。

現在の交通網としては、北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線の鉄道が上田駅を中心に接続しているほか、上信越自動車道（上田菅平インターチェンジ）、および国道、県道、主要地方道が整備されている。

市内各地を結ぶ路線バスは、市民の日常生活と、温泉地やスキー・登山等に向かう観光客を支える重要な公共交通機関となっている。

首都圏をはじめ県内外の都市とは、上信越自動車道、金沢駅まで延伸した北陸新幹線の高速交通網や、国道18号、141号、143号、144号、152号、254号、406号などの幹線道路により結ばれている。約190km離れた東京から北陸新幹線を利用すれば、最短約80分で上田駅に到着できる。

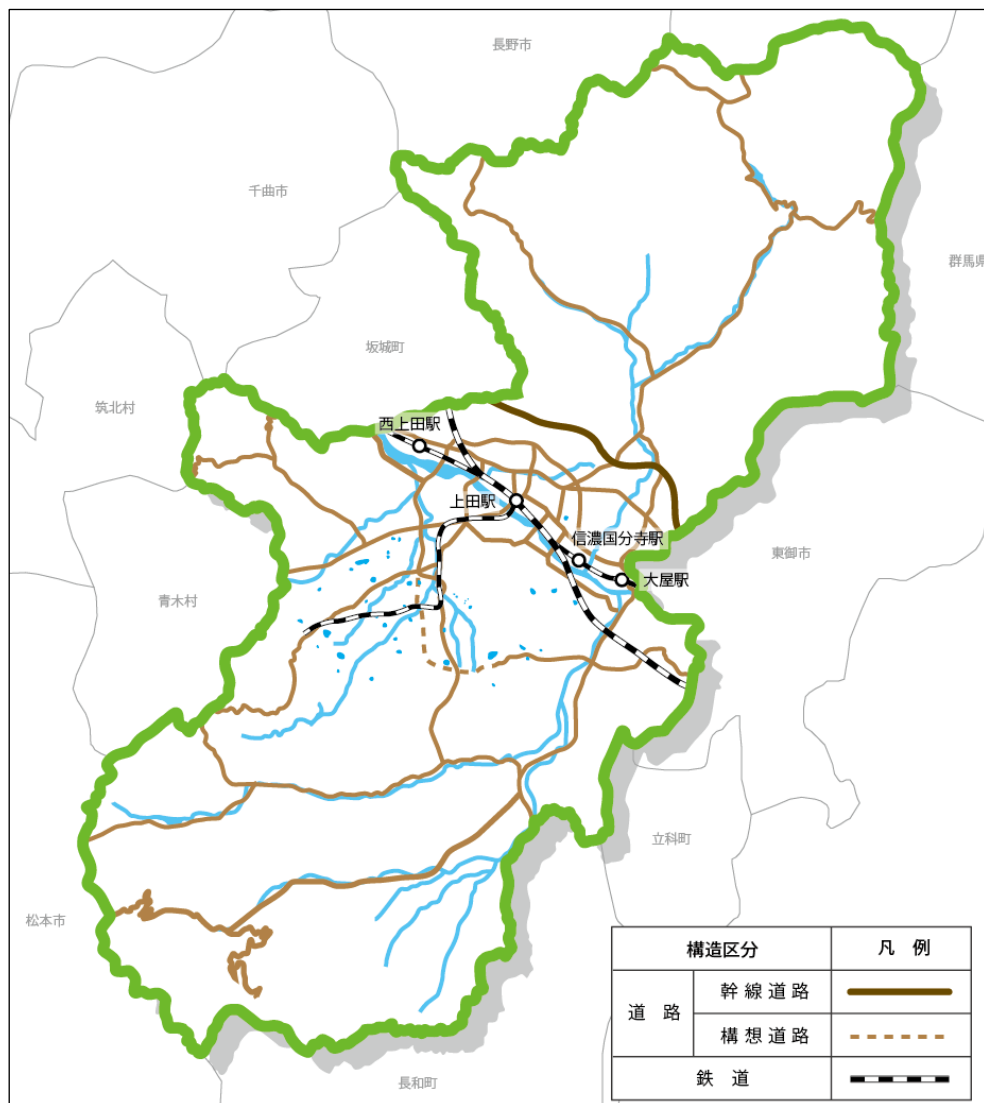


図9 市内交通網図（出典：上田市景観計画）

## ⑧ 地域内分権

上田市は、平成 18 年(2006)の丸子町・真田町・武石村との合併以降、「地域内分権」を推進し、各種施策に取り組んでいる。

「地域内分権」とは、住民の声が行政に届く仕組みづくりや各地域の実情に見合った行政サービスの提供といった行政内部の改革（地域自治センターや地域協議会の設置、地域予算の整備など）とともに、住民が主体となって住民自治組織をつくり、行政と連携しながら「地域でできることは地域で」の共助の考え方に基づく、新たな住民自治の仕組みを構築することである。地域の個性や特性が生かされたまちづくりを市民協働で推進するものであり、その中心となるものが地域協議会である。

地域協議会は、市の附属機関として、地域住民等の意見や要望を集約して行政に反映させたり、地域の重要事項の決定に意見を述べ、まちづくりの調査研究を行うなど地域のまとまりを大切にしながら地域全体の発展を図るため活動している。

現在、上田市は 9 つの協議会を設置して、地域ごとに地域課題の解消や地域作りを進めている。



図 10 上田市の地域区分図

## (2) 上田市の自然環境

### ① 気象

上田市は内陸性の気候が特徴で、年間平均降水量は 900mm と全国的にみて少雨である。年間平均気温は 11.8℃で、夏は気温の日較差が大きく、日中の気温に比べると夜間は比較的過ごしやすい。日照時間は年 2,000 時間以上あり、快晴の日は年間約 80 日に達する。菅平高原は冬期の気温が－20℃を下回ることもあり、全国でも有数の厳寒地となっている。風は年間を通じて東や西から吹く風が多いことが特徴で、これは、南や北に山々が連なっている地形の影響を受け、風が千曲川に沿って東西に吹き抜けるためと考えられる。

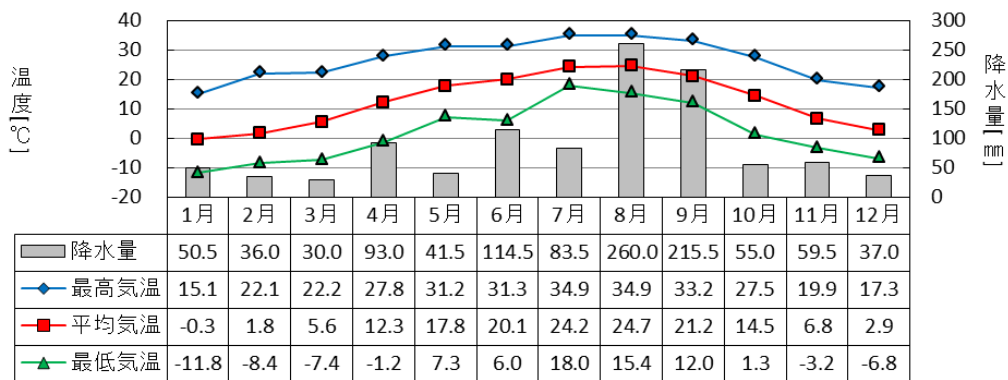


図 11 平成 28 年月別最高・平均・最低気温及び降水量の推移

上田市域は標高差が 2,000m 弱をはかり、山々や平坦地の地形の変化も著しい。したがって、地域ごとの変化が大きいのも特徴である。

こうした地域ごと、季節ごとの特徴を端的に言いあらわすことわざが多くある。春には、「八十入夜の別れ霜」や「九十九夜の泣き霜」と遅霜の被害を警告する。また、夏の別所温泉を襲う夕立を「別所の夕立と隣のボタ餅はきっとくる」、浅間山方面の入道雲を「浅間かみなり音ばかり」といい、「黄金沢・太郎山から夕立がくると大雨大風になる」、「美ヶ原からの夕立は最も強い」、「別所と小牧の夕立きっと来る」などということわざもある。冬の降雪についても、「浅間山や烏帽子岳に 3 回雪が降ると里にも降る」という。さらに地域ごとにも、「太郎山に逆さ霧かかると雨」、「太郎山に逆さ霧かかると寒くなって霜がおりる」など、地域ごとに長年培われた気象に関連した数多くの言い伝えやことわざがある。

### ② 地形と地質

上田市は、北に太郎山(1,164m)、北東に四阿山(2,354m)、東に烏帽子岳(2,066m)、南に美ヶ原高原(最高峰は王ヶ頭の 2,034m)、西に夫神岳(1,219m)など 1,100～2,300m 級の山々に囲まれている。また、上田市域には、大小あわせておよそ 120 の河川が存在し、千曲川へと合流する。

市の中心部に位置する上田盆地は、中央を千曲川が北西行し、その右岸には神川、左

岸には依田川、内村川、産川、浦野川などが流れ、河岸段丘が発達している。このほか、断層活動による崖地形も見られ、上田盆地の西端に千曲川を挟んで 100mを超える断崖が向き合う地形があり、「岩鼻」と呼ばれている。活断層の活動と千曲川の侵食により生み出された狭隘部<sup>きょうあいぶ</sup>であり、かつては北国街道が通じる交通の要衝であった。



岩鼻と呼ばれる断崖

盆地を囲む山々の谷口や崖地形が発達しているところでは、扇状地が広がっている。また、市域の中で、染屋台地や千曲川北岸の国分・常田・常盤城・秋和などの地区、千曲川南岸の御所・諏訪形・中之条・下之条の一带、さらに仁古田・小泉地区などの平坦地、丸子地域の丸子・塩川・依田などにおいて、水田が畦畔や用水・農道などによって、碁盤目のように区画された条里水田跡や条里遺構が見受けられる。これらは、最近の遺構調査によって、古代末から中世に条里制を模して地割りされたものと推定されている。

上田盆地は、今から約 1,700 万年前から 520 万年前までの間、“フォッサ・マグナ”と呼ばれる海が広がっていた地域である。上田市域の海成層は、最下位の最も古い地層から最上位の新しいものへ内村層・別所層・青木層・小川層に区分されている。内村層は、新第三紀中新世前期の 1,500 万年から 1,700 万年前の堆積物で、緑色凝灰岩（グリーンタフ）と呼ばれる岩石をはさんでいることが特徴である。太郎山や独鈷山系の山に内

表4 上田地域の地層区分表

年 代 区 分			地 層 区 分		主な火成活動		大型動物化石			
1700万年 1500万年 1400万年 1100万年 520万年 170万年 70万年 13万年 1万年	第 三 紀	新 世	完 新 世	古代 弥生 縄文	扇状地、崖錐堆積物 上田湿地性堆積物	湖 沼 の 堆 積 物	上田泥流	ナウマンゾウ(下本郷、青木村当郷)、 アジアノロバ(上室賀)、エゾシカ(神 畑)、ヤベオオツノシカ(青木村当郷) アケボノゾウ(丸子町塩川)		
				更 新 世					旧石器時代	上田原湖成層 新期上小湖成層 古期上小湖成層
			生	鮮 新 世	おお くい 大 杭 層		も ぞわ 茂沢溶結凝灰岩			
					中 新 世		小 川 層		半過岩鼻角閃石英英ひん岩 太郎山天狗岩流紋岩 弘法山石英安山岩	
		青 木 層		海 の 堆 積 物			小泉凝灰岩 独鈷山玄武岩質安山岩 緑色凝灰岩			
		別 所 層								
		うち むら 内 村 層								
		漸 新 世		始 新 世	暁 新 世					
6500万年										



村層の岩石が見られ、太郎山の緑色凝灰岩は、上田城の石垣に使用され、城下の寺社の参道等にも多用されている。

別所層は、フォッサ・マグナの海が最も広がった中新世中期の1,400万年から1,500万年前ごろに堆積した地層で、ほとんどが黒色の泥岩層であるが、小泉では凝灰岩層も見られる。動物や植物の化石をたくさん含んでおり、主に別所温泉・浦里・小泉・伊勢山などに分布している。

青木層は、1,100万年から1,400万年前ごろの地層で、砂岩と泥岩が互い違いに重なっている互層が主で、礫岩層をはさんでいる。上田市では、富士山・野倉・浦里・室賀などに見られ、上田市指定名勝の「鴻の巣」で顕著に見られる。青木層には、貝の化石や有孔虫の化石、ノジュールなどが含まれる。ノジュールは、堆積岩中に成分の異なる物質が丸味をもった大小さまざまな塊として含まれるもので、武石地域の緑廉石、通称「焼き餅石」はこの一種である。

小川層は520万年から1,100万年前ごろの地層で、砂岩と泥岩の互層や礫岩層が主であるが、小牧山地域にある安山岩質の凝灰角礫岩層も小川層に含む。

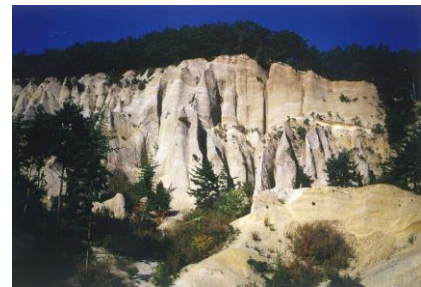
大杭層より上部の地層は、湖沼であった頃の堆積層であり、古期上小湖成層、新期上小湖成層、上田原湖成層が不整合に重なる。これらの分布から次第に、湖沼から盆地へと移り変る様子をうかがうことができる。また、下本郷の新期上小湖成層からはナウマンゾウの歯の化石も発見されている。



上田城南櫓石垣（緑色凝灰岩）



シナノイルカ化石



礫岩が堆積した崖（鴻の巣）

### ③ 植生

上田市は太平洋側と日本海側の境目にあたり、多様な植物分布が見られる点が植生の特徴である。

上田市域の平地は標高500m前後に位置することから、植生の垂直分布では丘陵帯から低山帯へと移る付近に相当する。現在の多くは人工林・天然林であり、里山として人による管理が行われてきた。アカマツは建築材や杭、家庭用燃料、松明や門松、ついには戦争中の松根油にいたるまで、幅広く利用されてきた。また、落ち葉や枯れ枝は焚きつけなどに利用されてきた。アカマツ林は、マツタケの産地として重用されてきたが、里山の荒廃とマツクイムシの被害により徐々に減りつつある。

里山ではほかに、コナラやクヌギ林を多く見ることができる。通称染屋台といわれる大段丘沿いには、ケヤキ林が帯状に続き「グリーンベルト」と呼ばれる特徴的な景観と

なっている。

山地のうち、標高 2,000m前後の烏帽子岳や、菅平高原・美ヶ原高原の山々の植生は自然度が高く、常緑針葉樹林の優占する亜高山帯、その上部は低木や高山植物が見られる高山帯に属している。菅平高原は、根子岳・四阿山の麓に広がる 1,300mの高原で、レンゲツツジやイワカガミなどの高山植物が自生する。美ヶ原高原は、標高約 2,000mの溶岩台地で、夏には広大な草原にニッコウキスゲやヤナギランなど 200 種類以上もの亜高山植物が見られる。

また、岩鼻は標高 1,000m以下の山ではあるが、千曲川沿いの断崖は強い風が常に吹いて涼しく、岩場にモイワナズナという寒地性植物の自生地がみられる。



段丘縁に続くグリーンベルト

#### ④ 動物

千曲川は魚の種類が豊かで、貴重なタンパク源の供給源でもあった。なかでも長野県東部に伝わる「つけば漁」は、江戸時代から続くといわれる伝統的な漁法である。ハヤの産卵の習性を利用して、人が産卵場所を作ったり、活きの良いハヤを入れた種箱を川に沈め、その匂いで下流からハヤをおびき寄せたりして、簾や投網などで捕獲する漁である。

千曲川の川原と中洲には、魚や川虫を食べるサギなどをはじめ、春から夏に子育てをするコチドリ、秋に南へ渡る前のねぐらに使うツバメなどもいる。

さらにバッタやコオロギなど、小さな動物にも川原をすみかにしているものがある。

山の水源に恵まれない塩田平の水田地帯と周りの山あいにはため池が数多くあり、このような環境は、動物たちの種類や分布に大きく関係している。ため池では、カイツブリが小魚を餌に雛を育て、冬はカモ類がやってくる。特にため池では止水性のギンヤンマ、シオカラトンボ、アカトンボなどのトンボが豊富である。一方、マダラヤンマは、その生息数が激減している。

黄金沢のヒメギフチョウのように乱獲によりいなくなったものや、川の汚れや三面コンクリート用水路になって姿を消すカラスガイのような動物もたくさんいる。一方で、今まで里にいなかった動物が見られるようになり、特別天然記念物のニホンカモシカは、数が増えて食害も懸念されている。また、イノシシやホンシュウジカ、ニホンザルも出没するようになった。千曲川では大きなアオサギが、さらにアマサギが入ってきた。ブラックバスは、池の魚ばかりか水中のあらゆる動物を食べ、水中の自然を破壊しながら増えている。



つけば漁

産卵期のハヤ（ウグイ）は、河床の砂場に産卵する。この「たねつけ」する場、から「つけば」といわれる。

## (2) 上田市の歴史環境

### ① 旧石器時代～縄文時代

上田市で石器が出土する最も古い地層は、菅平高原の約2万年前の旧石器時代のものである。塩田地域の堰口ノ一遺跡<sup>せんげぐちのいち</sup>、真田地域傍陽地区の新地蔵峠遺跡や本原地区の境田遺跡などでも、この時代の石器が発見されている。

土器を使い始めた縄文時代草創期(15,000～12,000年位前)の遺跡は、菅平高原の小島沖遺跡などに知られるが石器が出土したのみで、竪穴建物跡や土器は検出されていない。早期(12,000～7,000年前)の遺物は、菅平高原の大松山遺跡や神科・豊殿地域の大日ノ木遺跡、城南地域の上田原遺跡群、丸子から武石地域等、標高の高い高原だけでなく標高の低い台地からも発見されている。前期(7,000～5,500年前)もほぼ同様ではあるが、真田地域の四日市遺跡では集落跡が発見されている。

長野県を含む中部高地は、縄文時代中期になると人口が増え、見事な模様の縄文土器や土偶が出現するなど、縄文文化の栄華を極める。市内でも前期末から中期(5,500～4,500年前)に集落が増え、神川流域(四日市遺跡・八千原遺跡・浦沖遺跡)や黄金沢扇状地(八幡裏遺跡群)、武石川から依田川流域(岩ノ口遺跡・中丸子遺跡ほか)において、大きな集落遺跡が発見されている。後期(4,500～3,300年前)の遺跡には、八千原遺跡、八幡裏遺跡群、丸子地域の深町遺跡、真田地域の雁石遺跡があるが、遺跡数は激減する。続く晩期(3,300～2,800年前)には浦野川流域の下前沖遺跡、上田原遺跡群、大日ノ木遺跡、雁石遺跡、四日市遺跡等において遺構と遺物が見つかるが、その量はごくわずかであり、隆盛を極めた縄文文化の面影は既になくなりつつあったようである。



八千原遺跡の敷石建物跡

### ② 弥生時代

千曲川流域に稲作が伝えられた時期は明確ではないが、弥生時代中期になると長野盆地や佐久盆地で大規模な集落が営まれるようになり、上田市では後期後半になってようやく集落が出現したようである。集落の立地は河岸段丘上や自然堤防など、冠水しにくく、稲作に適した低湿地の近くが選ばれている。

千曲川右岸では、中央地域の常入遺跡群下町田遺跡や西部地域の宮原遺跡等がある。千曲川左岸では、浦野川流域や産川流域に多くの集落遺跡の分布がみられる。また、室賀川の段丘上にある岳之鼻遺跡<sup>だけのはな</sup>から出土した遺物・遺構からは、複数の集団による稲作や機織りなどが行われていた生活の風景が想像され、弥生後期の大規模な拠点集落とみられている。



下町田遺跡の建物跡と土器

菅平高原の唐沢岩陰遺跡は、縄文時代から古墳時代まで続く生活の跡で、特異な例として知られる。太郎山中腹にある、弥生終末期から古墳時代初頭の上平遺跡は、時代の



転換期の短い間に出現した高地性集落で、外部からの侵入者に対する緊張関係をうかがわせる。

### ③ 古墳時代

上田市域には142件の古墳が確認されており、神川沿岸や塩田地域に多くみられる。その築造は遅く、4世紀後半に方墳、6世紀前半に前方後円墳が見られる。これは、同じ千曲川水系にある森將軍塚古墳（千曲市）を築いた更埴地方のように、大きな政治的権力が育っていなかったことを物語るとともに、上田市域が中央政権の影響下に置かれるのが他地域に比べて遅かったためと考えられている。

また、長野県の古墳からは馬具の出土が多いが、上田市でも真田地域の鶴ノ子田古墳、塩田地域のお田塚古墳・塚穴原1号墳、神科・豊殿地域の法楽寺遺跡内の古墳から、飾



図 12 古墳時代の遺跡（古墳の分布と集落等）

り馬の埴輪の破片、馬具、馬の頭部の骨が出土しており、馬が飼育されていたことが推測される。

その他、5世紀中ごろの丸子地域にある鳥羽山洞窟遺跡は、古墳以外の葬送儀礼を知ることができる点が貴重である。

集落遺跡は、古墳時代前期は小規模なものが多く、後期になると大規模な事例が出現する。その代表的な例が国分寺周辺遺跡群で、居館の濠とみられる方形の溝が発見されている。また、丸子地域の社軍神遺跡からは玉作り工房跡が検出され、畿内のヤマト政権と結びついた玉造の専門技術者の存在が想定されている。

#### ④ 奈良・平安時代

奈良時代になると、大宝律令のもとで信濃国府が設置され、中央から国司が派遣された。国府の所在は明らかではないが、「和名類聚抄」には筑摩郡（松本市）にあったと記されている。ただし、信濃国分寺は上田市にあり、国府と国分寺は近接して設置されるのが一般的であることから、国府は9世紀頃に上田から筑摩郡に移ったと考えられている。上田における国府の所在地は、関連地名や条里的遺構が残る染屋台や、信州大学繊維学部周辺が有力とされている。

畿内と東山道諸国の国府を結ぶ道としての東山道の経路については、初期の東山道は伊那郡から直線的に佐久方面へと抜けていたようである。その後、官道として整備された後は筑摩郡を経由するようになり、この時点で上田地域を通過するようになった。詳細な位置は不明ではあるが、信濃国分寺跡に近い千曲川沿いを東に向かって上野国へ抜けていたことは確かで、小県郡には、国府・国分寺・東山道があり、信濃国の政治・経済の拠点であったと考えられる。

信濃の政治の中心となった小県郡には、童女、山家、須波、跡部、安宗、福田、海部の7つの郷が置かれている。塩田地域には信濃国の古社・生島足島神社が祀られ、その付近一帯には「あそ（阿曾・安曾）」という地名や、「他田塚」と言われる古墳が残されている。こうした地名はいずれも信濃の国造くにのみやつこに関係があると考えられており、塩田地域にいた国造（地方豪族）は、次第に中央政府の支配下に入り、代わって中央から各国に派遣された役人（国司）が治めるようになる。

『延喜式』には、信濃国東部の牧として望月牧・新治牧・長倉牧・塩野牧・塩原牧がみえる。上田市の古代の牧としては、塩原牧が青木村の小檀嶺岳の山麓一帯に残されている上田市浦野の「馬越」や青木村の「牧寄」など牧に関する地名の分布や、浦野の「馬背神社」の存在などを考え合わせると、古代の勅旨牧の一つの塩原牧があったと考えられる。牧の管理には、高度な技能を持つ人たちが必要で、渡来人等が携わっていたことも考えられる。

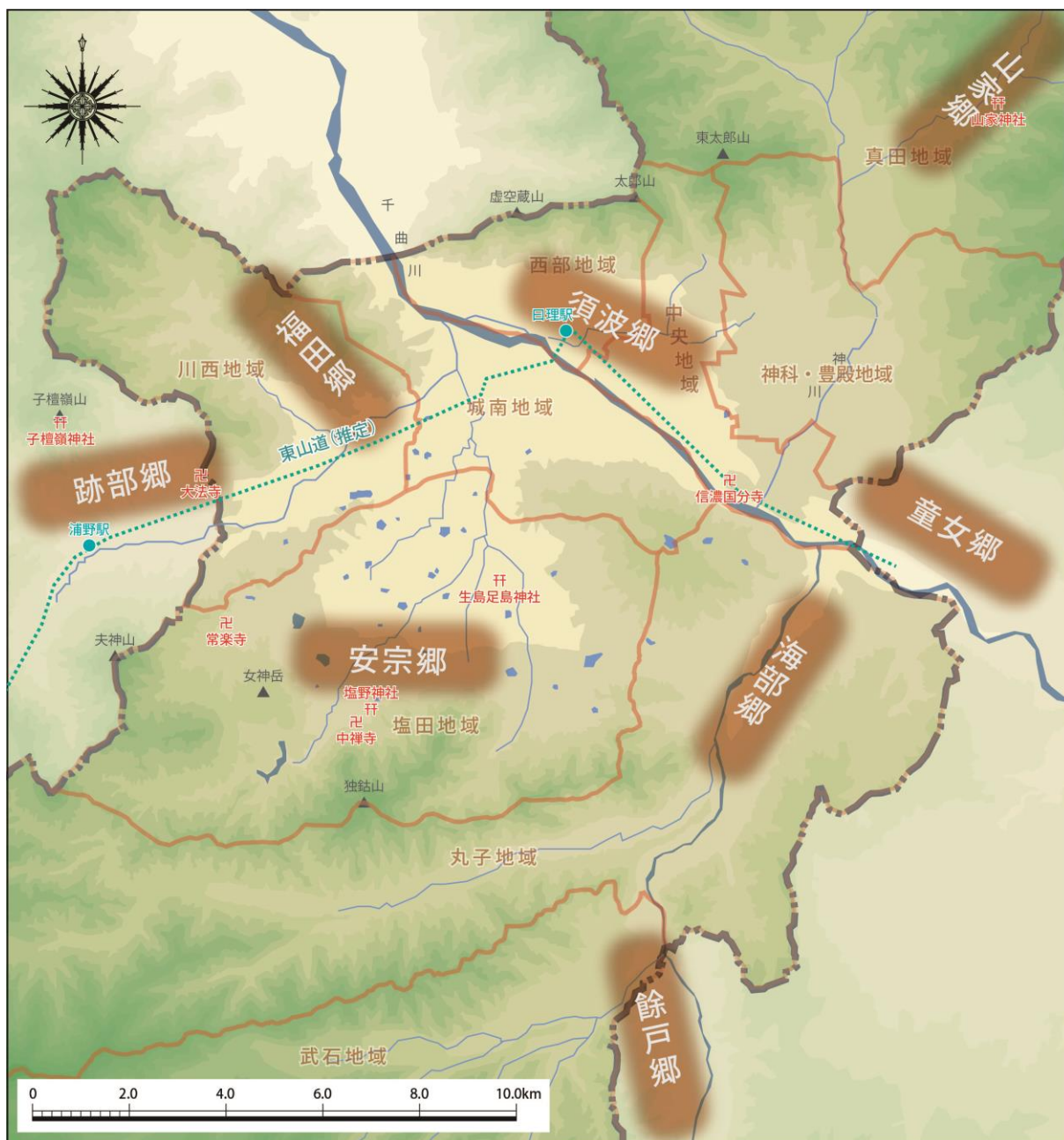


図13 古代の上田（東山道と8つの郷）

#### ⑤ 中世

律令制度が崩壊に向かう平安時代末、開発領主の寄進により貴族や寺社が経営する荘園が数多く成立した。「吾妻鏡」には、上田市域の浦野庄、塩田庄、小泉庄、常田庄、依田庄の5つの荘園と、塩原牧、新張牧、塩河牧の3か所の牧の名が見られる。

この時代、地方武士達が勢力の増大を目指して都に向かった。治承4年（1180）、依田庄依田館（丸子地域）を根拠地に木曾義仲<sup>もちひとお</sup>が以仁王<sup>りやうじ</sup>の平家打倒の令旨に応じて兵力を集めて挙兵した。義仲は上洛していったんは政権の中枢に座ったが、その後敗北して源氏の世となると、武士達は鎌倉御家人を指向するようになった。このような武士としては、海野氏、祢津氏、泉氏、浦野氏などが挙げられる。一方、それまで有力者だった塩



田氏などは義仲に与したために所領を失う結果になったとみられている。

鎌倉時代の塩田平では幕府の重臣である島津氏、その後は北条氏が地頭職をつとめ、北条義政が移り住んだあとは塩田北条氏が三代 60 年間にわたって治めた。塩田守護所と鎌倉を結ぶ鎌倉道が整備され、北条氏の庇護もあり、塩田平は「信州の学海」と称されるまでに繁栄した。

なお、正安3年(1301)に、僧明空が記した『宴曲抄』の「善光寺修行」には、碓氷峠から善光寺への道筋をたどった節がある。臼井山(碓氷峠)以降、軽井沢町の離山、東御市の桜井、上田市の岩下・塩尻を通過して、善光寺に向かっており、ほぼ中山道から北国街道に沿った道筋が14世紀初頭にあったことを示し、この一部が古代東山道の道行きではないかとも推定される。

鎌倉幕府が滅亡して信濃から北条氏の勢力が消滅すると、上田市域も在地の領主による争乱の時代に入り、坂城町にある葛尾城を本拠とする国人領主村上氏が支配を広げた。

天文年間、甲斐の武田氏と上田小県の領主村上氏は、上田原と砥石城で二度にわたって相まみえる。勝負はいずれも武田氏の大敗に帰したが、砥石城は天文20年(1551)、武田家臣・真田幸隆の調略によって乗っ取られる。



図14 中世の上田（鎌倉道と荘園・牧）

武田氏滅亡後の戦乱の世で、幸隆の子昌幸は小県郡一円を支配下に収め、天正 11 年(1583)には上田城の築城を開始した。また、現在の市街地の骨格をなす城下町づくりも行った。

真田氏は上杉氏や羽柴（豊臣）氏に臣属し、天正 13 年(1585)の第一次上田合戦と、慶長 5 年(1600)の第二次上田合戦において上田は徳川勢の攻撃にさらされたが、よくそれをしのいだ。関ヶ原合戦の東軍勝利の後、上田城は破却されたものの昌幸の嫡男信之が沼田・小県を合わせた 9 万 5 千石を領して上田城主となり、領域支配を確固たるものとした。

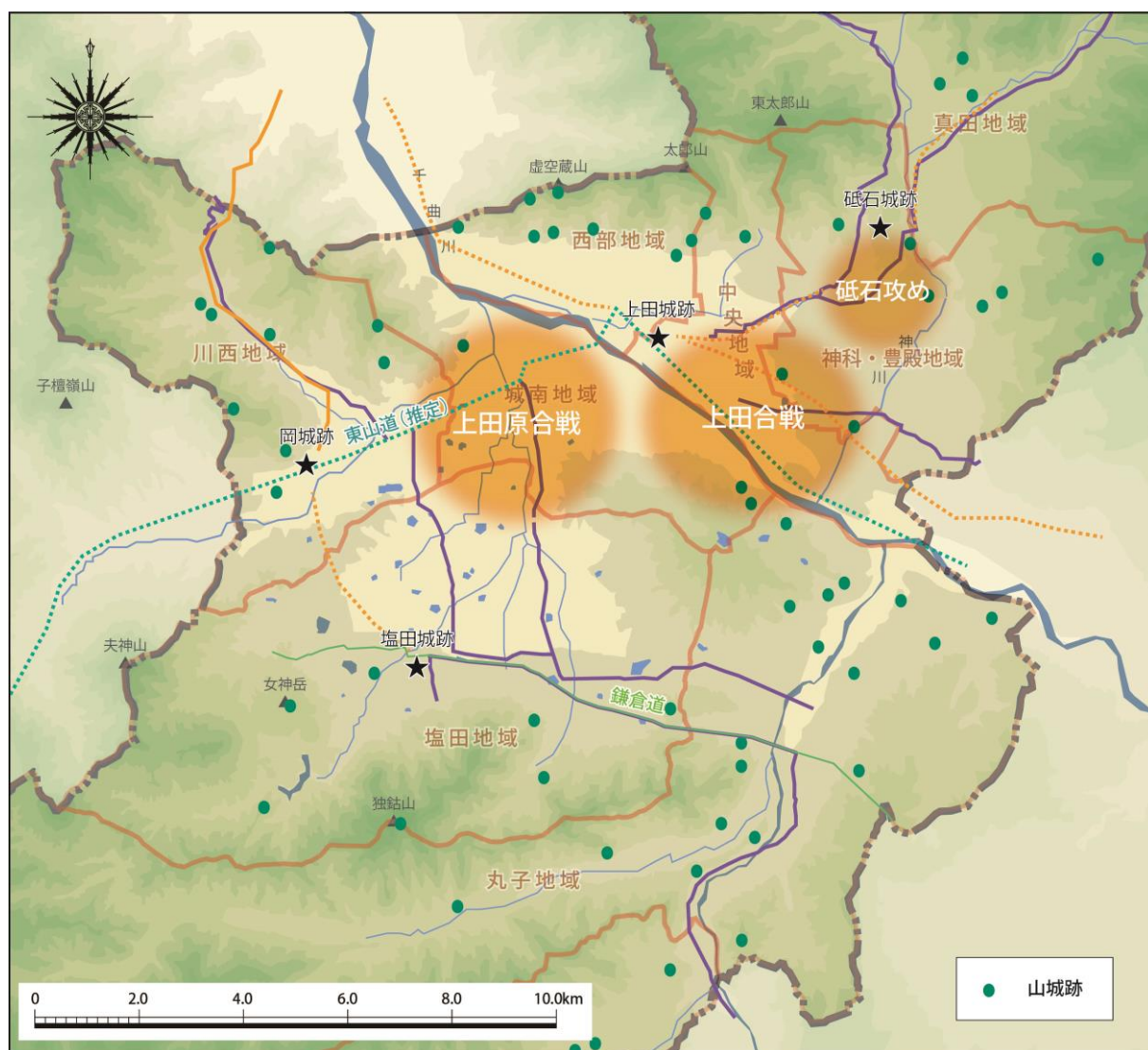


図 15 戦国期の上田（軍事道路と城郭）

## ⑥ 近世

徳川幕府の時代、現在の上田市域のほとんどは上田藩領であったが、丸子地域の一部は岩村田藩や小諸藩の藩領であった。上田城（藩）主は真田氏（1601～1622）から仙石氏（1622～1706）、松平氏（1706～1868）と代わる。現在の上田城は仙石忠政が



復興したもので、城下町の整備も寛永頃までにはおおむね完成した。

上田は城下町であると同時に北国街道の宿駅を兼ねており、流通の拠点となった。また、松本に向かう保福寺道、上州に向かう上州道、別所に向かう別所道、北国街道の北に平行して小諸に向かう柵津道などの発着点となり栄え、様々な産業が育った。特に上田紬は上田の有名な産物となり、蚕種製造や養蚕とともに、大きな発展をみせた。

近世には、それまで布製品の主流だった麻布は次第に生産が減少し、変わって木綿布が急速に伸びている。同時に、絹や紬は徐々に生産量を増やし、藩からのまとまった需要にも応えるようになっていた。17 世紀中ごろには、上田地方の村々では、絹・紬の生産の材料となる生糸が生産され、養蚕と桑の栽培が広く普及していたと考えられる。

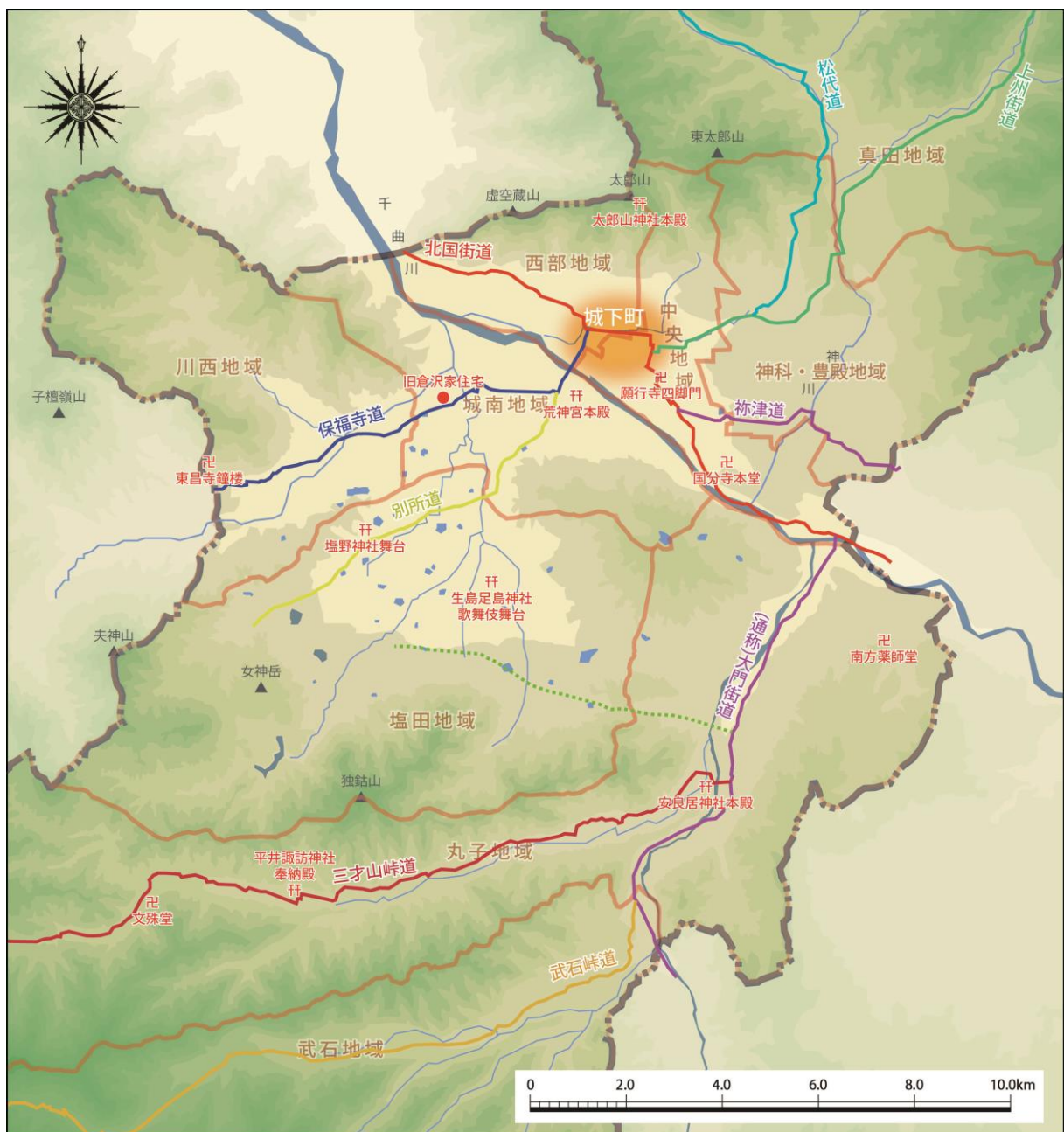


図 16 近世の上田（北国街道・往還と文化財）

また、上田市の名産である上田繭は、広く町人の間で常用されており、全国に送り出された。上田市で生産された繭は、上田繭などに利用され、その他は上州方面の商人に売り渡されていた。

新田開発は、仙石氏の時代にほぼ終わり、それ以後の開発は、刈畑や税のかからない見取畑など、条件の悪い土地が中心となったと考えられる。ただし、千曲川沿いの諏訪部村や上塩尻村・下塩尻村などのように、養蚕業や蚕種業の成長に伴って河川敷の開発が進み例外的に新田が大幅に増加した村もある。ため池の築造は、仙石氏の時代に盛んとなるが、新田開発よりは、旧来の水田の水確保が目的であった。

## ⑦ 近代

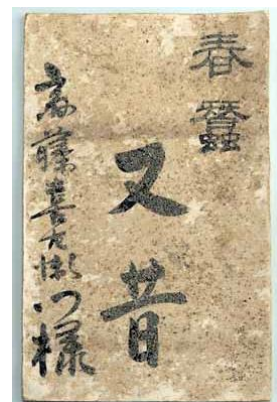
日本の近代化にあたり、政府は生糸製糸業の振興に力を注ぎ、明治5年(1872)官営富岡製糸場を設置し、製糸の機械化と大量生産をはかる。当時、長野県は全国でも有数の養蚕地域であった。上田市においては、蚕種製造でヨーロッパを凌駕する技術を有し、この蚕種製造技術が日本製糸業の発展の礎となっていた。

明治初期からの「蚕都上田」と呼ばれる上田の蚕糸業は、蚕種・養蚕・製糸・絹織業が互いにかかわりあって発達した。明治6年時点の蚕種製造家は、上塩尻が159軒と最も多く、次いで小泉地区の115軒などとなっている。また、上塩尻と下塩尻の明治6年の輸出用の蚕種は15,866枚で、小県郡全体の輸出用の蚕種は353,421枚である。明治6年の日本の蚕種輸出枚数は1,418,809枚であり、総輸出量の25%を小県郡で製造していたことになる。

上田市の近代化に、決定的な役割を果たしたのが信越線の開通である。明治26年(1893)、信越線は上野―直江津間が全線開通し、輸出港である横浜まで直結する輸送路が確立し、世界的な商圈の拡大につながった。

明治40年(1907)、帝国議会は国富を支える蚕糸業をさらに発展させるため、蚕糸専門学校の設立案を可決した。可決と同時に長野県への設置が内定し、県内の設置場所を巡っては、上田町とともに小県郡や上田商工会議所も加わった熱心な誘致運動により、明治41年に上田への設置が決定、明治44年に上田蚕糸専門学校（現信州大学繊維学部）が開校した。

また、温泉や高原を開発する機運も盛んとなる。別所温泉は、大正6年(1917)に別所で蚕種・旅館業を営んでいた南条吉左衛門が、みすず飴を製造販売する飯島商店の飯嶋新三郎らとともに花屋ホテルを創業した。大正8年には温泉へ湯治客を運ぶ別所線の建設を企図し、大正10年に開通すると、別所温泉は一気に温泉観光地として繁栄する。菅平高原は、昭和2年(1927)に上田駅から真田地域の本原や傍陽に向かう真田傍陽線が開業すると、観光開発が進んだ。昭和5年(1930)にはオーストリアのスキー指導者シュナイダーが来日し、日本の近代スキーが始まる。



蚕種

蚕種とは蚕の卵であり、産みつけた和紙（台紙）も蚕種と呼ばれる。黒く見える小さな粒が蚕種。

こうした近代都市の発展とともに、大正時代には、金井正らが民衆の労働と結びついた自由大学運動を展開した。また、この運動を通じて、山本<sup>かなえ</sup>鼎や高倉輝、倉田白羊らとの親交が始まり、農民美術運動などの新たな文化を展開した。

第二次世界大戦の戦況が悪化すると、疎開工場が上田にも出来、陸軍上田飛行場に供給する飛行機製造の地下工場が仁古田や東塩田の山中に造営された。この当時のいわゆる『戦跡』も市内には数多く残っている。



図17 近代の上田（鉄道網）



## 2 上田市の指定等文化財

### (1) 指定等文化財の一覧

上田市には、平成 30 年(2018) 10 月現在、国宝を含む国指定・選定・登録等の文化財が 39 件、長野県指定文化財（選択含む）は 27 件、上田市指定文化財は 237 件、合計で 303 件である。

表 5 文化財件数（平成 30 年 10 月 1 日現在）

区 分		種 類		国指定・選定 ( ) は国宝数	県指定・選択	市指定	合 計
文化財の類型	指定・選定	有形文化財	建造物	7 (1)	10	38	55
			美術工芸品	7	11	83	101
		無形文化財		0	0	4	4
		民俗文化財	有 形	1	0	14	15
			無 形	0	0	14	14
		記念物	史 跡	3	4	45	52
			名 勝	0	0	7	7
			天然記念物※1	3	3	30	36
		文化的景観		0			0
		伝統的建造物群		0			0
	登録・選択他	有形文化財建造物（登録）		12 ※3			9
		無形民俗文化財（選択）		3	1		3
		国重要美術品※2		3			3
合 計				39	27	237	303
その他		選定保存技術		0	0	0	0
		埋蔵文化財包蔵地		868			868

※1 地域を定めないカモシカ等は件数に含んでいない。

※2 旧法（重要美術品等ノ保存ニ関スル法律）において認定されたもの。

※3 未告示の 2 件を含んでいる。

#### ① 国指定・選定・登録等の文化財

国宝を含む国指定・選定の文化財が 21 件あり、これらの種別としては重要文化財（建造物・美術工芸品）、重要有形民俗文化財、史跡、天然記念物に指定されている。このうち最も多いのが重要文化財（建造物）である。特に鎌倉時代から室町時代にかけての寺院建築が塩田地域に集中していることが特徴で、その代表的なものが国宝安楽寺八角三重塔である。

指定文化財以外には、登録文化財建造物が 12 件、記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財が 3 件、重要美術品が 3 件ある。なお、昭和 25 年(1950)の文化財保護法施行に伴い廃止された旧法「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」により認定を受けた重要美術品については、現在も効力を有するものである。

このほか、文化財保護法において保護の対象としている埋蔵文化財は、本市域に 868 件ある。

② 県指定・選択文化財

長野県文化財保護条例に基づき、有形文化財（県宝）19 件、長野県史跡 4 件、長野県天然記念物 3 件が指定されている。無形文化財と民俗文化財の指定事例はない。

また、県条例には選定保存技術の制度があるが、上田市内の事例はない。無形民俗文化財の選択制度もあり、「別所岳の幟りの習俗」が含まれている。

③ 市指定文化財

上田市文化財保護条例に基づき、上田市有形文化財 123 件、上田市無形文化財 4 件、上田市民俗文化財 28 件、上田市史跡名勝天然記念物 82 件が指定されている。このうち、最も数の多い有形文化財（美術工芸品）85 件については、仏教関係の彫刻や古文書などが多い。つづいて数の多い市史跡は、45 件のうち古墳や墓所が多い。

また、条例には、選定保存技術の制度があるが、事例はない。

なお、上田市文化財保護条例は平成 18 年(2006) 3 月 6 日に施行されたもので、合併前の上田市文化財保護条例(昭和 62 年上田市条例第 18 号)、丸子町文化財保護条例(昭和 40 年丸子町条例第 47 号)、真田町文化財保護条例（昭和 45 年真田町条例第 9 号）又は武石村文化財保護条例（昭和 43 年武石村条例第 5 号）の規定に基づき、指定された文化財を継承している。

表6 指定等文化財一覧表（左欄の「図番記号」の表記は、図18～20の文化財分布図と対応する。）

国指定文化財									
図番記号	種別	No.	名称	所有者	所在地	指定年月日	員数	時代	内容
1 ★	重要文化財	建造物	1 安楽寺八角三重塔	安楽寺	別所温泉 2361	S27.3.29	1	鎌倉時代末期	八角三重塔婆、初重裳階付、こけら葺、高さ 18.56m、附仏壇（1基）、附棟札（1枚）
2 ▲			2 国分寺三重塔	国分寺	国分 1052	M40.8.28	1	室町時代中期	三間三重塔婆、銅板葺、高さ 20.10m、附棟札（5枚）
3 ▲			3 前山寺三重塔	前山寺	前山 300	T11.4.13	1	室町時代後期	三間三重塔婆、こけら葺、高さ 18.07m
4 ▲			4 法住寺虚空蔵堂	法住寺	東内 4313-イ、ロ	T11.4.13	1	室町時代	桁行三間、梁間四間、入母屋造、こけら葺、附厨子（1基）、附棟札（1枚）
5 ▲			5 中禪寺薬師堂	中禪寺	前山 1721	S11.9.18	1	鎌倉時代前期	桁行三間、梁間三間、宝形造、茅葺、附棟札（2枚）
6 ▲			6 常楽寺多宝塔	常楽寺	別所温泉 2347	S36.3.23	1	鎌倉時代（13世紀）	石造多宝塔、安山岩、総高 274cm
7 ▲			7 旧常田館製糸場施設	笠原工業（株）	常田 1-10-3	H24.12.28	7	明治 36 年他	三階蔵倉庫、四階蔵倉庫、五階蔵倉庫、五階鉄筋蔵倉庫、襖蘭場、事務所兼住宅、文庫蔵
8 ▲		彫刻	8 木造惟仙和尚坐像	安楽寺	別所温泉 2361	T12.3.28	1	鎌倉時代末期（嘉暦 4 年 1329）	桧材、寄木造、彩色、玉眼嵌入、像高 74.4cm
9 ▲			9 木造恵仁和尚坐像	安楽寺	別所温泉 2361	T12.3.28	1	鎌倉時代末期（嘉暦 4 年 1329）	桧材、寄木造、彩色、玉眼嵌入、像高 75.1cm
10 ▲			10 薬師如来坐像	中禪寺	前山 1721	T12.3.28	1	平安時代後期（13世紀前半）	寄木造、附木造神将立像（1軀）
11 ▲			11 銅造菩薩立像	長福寺	下之郷 541	S15.10.14	1	白鳳時代（7世紀後半）	銅造、像高 36.7cm
12 ▲		工芸品	12 小文地桐紋付韋胴服	上田市	二の丸 上田市立博物館	S51.6.5	1	室町時代後期（16世紀）	鹿なめし革、表（小紋染）、裏（濃茶染）、身丈 89.0cm
13 ▲		古文書	13 生島足島神社文書	生島足島神社	下之郷 701	S62.6.6	94	室町時代後期から江戸時代初期	起請文 83 通、寄進状他 11 通
14 ▲		歴史資料	14 反射望遠鏡	上田市	二の丸 上田市立博物館	H24.9.6	1	江戸時代後期（天保 5 年 1834）	グレゴリー式反射望遠鏡、国友一貫斎作、附覚書（1通）
15 ▲	重要有形民俗文化財		15 染屋焼コレクション	上田市	二の丸 上田市立博物館	S39.5.29	66	江戸時代末期から昭和初期	甕・壺類 46 点、鉢類 12 点、その他 8 点
16 ▲	記念物	史跡	16 信濃国分寺跡	上田市他	国分 1125 他	S5.11.19	1	奈良時代（8世紀）	4,178.00㎡、追加指定（S43.3.19）125,161.70㎡
17 ▲			17 上田城跡	上田市他	二の丸	S9.12.28	1	安土桃山時代（天正 11 年 1583）	111,586㎡
18 ▲			18 鳥羽山洞窟	深山・岡森・一本木諏訪神社	腰越 429	S53.1.27	1	縄文・古墳時代	古墳時代の葬所跡（曝葬）幅 25m、奥行 15m
19 ▲		天然記念物	19 西内のシダレクリ自生地	個人	平井	T9.7.17	1		自生地、上田市平井字上の原一帯
20 ▲			20 東内のシダレエノキ	上田市・下和子自治会	東内	T9.7.17	1		接木子木（7本）、実生子木（5本）
21 ▲			21 四阿山の的岩	上田市東御市真田共有財産組合	菅平高原	S15.2.10	1		幅 2～3m、高さ 15m、長さ 200m 垂直に柱状節理が発達した安山岩の大岩脈

国登録有形文化財									
図番記号	種別	No.	名称	所有者	所在地	登録年月日	員数	時代	内容
22 ▲	建造物	1	上田蚕種協業組合事務棟	上田蚕種（株）	常田 3-4-57	H9.5.7	1	大正 6 年（1917）頃	木造 2 階建、瓦葺、建築面積 764㎡
23 ▲		2	信州大学繊維学部講堂（旧上田蚕糸専門学校講堂）	信州大学	常田 3-15-1	H10.9.2	1	昭和 4 年（1929）	木造 2 階建、鉄板葺、建築面積 357㎡
24 ▲		3	旧常田幼稚園園舎	社会福祉法人カルディア会	常田 2-30-17	H15.7.1	1	大正 8 年（1919）	木造 2 階建、瓦葺、建築面積 194㎡
25 ▲		4	依水館主屋	上田市	上丸子 1920	H15.12.1	1	大正 7 年（1918）	木造平屋建、瓦葺、建築面積 292㎡
26 ▲		5	花屋ホテル本館 他	（株）花屋ホテル	別所温泉 169	H18.10.18	19	大正 7 年（1918）他	本館（木造 2 階建、瓦葺、建築面積 633㎡）等
27 ▲		6	旧草間歯科医院	個人	常田 2-29-4	H19.7.31	1	大正 12 年（1923）	木造 2 階建、下見板張、寄棟造、棧瓦葺、53㎡
28 ▲		7	飯島商店店舗棟 他	（株）飯島商店	中央 1-1-21	H19.10.2	3	明治 27 年頃（1894）他	店舗棟（木造 3 階建、鉄板葺、146㎡）事務所棟（木造 3 階建、瓦葺、231㎡）作業所棟（木造 3 階建、瓦葺、330㎡）
29 ▲		8	信州大学繊維学部資料館（旧上田蚕糸専門学校貯蔵庫）	信州大学	常田 3-480 他	H25.6.21	1	明治 43 年（1910）	煉瓦造 2 階建、瓦葺、建築面積 67㎡
30 ▲		9	信州大学繊維学部守衛所（旧上田蚕糸専門学校門衛詰所）	信州大学	常田 3-480 他	H25.6.21	1	大正元年（1912）／昭和 4・39 年移築他	木造平屋建、鉄板葺、建築面積 24㎡
31 ▲		10	筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所大明神寮	筑波大学	菅平高原 278-294	H30.3.27	1	昭和 40 年（1965）	木造平屋建、金属板葺、147㎡
32 ▲		11	旧松高産婦人科医院大正館 他	個人	常田 2-172-5	登録まち	2	大正前期	大正館 表門及び塀
33 ▲		12	相澤商店店舗	個人	中央 2-4633	登録まち	1	昭和 10 年（1935）／平成 9 年移築	

国選択無形民俗文化財									
図番記号	種別	No.	名称	保護団体	所在地	選択年月日	員数	時代	内容
34 ▲	無形民俗文化財	1	戸沢のねじ行事	戸沢のねじと馬引き保存会	真田町長戸沢	H8.11.28	1		「ねじ」は、縁起物などをかたどった食物
35 ▲		2	別所温泉の岳の幟行事	岳の幟保存会	別所温泉	H9.12.4	1	室町時代（伝：永正元年（1504））	雨乞い行事として地域的特色のある行事
36 ▲		3	八日堂の蘇民将来符頒布習俗	信濃国分寺・蘇民講	国分	H12.12.25	1	室町時代以降	1月7・8日に六角柱型の護符（蘇民将来符）を頒布

国重要美術品【旧法において認定効力を保ち続けているもの】									
図番記号	種別	No.	名称	所有者	所在地	指定年月日	員数	時代	内容
37 ▲	絵画	1	板絵着色三浦屋の図	常楽寺	別所温泉 2347	S16.7.23	1	江戸時代（享保 15 年 1730）	高さ 116cm×横 170cm
38 ▲	書跡	2	大般若経六百帖箱	常楽寺	別所温泉 2347	S8.7.25	600	南北朝から室町時代	版本 444 帖及び写本 156 帖
39 ▲		3	紙本墨書徳川家康日課念仏	常楽寺	別所温泉 2347	S9.5.18	1	江戸時代（慶長 17 年 1612）	縦 26cm×横 140cm

## 第2章 上田市の歴史文化と文化財保護の現状

## 県指定文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数	時 代	内 容
40 ■	県 宝	建 造 物	1 上田城（南櫓、北櫓、西櫓）	上田市	二の丸	S34.11.9	3	江戸時代初期 (寛永3～5年)	桁行五間二重二階建櫓、入母屋造、本瓦葺
41 ■			2 石造五輪塔	舞田自治会	舞田 1007	S49.11.14	1	鎌倉時代初期	総高 211cm
42 ■			3 西光寺阿弥陀堂	西光寺	富士山 3036	S56.12.7	1	室町時代後期 (16世紀前半)	桁行三間（一間吹放し）、梁間三間、延面積 38.673㎡、 木造平屋建、入母屋造妻入、屋根こけら葺
43 ■			4 生島足島神社歌舞伎舞台	生島足島神社	下之郷 701	S61.8.25	1	明治元年(1868)	木造平屋建、屋根棧瓦葺切妻造
44 ■			5 文殊堂	天竜寺	西内 1368	S63.8.18	1	江戸時代	間口三間、奥行四間、入母屋造、銅板葺
45 ■			6 実相院宝篋印塔	実相院	真田町傍陽 5921	H3.8.15	1	南北朝時代 (貞治6年 1367)	総高 213.5 cm
46 ■			7 国分寺本堂（薬師堂）	国分寺	国分 1052	H9.2.20	1	江戸時代末期 (万延元年 1860)	桁行八間、梁間五間、単層入母屋造、屋根棧瓦葺
47 ■			8 生島足島神社本殿内殿	生島足島神社	下之郷 701	H10.10.26	1	室町時代後期(16世紀前期から中期)	桁行柱間三間、梁間柱間二間、屋根切妻厚板張
48 ■			9 生島足島神社摂社諏訪社本殿及び門	生島足島神社	下之郷 701	H14.3.28	2	江戸時代初期 (慶長15年 1610)	一間社流造銅板葺(元こけら葺)
49 ■			10 旧倉沢家住宅主屋及び客座敷	上田市	築地 314-2	H17.3.28	2	江戸時代前期～(17世紀中期～19世紀前期)	主屋(木造平屋建茅葺・寄棟造)・客座敷 附表門 文庫蔵 土蔵 倉庫 井戸及び上屋 屋敷神祠 普請文書
50 ■	県 宝	絵 画	11 紙本墨書著色正保の信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S49.11.14	1	江戸時代初期 (正保4年 1647)	縦 854cm×横 464cm
51 ■			12 絹本着色綱敷天神像	常楽寺	別所温泉 2347	H17.3.28	1	室町時代 (応永12年 1405)	軸副装：画面(縦 69.0cm、横 36.2cm)・軸(縦 169.5cm、横 50.8cm)、菅原道真像(綱敷天神像)
52 ■	県 宝	彫 刻	13 木造阿弥陀如来像	霊泉寺	平井 2542	S55.3.13	1	南北朝時代	寄木造、像高 96cm、附像内納入品一括
53 ■			14 木造金剛力士立像	中禪寺	前山 1721	H13.3.29	2	平安時代末	桂材(一部桧材)、寄木造、阿吽一對、像高：阿形 219cm、 吽形 222cm
54 ■			15 銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	願行寺	中央 2-16-14	H29.3.16	3	鎌倉時代後期 (13世紀末)	銅造、善光寺式一光三尊仏、像高 47.5cm (中尊) 33.2cm (左脇侍) 32.2cm (右脇侍)
55 ■			16 木造十一面観音菩薩立像	実相院	真田町傍陽 5921	H30.2.13	1	平安時代後期	寄木造、像高 107.8cm
56 ■	県 宝	工 芸 品	17 太刀	上田市	上田市立博物館	S40.1.14	1	江戸時代末期 (弘化4年 1847)	刀長 97.5cm、反り 2.1cm、山浦壽昌作
57 ■			18 刀	個人	秋和	S41.3.17	1	江戸時代末期 (嘉永2年 1849)	刀長 72.7cm、反り 1.8cm、源清麿作
58 ■			19 刀	個人	常磐城	S41.3.17	1	江戸時代末期 (嘉永2年 1849)	刀長 71.2cm、反り 1.9cm、源清麿作
59 ■	県 宝	考 古 資 料	20 唐沢B遺跡出土品	上田市	真田地域教育事務所	H12.9.21	32	縄文時代草創期	石斧、尖頭器等の石器類
60 ■			21 鳥羽山洞窟遺跡出土品	上田市	丸子郷土博物館	H19.1.11	247	縄文・古墳時代	須恵器、石剣、銅劍、鉄剣、鹿角装刀子、鉄製馬具等
61 ■	県 記 念 物	史 跡	22 真田氏館跡	上田市他	真田町本原 2984-1	S42.10.23	1	室町時代後期	東辺 80m 西辺 130m 北辺 150m 南辺 160m
62 ■			23 戸石城跡	私所有 42名	上野 2505-ホ他	S44.5.15	1	室町時代後期から江戸時代初期	28,818㎡、米山城を含む
63 ■			24 塩田城跡	私所有 46名	前山 309-1 他	S45.4.13	1	鎌倉時代後期から室町時代末期	146,038㎡
64 ■			25 菅平唐沢岩陰遺跡	上田市東御市真田共有財産組合	真田町長 1278-937	S48.3.12	1	縄文・古墳時代	標高 1240m 幅 15m 奥行 2m 高さ 3mの岩陰
65 ■		天 然 記 念 物	菅平のツキヌキソウ自生地	菅平牧場畜産共同組合	菅平高原 1298-228 他	S35.2.11	1		スイカズラ科ツキヌキソウ属 多年草 高さ 70～90cm
66 ■			27 小泉、下塩尻及び南条の岩鼻	法人 3 及び私所有 8名	小泉 2675-1 他	S49.1.17	2		104,469㎡(うち上田市 83,960㎡) モイワナズナが生育、 シンパク・シモフリナデシコが生息、チョウゲンボウが生息
67 ■			28 小泉のシナノイルカ	高仙寺	小泉 2075	S49.11.14	1	約 1,400 万年前	化石、長さ 1.2m
67 ■									

## 県選択無形民俗文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	選択年月日	員数	時 代	内 容
68 ■	無形民俗	1	別所岳の織りの習俗	岳の織保存会	別所温泉	S44.3.30	1	室町時代（伝：永正元年 1504）	雨乞い行事として地域的特色のある行事

## 市指定文化財

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
69 ●	有形文化財	建 造 物	1 荒神宮本殿	荒神宮	諏訪形 466	S43.4.25	1
70 ●			2 石造五輪塔（二基）	下塩尻自治会	下塩尻 392-5	S43.4.25	2
71 ●			3 願行寺四脚門	願行寺	中央 2-16-14	S43.4.25	1
72 ●			4 上田藩主居館表門及び土塀・濠・土塁	長野県	大手 1-4-32	S44.5.9	1
73 ●			5 奈良尾の石造多重塔（弥勒仏塔）	奈良尾自治会	富士山	S44.6.5	1
74 ●			6 安楽寺経蔵（附）八角輪蔵	安楽寺	別所温泉 2361	S44.6.5	2
75 ●			7 霊泉寺五輪塔	霊泉寺	平井 2541-ロ	S45.1.1	1
76 ●			8 竹の花五輪塔	個人	生田 3347	S45.1.1	1
77 ●			9 信濃国分寺石造多宝塔	国分寺	国分 1052	S46.4.8	1
78 ●			10 中原宝篋印塔	中原自治会	真田町本原 中原	S47.4.1	1
79 ●			11 安良居神社本殿	上丸子 4 自治会	上丸子 1924-イ	S47.7.1	1
80 ●			12 石造五輪塔	中禪寺	前山 1721	S48.4.9	1
81 ●			13 東昌寺鐘楼	東昌寺	浦野 571	S49.6.5	1

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
82 ●	有形文化財	14	弾正塚宝篋印塔	個人	真田町傍陽穴沢	S50. 10. 1	1
83 ●		15	日吉社の社殿	大宮諏訪神社氏子	下武石 809	S51. 6. 19	1
84 ●		16	南方薬師堂	南方区	塩川 706-3	S52. 11. 28	1
85 ●		17	小泉大日堂	高仙寺	小泉 2075	S56. 4. 8	1
86 ●		18	宗畔寺石幢	宗畔寺	中央 2-14-6	S57. 4. 13	1
87 ●		19	塩野神社廻り舞台	保野自治会	保野 429	S58. 4. 8	1
88 ●		20	荒神宮石造五輪塔	荒神宮	諏訪形 466	S59. 4. 9	1
89 ●		21	常楽寺石造多層塔	常楽寺	別所温泉 2347	S59. 4. 9	1
90 ●		22	安曾甚太夫五輪塔	個人	古安曾 3552-1	S59. 4. 9	2
91 ●		23	上田原石造五輪塔	個人	上田原 712-5	S61. 6. 5	1
92 ●		24	太郎山神社本殿	太郎山並太郎山神社保存会	上田 2962	H1. 10. 9	1
93 ●		25	妙見寺 鳴龍	妙見寺	下武石 654-2	H1. 12. 20	1
94 ●		26	五加八幡神社石燈籠	五加自治会	五加 912	H2. 2. 20	1
95 ●		27	塩野神社拝殿及び本殿	東前山・西前山自治会	前山 1681	H3. 9. 12	2
96 ●		28	平井諏訪神社奉納殿	西内崇敬会	平井 1090	H4. 3. 26	1
97 ●		29	旧上田市立図書館	上田市	大手 2-8-2	H5. 2. 3	1
98 ●		30	旧宣教師館	上田市	下之郷 812	H5. 5. 6	1
99 ●		31	別所神社本殿	別所神社	別所温泉 2338	H6. 11. 1	1
100 ●		32	カネタの煙突	土屋勲彦	上丸子 404	H7. 8. 29	1
101 ●		33	常楽寺本堂	常楽寺	別所温泉 2347	H9. 4. 9	1
102 ●		34	全芳院本堂	全芳院	腰越 81	H17. 1. 28	1
103 ●		35	依水館客殿及び玄関	上田市	上丸子 1920	H18. 1. 27	2
104 ●		36	笠原工業常田館製糸場	笠原工業(株)	常田 1-10-3	H22. 2. 19	8
105 ●		37	飯沼郷藏	飯沼自治会	生田 5257-1	H28. 4. 20	1
106 ●		38	旧千曲会館	信州大学	常田 3-15-1	H28. 6. 22	1
107 ●	無形文化財	39	紙本着色花鳥人物屏風	竜光院	前山 553	S44. 6. 5	2
108 ●		40	板絵着色劉備檀溪渡河の図	常楽寺	別所温泉 2347	S47. 6. 8	1
109 ●		41	板絵着色踊り念仏と六歌仙図	常楽寺	別所温泉 2347	S47. 6. 8	1
110 ●		42	絹本着色聖観音画像	常楽寺	別所温泉 2347	S48. 4. 9	1
111 ●		43	絹本着色愛染明王画像	常楽寺	別所温泉 2347	S48. 4. 9	1
112 ●		44	絹本着色藤娘と鬼の念仏絵	常楽寺	別所温泉 2347	S52. 3. 18	1
113 ●		45	板絵着色絵馬富士の巻狩り	富士嶽神社	富士山 4436-5	S55. 4. 8	1
114 ●		46	仏生誕・涅槃図	藤原田区	藤原田 389	S57. 3. 14	2
115 ●		47	紺屋町八幡社絵馬	上田市	上田市立博物館	S60. 9. 6	2
116 ●		48	長泉寺板碑	長泉寺	中丸子 1179-1	S45. 1. 1	1
117 ●		49	聖観音立像	小沢根自治会	武石小沢根 336	S46. 2. 15	1
118 ●		50	弥勒菩薩坐像	鳥屋自治会	武石鳥屋 282	S46. 2. 15	1
119 ●		51	木造馬頭観音坐像	実相院	真田町傍陽 5921	S47. 4. 1	1
120 ●		52	木造僧形坐像	横沢自治会	角間観音堂	S47. 4. 1	1
121 ●		53	尾野山木造千手観音立像	尾野山自治会	生田 532	S47. 7. 1	1
122 ●		54	木造阿弥陀如来立像	芳泉寺	常磐城 3-7-48	S49. 6. 5	1
123 ●		55	南方荒野板碑	個人	塩川 816	S53. 12. 27	2
124 ●		56	石造大姥坐像	富士嶽神社	富士山 4556-ハ	S55. 4. 8	1
125 ●		57	木造獅子頭	塩野神社	前山 1681	S55. 4. 8	2
126 ●		58	木造狛犬	生島足島神社	下之郷 701	S55. 4. 8	2
127 ●		59	木造薬師如来立像	馬背神社	浦野公民館	S56. 2. 6	1
128 ●		60	木造狛犬	馬背神社	浦野公民館	S56. 3. 6	2
129 ●		61	木製鬼板	手塚八幡社	手塚公民館	S56. 3. 6	2
130 ●		62	藤原田木造千手観音坐像	藤原田自治会	藤原田 272	S57. 3. 14	1
131 ●		63	木造狛犬	塩野神社	保野 429	S57. 4. 13	2
132 ●		64	双体道祖神	鳥屋自治会	武石鳥屋	H6. 3. 18	1
133 ●		65	掌善掌惡の碑	妙見寺	下武石 654-2	H6. 3. 18	2
134 ●		66	石幢	正念寺	下武石 396	H6. 3. 18	1
135 ●		67	木造菩薩立像	願行寺	中央 2-16-14	H6. 11. 1	1
136 ●		68	木造阿弥陀如来坐像	耕雲寺	真田町傍陽 11436	H12. 4. 26	1
137 ●		69	西光寺金剛力士像	西光寺	富士山 3036	H13. 9. 13	2



図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
138 ●	有形文化財	70	銅製鰐口	観音寺	上田原 204	S43. 4. 25	1
139 ●		71	銅製雲板	陽泰寺	陽泰寺	S43. 4. 25	1
140 ●		72	灰釉四耳壺	深区神社	国分寺資料館	S44. 5. 9	1
141 ●		73	褐色絨唐冠崩し当世具足	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
142 ●		74	紺糸絨白熊毛当世具足	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
143 ●		75	杏掛家蹴鞠資料	個人	上田市立博物館	S45. 5. 11	49
144 ●		76	銅製鰐口	中禅寺	前山 1721	S45. 6. 5	1
145 ●		77	紺糸絨金剛力士頭当世具足	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	1
146 ●		78	木造百万塔	常楽寺	別所温泉 2347	S48. 4. 9	1
147 ●		79	銅製御正鉢（懸仏）	高仙寺	小泉 2075	S49. 6. 5	1
148 ●		80	銅製孔雀文磬	高仙寺	小泉 2075	S49. 6. 5	1
149 ●		81	東昌寺僧具	東昌寺	浦野 571	S53. 4. 8	7
150 ●		82	銅製御正鉢	日輪寺	中央 2-14-3	S54. 4. 9	1
151 ●		83	鉄製湯釜	生島足島神社	下之郷 701	S55. 4. 8	6
152 ●		84	刀 糸巻太刀拵付	菅平自治会	菅平高原	S56. 6. 26	2
153 ●		85	銅製陣鐘	個人	上田市立博物館	S58. 4. 8	1
154 ●		86	銅製鉦鼓	荒井自治会	真田中央公民館	H8. 6. 25	1
155 ●		87	銅製雲板	個人	菅平高原自然館	H8. 6. 25	1
156 ●		88	銅製御正鉢	三島神社氏子	真田町傍陽 3385	H20. 6. 24	1
157 ●		89	佐久間象山書五反幟	五加八幡社	五加 912	S44. 6. 5	2
158 ●		90	加舎白雄自筆画賛屏風	個人	上田市立博物館	H2. 2. 20	1
159 ●		91	加舎白雄自筆酒中仙屏風	個人	上田市立博物館	H2. 2. 20	1
160 ●		92	海野町柳沢家日記（本陣日記）	個人	国分	S44. 5. 9	146
161 ●		93	原町滝沢家日記（問屋日記）	個人	上田市立博物館	S44. 5. 9	157
162 ●		94	元禄信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	1
163 ●		95	黄檗版藏経	安楽寺	別所温泉 2361	S44. 6. 5	7334
164 ●		96	紙本墨書武田信玄の朱印状	塩野神社	前山 1681	S45. 6. 5	1
165 ●		97	紙本墨書武田勝頼の朱印状	前山寺	前山 300	S45. 6. 5	1
166 ●		98	紙本墨書開善寺宛武田信玄判物	海禅寺	上田市立博物館	S54. 4. 9	1
167 ●		99	紙本墨書開善寺宛武田信玄寄進状	海禅寺	上田市立博物館	S54. 4. 9	1
168 ●		100	紙本墨書武田信玄朱印状	向源寺	常盤城 2-9-2	S54. 4. 9	1
169 ●		101	紙本墨書武田信玄朱印状（西光寺文書）	西光寺	富士山 3036	S55. 4. 8	1
170 ●		102	紙本墨書武田信玄朱印状（小泉家文書）	個人	小泉 1438	S55. 4. 8	1
171 ●		103	野倉惣帳	野倉自治会	上田市野倉 民俗資料館	S56. 3. 6	1
172 ●		104	信濃国分寺勸進帳	国分寺	国分 1049	S57. 4. 13	11
173 ●		105	天保信濃国絵図	上田市	上田市立博物館	S58. 4. 8	15
174 ●		106	真田氏文書	山家神社・信綱寺・実相院・上田市	真田町長 4473-□ 2 他	S59. 8. 31	17
175 ●		107	上田藩村明細帳	個人	上田市立博物館	S61. 6. 5	77
176 ●		108	午頭天王祭文	国分寺	信濃国分寺資料館	H7. 12. 7	1
177 ●		109	真田氏給人知行地検地帳	個人	真田地域教育事務所	H11. 3. 26	1
178 ●		110	安楽寺蘭溪道隆尺牘	安楽寺	別所温泉 2361	H17. 9. 28	1
179 ●	無形文化財	111	小山真夫調査野帳	個人	上武石	S50. 11. 13	26
180 ●		112	赤松小三郎佩刀	上田市	上田市立博物館	S58. 4. 8	1
181 ●		113	岩谷堂法蔵寺奉加帳	宝蔵寺	御嶽堂 84	H9. 12. 24	1
182 ●		114	蔵前の大栴	個人	別所温泉 184-1	H24. 10. 19	1
183 ●		115	石器	個人	武石小沢根	S50. 10. 1	614
184 ●		116	巴形銅器	個人	上武石	S50. 11. 13	1
185 ●		117	雁石遺跡魚形土製品	上田市	真田教育事務所	H10. 6. 30	1
186 ●		118	銅三尊仏	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
187 ●		119	銅印	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
188 ●		120	鉄鑿	上田市	信濃国分寺資料館	H25. 3. 14	1
189 ●		121	鉄矛	上田市	信濃国分寺資料館	H27. 7. 23	1
190 ●		122	尾野山三頭獅子	尾野山区無形文化財保存会	生田 2041-1	S51. 7. 30	1
191 ●	芸能	123	尾野山式三番叟	尾野山区無形文化財保存会	生田字尾野山	S53. 12. 27	1
192 ●		124	腰越諏訪神社御柱祭御練り	腰越御練り保存会	腰越 138	H4. 3. 26	1
193 ●		125	依田神社大神楽獅子舞	御嶽堂依田神社大神楽保存会	御嶽堂字上組	H5. 8. 19	1

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
194 ●	民俗文化財	有形民俗文化財	126 蘇民将来符	国分寺及び檀信徒	国分 1049 他	S43. 4. 25	1
195 ●			127 八日堂縁日図	国分寺	国分 1049	S43. 4. 25	1
196 ●			128 板碑	個人	上田市立博物館	S44. 5. 9	10
197 ●			129 藤本蚕種株式会社保存繭標本	上田市	上田市立博物館	S44. 5. 9	2500
198 ●			130 浜村家能面狂言面	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	70
199 ●			131 能衣装上田縞小格子厚板	上田市	上田市立博物館	S46. 4. 8	1
200 ●			132 五位塚の板碑	個人	上室賀 1109-ロ	S47. 4. 1	3
201 ●			133 円座 (いっつあ)	個人	芳田蚕影神社	S55. 4. 8	1
202 ●			134 男石神社絵馬	赤坂自治会	赤坂公民館	S58. 4. 8	71
203 ●			135 地芝居引幕	野倉自治会	野倉 718	S61. 6. 5	6
204 ●			136 お舟の天王山車	海野町自治会	中央 伊勢宮神社	S61. 8. 5	1
205 ●			137 下丸子釈迦涅槃図	下丸子自治会	下丸子 325	H6. 8. 29	1
206 ●			138 祇園祭礼屏風	上田市	上田市立博物館	H15. 10. 9	2
207 ●			139 三島神社の円座 (いっつあ)	三島平自治会	真田町傍陽三島平	H18. 1. 27	3
208 ●		無形民俗文化財	140 常田獅子	常田獅子保存会	常田	S43. 4. 24	1
209 ●			141 房山獅子	房山獅子保存会	上・下川原柳区	S43. 4. 24	1
210 ●			142 岳の織	岳の織保存会	別所温泉	S44. 6. 5	1
211 ●			143 保野の祇園祭	保野祇園祭保存会	保野	S44. 6. 5	1
212 ●			144 子檀嶺神社御柱祭行事	子檀嶺神社氏子	武石小沢根	S46. 2. 15	1
213 ●			145 三ッ頭獅子	上原三ッ頭獅子保存会	真田町本原	S54. 5. 1	1
214 ●			146 氷上王子神社大神楽獅子舞	氷上王子神社神楽保存会	新町	S56. 3. 6	1
215 ●			147 前山三頭獅子	東前山獅子保存会	前山	H1. 3. 8	1
216 ●			148 一心神社祭典行事	一心神社氏子	武石上本入下小寺尾	H1. 12. 20	1
217 ●			149 上室賀三頭獅子	室賀水上神社三頭獅子ささら保存会	上室賀	H5. 2. 3	1
218 ●			150 下室賀三頭獅子	下室賀自治会	下室賀	H5. 5. 6	1
219 ●			151 太郎山神社太々神楽	太郎山神社太々神楽保存会	太郎山神社	H7. 12. 7	1
220 ●			152 下之郷三頭獅子	下之郷三頭獅子舞保存会	生島足島神社	H11. 2. 9	1
221 ●			153 横道の十九夜講	横道 3 自治会	真田町傍陽横道	H12. 4. 26	1
222 ●	史 跡	史 跡	154 赤坂將軍塚古墳	赤坂自治会	赤坂 1340	S43. 4. 24	1
223 ●			155 二子塚古墳	二子神社	上田 2498	S43. 4. 25	1
224 ●			156 下青木吉田原古墳	下青木自治会	蒼久保 1557-ロ	S44. 5. 9	1
225 ●			157 秋和大蔵京古墳	豊秋露原野神社	秋和 1391	S44. 5. 9	1
226 ●			158 活文禪師遺跡 1 号 毘沙門堂跡	上田市	常田 2-21-22	S44. 5. 9	1
227 ●			159 活文禪師遺跡 2 号 龍洞院敷地及び遺墨・遺品・文書	龍洞院	蒼久保 232	S44. 5. 9	1
228 ●			160 活門禪師遺跡 3 号 岩門大日堂跡	岩門自治会	古里 1353	S44. 5. 9	1
229 ●			161 辰ノ口高塚	個人	東内 194-3	S45. 1. 1	1
230 ●			162 小松姫 (真田信之室) の墓	芳泉寺	常盤城 3-7-48	S45. 5. 11	1
231 ●			163 岩谷堂岩窟古墳	宝蔵寺	御嶽堂 92	S46. 3. 1	1
232 ●			164 王子塚古墳	王子神社	新町 9	S46. 4. 8	1
233 ●			165 寒松院 (真田昌幸室) の墓	大輪寺	中央北 1-2231	S46. 4. 8	1
234 ●			166 岡城跡	私所有 15 名	岡	S47. 4. 1	1
235 ●			167 広山寺古墳	広山寺	真田町本原 2205	S47. 4. 1	1
236 ●			168 真田氏本城跡	十林寺自治会他	真田町長	S47. 4. 1	1
237 ●			169 松尾城跡	横沢自治会他	真田町長	S47. 4. 1	1
238 ●			170 天白城跡	赤井自治会他	真田町本原	S47. 4. 1	1
239 ●			171 横尾城跡・内小屋城跡	横尾自治会他	真田町長 6674	S47. 4. 1	2
240 ●			172 根小屋城跡	曲尾自治会他	真田町傍陽	S47. 4. 1	1
241 ●			173 洗馬城跡	個人	真田町傍陽	S47. 4. 1	1
242 ●			174 真田幸隆・昌幸の墓	長谷寺	真田町長 4646	S47. 4. 1	3
243 ●			175 真田信綱の墓	信綱寺	真田町長 8100	S47. 4. 1	2
244 ●			176 他田塚古墳	上田市	下之郷 812-44	S47. 6. 8	1
245 ●			177 新屋古墳	個人	上野 792-イ-ニ	S48. 4. 9	1
246 ●			178 皇子塚古墳	八幡社氏子会	手塚 480-2	S48. 4. 9	1
247 ●			179 日向畑遺跡	上田市	真田町長 2536	S50. 10. 1	1
248 ●			180 藤沢古墳 1 号・2 号	個人	真田町本原	S50. 10. 1	2
249 ●			181 塚穴原第 1 号古墳	上田市	下之郷 812-54	S53. 4. 8	1
	天 然 記 念 物						

図番記号	種別	No.	名 称	所 有 者	所在地	指定年月日	員数
250 ●	史 跡	182	赤松小三郎遺髪墓	月窓寺	中央 6-4-13	S53. 4. 8	1
251 ●		183	成沢寛経翁奥城	日輪寺	中央 2-14-3	S53. 4. 8	1
252 ●		184	竹内善吾武信の墓	呈蓮寺	中央北 2-7-3	S53. 4. 8	1
253 ●		185	神宮寺古墳	個人	下室賀 1640	S55. 4. 8	1
254 ●		186	東馬焼窯跡	個人	古安曾	S56. 3. 6	1
255 ●		187	仙石家霊廟	芳泉寺	常盤城 3-7-48	S56. 4. 8	2
256 ●		188	仙石家本陽寺墓所	本陽寺	中央 6-3-3	S56. 4. 8	1
257 ●		189	矢花の七つ塚	個人	上野	S57. 4. 13	4
258 ●		190	畑山発電所跡	個人	上野	S57. 4. 13	1
259 ●		191	弘長三年光明寺建立碑	長谷寺	真田町長 4646	S58. 3. 7	1
260 ●		192	岩井観音堂再建碑	長谷寺	真田町長 4646	S58. 3. 7	1
261 ●		193	塚穴古墳	赤坂自治会	殿城 4916	S58. 4. 8	1
262 ●		194	舟窪古墳群	上田市	諏訪形字西山	S60. 9. 6	5
263 ●		195	タタラ塚古墳	長野県	諏訪形字東山	S63. 3. 7	1
264 ●		196	徳邦和尚火定の跡	大円寺	富士山 4231-ロ	H1. 3. 8	1
265 ●		197	中山城跡	小沢根自治会	武石小沢根	H1. 12. 20	1
266 ●		198	浦野城跡・御射山祭広庭跡	個人	浦野	H23. 2. 8	7
267 ●		199	岩屋観音洞窟	横沢自治会	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
268 ●		200	シシの牢	国（東信森林管理所）	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
269 ●		201	鬼の門	国（東信森林管理所）	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
270 ●		202	アラ板の岩壁とネンボウ岩	国（東信森林管理所）	真田町長 角間	S54. 5. 1	2
271 ●		203	天狗の欄干	国（東信森林管理所）	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
272 ●		204	鬼ヶ城	国（東信森林管理所）	真田町長 角間	S54. 5. 1	1
273 ●		205	鴻の巣	上田市	富士山 1959-1	H10. 11. 18	1
274 ●	名 勝	206	科野大宮社社叢	科野大宮社	常田 2-21-31	S44. 5. 9	1
275 ●		207	大星神社社叢	大星神社	上田 2480	S44. 5. 9	1
276 ●		208	枕状溶岩露出地	上田建設事務所	東内	S46. 3. 1	1
277 ●	天 然 記 念 物	209	大日向の二形カエデ	個人	真田町長 519	S47. 4. 1	1
278 ●		210	菅平湿原のクロサンショウウオ		菅平高原	S47. 4. 1	1
279 ●		211	穴沢弾正塚の一本松	個人	真田町傍陽	S47. 4. 1	1
280 ●		212	大宮諏訪神社のサワラの木	大宮諏訪神社氏子	下武石	S47. 4. 27	1
281 ●		213	武石	信廣寺・上田市	信廣寺他	S47. 4. 27	1
282 ●		214	ナンジャモンジャの木	上塩尻自治会	上塩尻 1409-イ-1	S48. 4. 9	1
283 ●		215	愛染カツラ	常楽寺	別所温泉 1666	S49. 6. 5	1
284 ●		216	出早雄神社社叢	下原・上原・大畑自治会	真田町本原	S50. 10. 1	1
285 ●		217	駒形神社のトチの木	余里自治会	武石余里	S51. 6. 19	1
286 ●		218	天神宮のケヤキ	岩下自治会	岩下 117	S52. 3. 18	2
287 ●		219	高仙寺参道並木	高仙寺	小泉 2075	S54. 4. 9	1
288 ●		220	前山寺参道並木	上田市	前山 300	S54. 4. 9	1
289 ●		221	石割りのアオナシ	上田市	菅平高原	S54. 5. 1	1
290 ●		222	信廣寺のシダレザクラ	信廣寺	下武石 582	S54. 10. 24	1
291 ●		223	大布施のヒガンザクラ	個人	武石上本入	S54. 10. 24	1
292 ●		224	南方荒野ビャクシン	個人	塩川 816	S55. 4. 26	2
293 ●		225	菅平口の枕状溶岩	個人	真田町長	S57. 1. 20	1
294 ●		226	山家神社社叢	山家神社	真田町長 4473-ロ 2	S57. 3. 2	1
295 ●		227	番匠のカツラ	個人	真田町本原 394	S58. 7. 15	1
296 ●		228	桑の木	上田市	材木町 1-2-47	S60. 9. 6	1
297 ●		229	大笹街道のシナノキ群	菅平牧場畜産協同組合他	菅平高原 大笹街道	S63. 12. 20	5
298 ●		230	緑籬石	上田市	武石下本入他	H1. 12. 20	1
299 ●		231	大六のケヤキ	石神自治会	古安曾 2047-ロ	H4. 5. 13	1
300 ●		232	岩谷堂エドヒガン	宝蔵寺	御嶽堂 84	H9. 12. 24	1
301 ●		232	ちがいの石の産地	前山寺・東前山生産森林組合	前山	H10. 5. 15	1
302 ●		234	ニホンオオカミの頭骨	上田高等学校	大手 1-4-32	H18. 2. 16	1
303 ●		235	マダランマ及びその生息地	上田市	富士山 4957-1 砂原池	H18. 2. 16	1



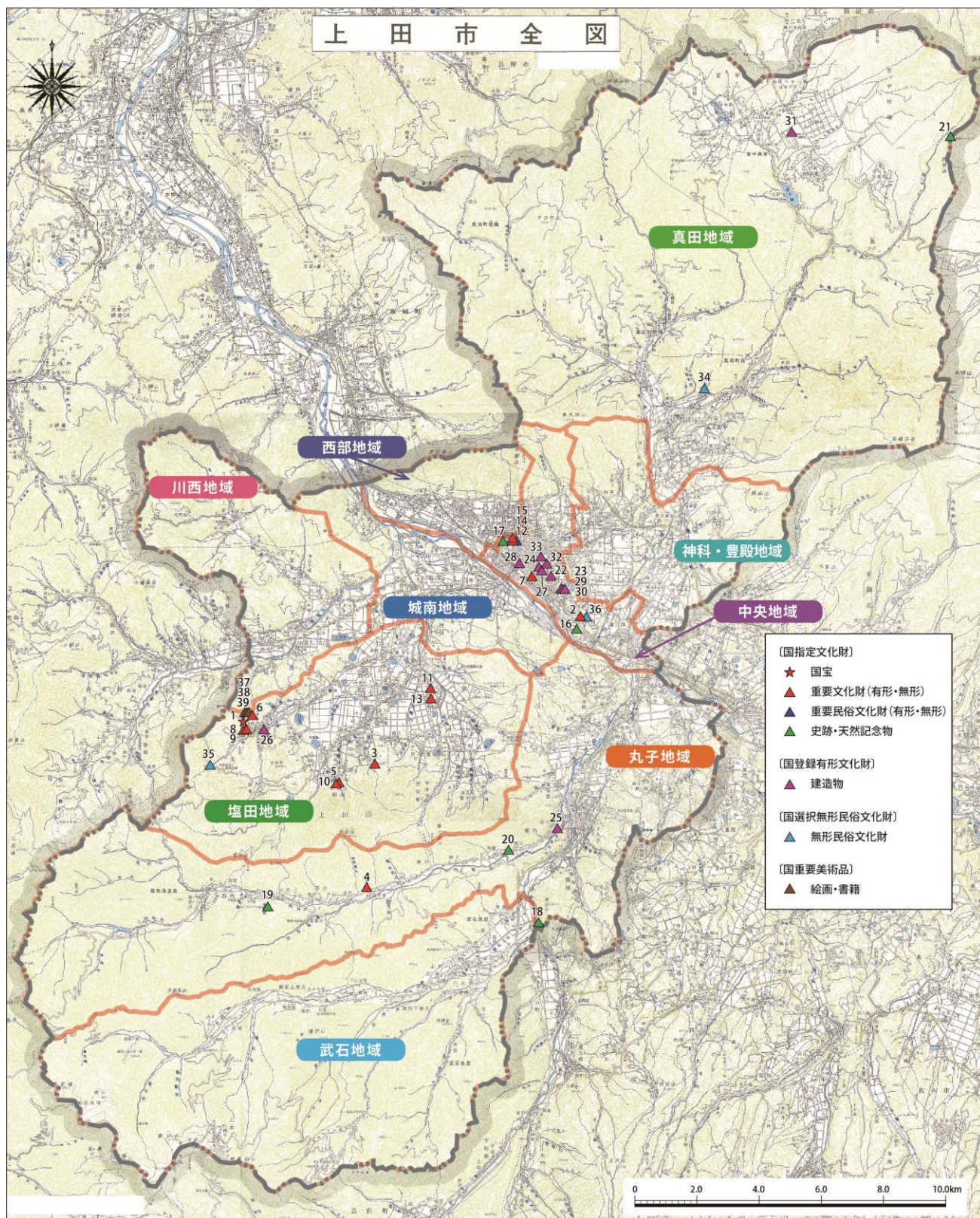


図 18 国指定・登録等文化財分布図



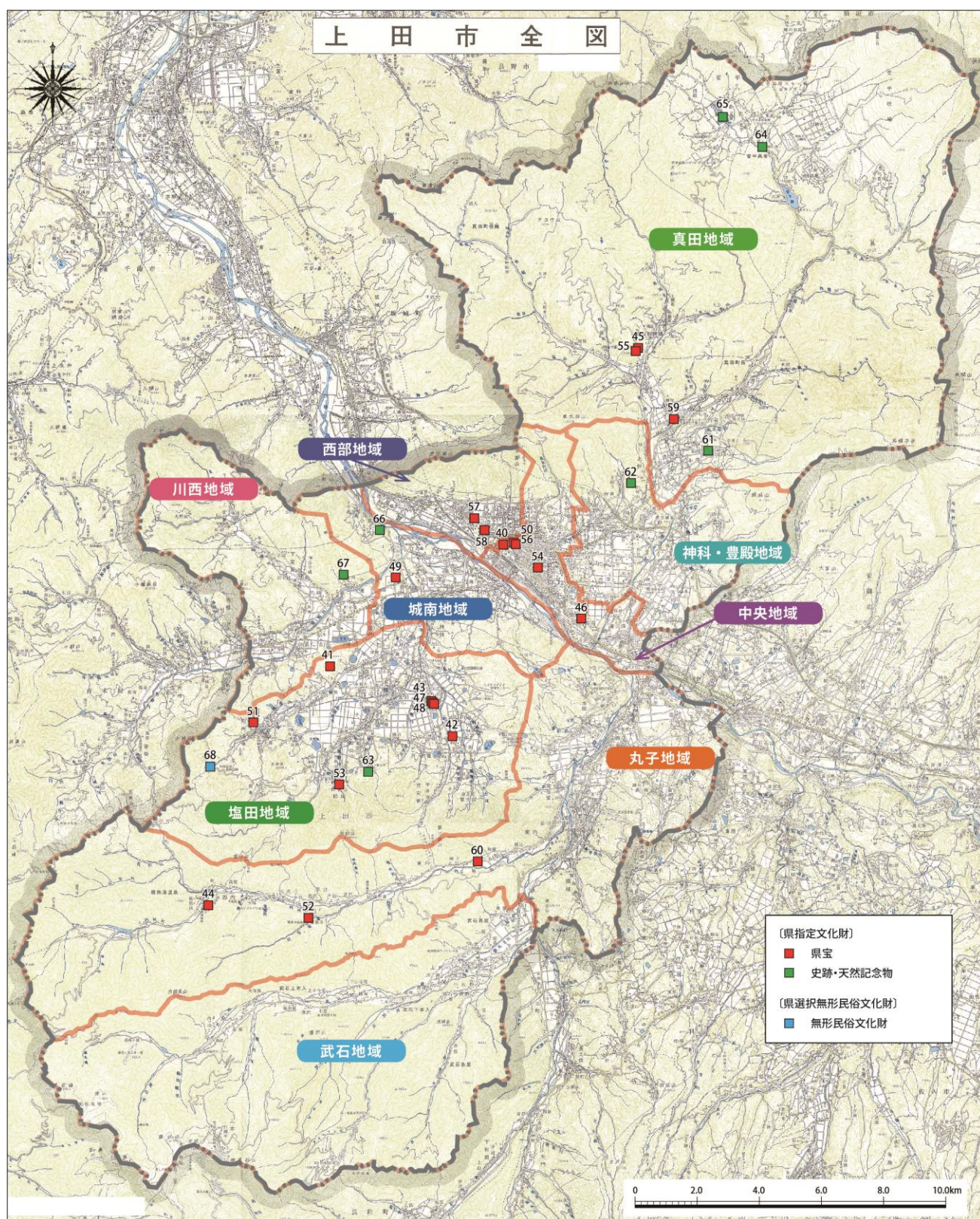


図 19 県指定等文化財分布図



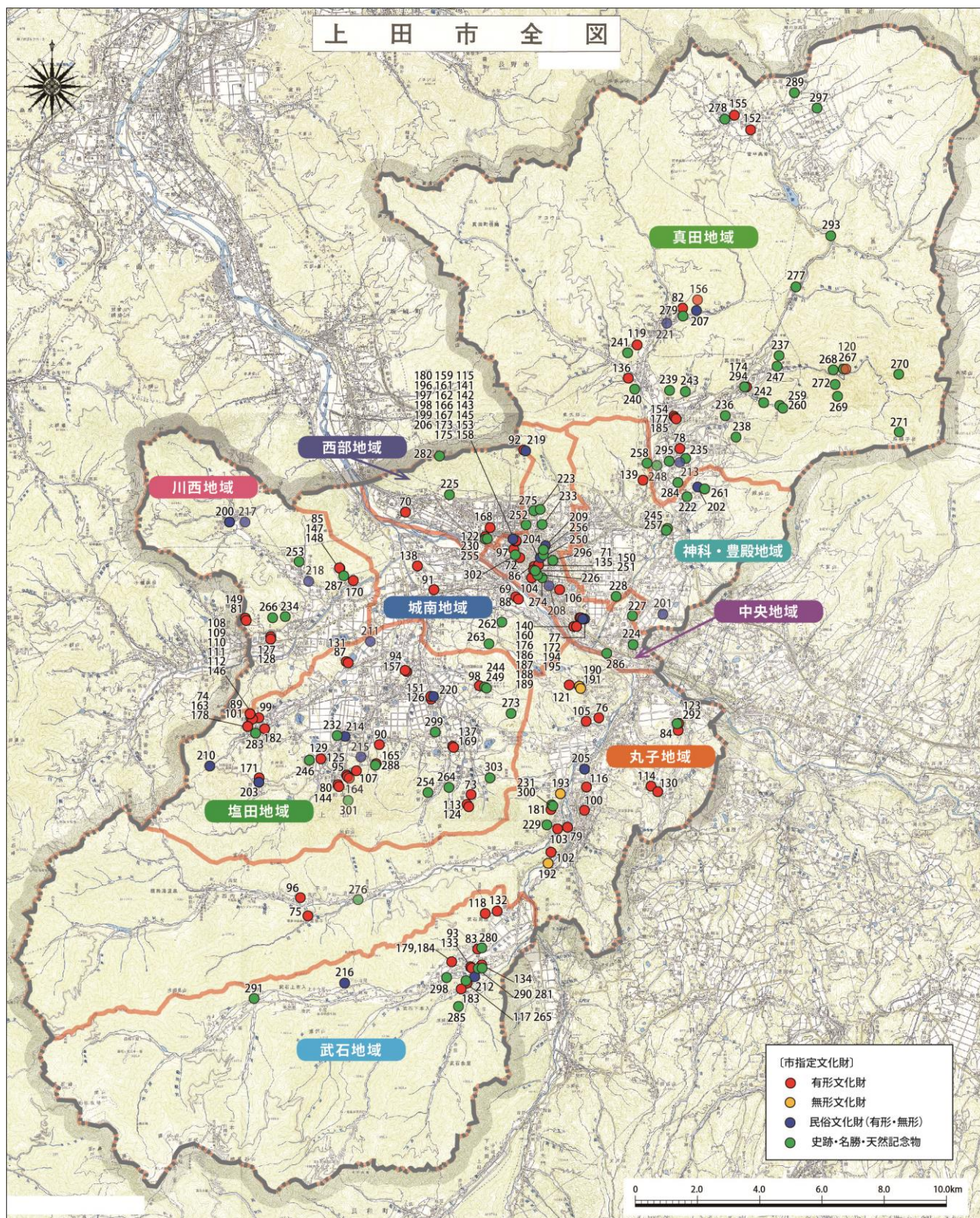


図 20 市指定文化財分布図



### 3 上田市の歴史と文化の特徴

#### (1) 時代別特徴

##### ① 旧石器時代～縄文時代

##### ○広い交易圏

真田地域の菅平高原から烏帽子岳西山麓には、旧石器時代から縄文時代前期にかけての遺跡が数多く分布する。なかでも唐沢B遺跡や小島沖遺跡にみられる<sup>かみこしぼ</sup>神子柴系石器は、その見事な局部磨製石斧が特徴である。縄文時代前期は気候の温暖化がピークに達し、上田市域も温帯樹林帯が拡大して縄文人の住み良い環境が広がり、定住化が進行する。真田地域の四日市遺跡は、生活域が台地部へと移行された時期の遺跡であり、前期前葉の建物跡がまとまって検出されている。四日市遺跡では関西地方からの搬入品と思われる北白川下層式土器が出土するなど、当時の交易圏の広さを物語る。



菅平唐沢遺跡石器

##### ○<sup>え かがみ</sup>柄鏡形敷石建物の出現

中期は、縄文文化の最盛期となり、上田市域でも山麓から平坦面にまで集落が形成されるようになる。遺跡数も激増し、広く分布するようになるが、中でも八千原<sup>やちばら</sup>遺跡は、中期から後期にかけて営まれた、この地方を代表する集落遺跡である。発掘調査によって、合計 68 軒の竪穴建物跡と豊富な遺物を検出した。このうち、安山岩の平石を敷き詰めた敷石建物跡が 19 軒検出されており、柄鏡形と呼ばれる特徴的な平面形を持つ建物跡も含まれる。敷石建物跡の事例は、中央地域の八幡裏遺跡や四日市遺跡でも検出している。また、柄鏡形敷石建物の事例は、関東地方から中部地方にかけての遺跡にみられ、気候が冷涼期に向かう中での保温対策といわれている。



八千原遺跡柄鏡形敷石住居跡

遺跡数が激減する縄文後・晩期になると、集落の数が減り、人口も減ったことが推定される。八千原遺跡や雁石<sup>がんげき</sup>遺跡からは後期に属する柄鏡形建物跡と石棺墓が検出され、称名寺式土器や石器、全国的にも類例の少ない魚形土製品（市指定）が出土している。晩期では真田地域の唐沢岩陰遺跡の骨角器をはじめ、四日市遺跡、雁石遺跡、境田遺跡、川西地域の下前沖遺跡などから後～晩期の土器や、石棒、耳飾などが出土している。ただし、遺物の量はごくわずかであり、岩陰以外の生活痕跡はみられないことから、集落はあっても小規模のものであったと考えられる。

## ② 弥生時代

### ○赤い土器「箱清水式土器文化圏」

上田市にみられる弥生時代の集落遺跡の多くは、後期後半以降の事例である。この時期、急速に大勢の人々が開墾をはじめ、いくつもの集落が営まれるようになったと考えられる。

上田市は赤く塗られた土器が特徴的な「箱清水式土器文化圏」に属し、千曲川上流の佐久平や中流域の上田市域、さらに下流域の善光寺平にかけて広く分布している。千曲川水系の箱清水式土器文化圏においては、せつびょうもん 櫛描文の壺・かめ 甕・たかつき 深鉢・こしき 高坏・甑・蓋などの豊富な土器群があるが、石器はあまり多くない。こうした特徴を持つ箱清水式土器は、中央地域の下町田遺跡、川西地域の琵琶塚遺跡などから出土している。



赤い土器  
(下町田遺跡出土の弥生時代後期の壺)

## ③ 古墳時代

### ○遅い古墳の出現

古墳時代前期、上田原遺跡では周溝墓が出現するが、上田市域における古墳の築造は遅く、4世紀後半に築造された方墳の秋和大蔵京古墳まで待たなければならない。上田市域の大型単独古墳はまず方墳という形で出現し、前方後円墳より数段ランクが下がる墳形の古墳が当地域の支配者の墳墓であることは、大きな政治的権力が育っていなかったことを物語る。

長野県東部で唯一の前方後円墳である二子塚古墳は、6世紀前半から中頃の築造と考えられている。市内にはほかにも、帆立貝式の王子塚古墳、円墳の吉田原古墳、神川流域の新屋古墳群、他田塚古墳や塚穴原一号墳をはじめとする下之郷古墳群などが知られている。

### ○ヤマト政権との結びつき

塩田地域の下之郷古墳群の被葬者とみられる金刺氏や他田氏は、旧来からの在地首長であり、国造に任命されることによりヤマト政権に従属して結びつきを強めていったと考えられる。東国とヤマト政権との関わりは、大和武尊伝説にもみられ、別所温泉は武尊によって「七苦離の温泉」として開湯されたと伝えられている。

丸子地域の社軍神遺跡からは、奈良県桜井市の纏向遺跡とその周辺に出土例の多い土器が出土していることや、奈良県桜井市の池ノ内七号墳から出土した鍬形石製品の中に社軍神遺跡のものがあったことから、社軍神遺跡の玉作りは、その出土遺物の特殊性も含めてヤマト政権から製作を委託されたものではないかと考えられている。



社軍神遺跡玉作り工房跡

## ④ 奈良・平安時代

## ○東山道を通じた政治・文化の交流

奈良時代の上田市は、信濃国分寺を中心とする宗教文化、そして国府を核とした地方政治の中心地であり、信濃における政治・文化の中心地となった。

東山道は、畿内から東北地方を繋ぐ官道として上田市を通り、中央や他地域の文化を伝えた。信濃国分寺の建立以降、上田に仏教を中心とした文化が栄え、神科・豊殿地域の法楽寺遺跡からは銅三尊仏や銅製の磬などが出土し、古代寺院の存在を想起させる。また、四阿山を白山に見立てた白山信仰も入り、真田地域実相院の木造十一面観音立像や同地域の銅製十一面観音像御正体などにその痕跡が見える。

東山道は東北平定の軍用道路でもあり、平安時代初期の征夷大將軍坂上田村麻呂の伝説も東山道沿線の川西地域の大日堂のほか、真田地域の実相院などに伝わる。

上田市には延喜式内社として生島足島神社、塩野神社、山家神社がある。特に生島足島神社は名神大社として記されている神社で、宮城内の神祇官庁の西院に祀られている二十三座の神の中の二座である。おそらくは、信濃国造となった多<sup>ねお</sup>氏が宮中から勧請してきたのではないかと考えられている。

地方豪族の居館跡と思われる遺構が国分寺周辺遺跡群に検出され、前述の法楽寺遺跡からは、豪族の銅印「<sup>ししらい</sup>来<sup>み</sup>（未）私印」が出土し、朝廷に獣肉（<sup>く</sup>）を献上した集団や豪族の存在を示している。



法楽寺遺跡銅三尊像



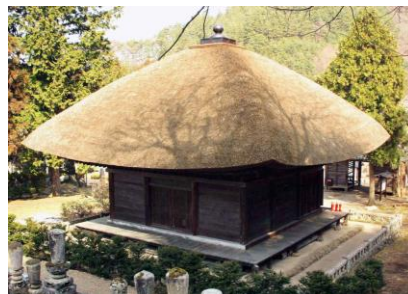
生島足島神社

## ⑤ 中世

## ○最新の仏教文化の導入（浄土信仰と禅宗）

古代末から中世にかけて、上田市域には5つの荘園があった。なかでも塩田庄は後白河法皇や平家の影響下にある最勝光院領となっており、独鈷山の麓、塩田庄を眺望する場所に中禅寺が置かれ、古代末に流行した方三間の阿弥陀堂形式の薬師堂とともに、同時期の定朝様の薬師如来坐像や金剛力士立像など、当時の最新情報が伝わっている。

塩田地域は、島津氏の後、鎌倉幕府の執権北条



中禅寺薬師堂



安楽寺八角三重塔



一族の重鎮北条重時が塩田に守護所を置き、鎌倉道が整備された。独鈷山麓には天台宗の談義所や禅宗寺院が構えられ、全国から学問僧が集まり、その様子は、京都南禅寺の開山無関普門<sup>むかんふもん</sup>によって「信州の学海」と称された。木造の八角塔としては全国で一つしかない安楽寺八角三重塔や、多くの石造物（多宝塔、五輪塔）が残されており、北条氏との関わりの中で鎌倉から最新の仏教文化を取り入れた様子が見えてくる。

## ○新しい経済システム

鎌倉幕府が滅亡して、室町の争乱の世となってもなお、信濃国分寺に対する信仰とともに、塩田地域・独鈷山麓における仏教文化が栄えた。信濃国分寺三重塔や前山寺三重塔、法住寺虚空蔵堂をはじめとした寺院建築が造営され、武石地域妙見寺にある、日光山、京都相国寺、青森竜泉寺とともに「日本四方鳴龍」と呼ばれる鳴龍もこの時期につくられた。

この背景には、専門職人集団の形成、国分寺や塩田城下町などにおける市の隆盛、そして銭貨の流通による貨幣経済の発達があったものと思われる。塩田地域を代表する岳の幟祭礼行事や、信濃国分寺の蘇民将来符頒布習俗は中世室町期に興った行事と伝えられており、在の民衆による文化の興隆がうかがわれる。

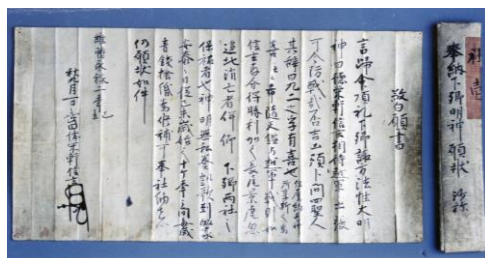


図 21 八日堂縁日図（部分）

## ○実戦的な上田城の築城

地方領主による争乱の時代に入ると、武田氏の信濃進出の過程で、各地の武将から出された血判の起請文を中心とする紙本墨書生島足島神社文書や、寺院への寄進・安堵の朱印状などは当時の戦の有様を伝えている。

そして、真田氏が、千曲川右岸の段丘崖上「尼ヶ淵」に、三方を堀と土塁で囲んだ実戦的で堅固な上田城を築城した。同時に戦に備えた仕掛けを施した城下町を整備し、徳川の大軍を退けたのである。



紙本墨書生島足島神社文書



上田城（尼が淵）

## ⑥ 近世

### ○市内各所に継承される三頭獅子

上田城築城の際に舞われ、真田地域上原の三頭獅子に発するといわれる常田獅子や房山獅子は、現在も上田市の大きな行事では、地固めや竣工の祝いなどで舞われている。三人一組からなる獅子舞を中心とする三頭獅子は、東日本に特徴的な芸能で、祇園祭な



どの地域の神社の祭礼行事の機会に舞われることが多い。

### ○本丸から離れた藩主居館

上田藩政は上田藩主の居館、現在の上田高等学校敷地で行われており、周囲を堀と土塁で囲み、家臣の屋敷地と同じ郭にあることは珍しい。これは、関ヶ原合戦の後、上田城が破却され、信之が本丸と離れた三の丸に居館を構えたため、徳川氏に対する配慮であった。

### ○蚕種の販路拡大と養蚕技術書の出版

上塩尻村の蚕種商人塚田与右衛門は、宝暦7年(1757)に養蚕の手引書といえる『新撰養蚕秘書』を出版する。このことは、18世紀中頃には、上田の蚕種家が自分達なりの養蚕が優れている点をPRしつつ、次第に販路を広げていた状況を示す例である。蚕種販売で諸国に出かけた蚕種家は、空荷で帰ることなく、販売先の綿・茶・塩・魚等を仕入れ、在の村々で店を出している。

### ○庶民文化の広がり（俳句・文学の発展）

上田藩や城下町では商品経済が発達し、契約と権利保障のため文字習得の必要性が高まる。文字の必要性が寺子屋を生み、多くの庶民が文字を学ぶようになった。商品経済の発展とともに、他地域との経済文化の交流が盛んとなり、俳諧を主とした庶民文芸が急速に発達し、19世紀前半の文化文政期以降の庶民文化の広がりを生むのである。

前述の蚕種商人塚田与右衛門は、蚕種の行商先の人々と俳諧を通じた交流も行った。18世紀後半には、上田藩士で俳人の<sup>かやしらお</sup>加舎白雄門弟に、原町で呉服や絹織物問屋の成澤<sup>うんたい</sup>雲帯や、常田の<sup>ぼくに</sup>鋳物業小島麦二、柳町の酒造業岡崎<sup>じょうもう</sup>如毛など、上田を代表する商工業者が名を連ねている。成澤家ではその後、郷土史家・文人として活躍した寛経、フォトジャーナリストの玲泉らを輩出している。寛経の著した「百合ささめごと」は、祖父雲帯から聞いた上田や近在の風俗やくらしを書き記しており、当時の第一級の史料となっている。

## ⑦ 近代

### ○「蚕都上田」の誕生

明治21年(1888)に開通した信越本線と上田駅開業は、城下町の様相を一気に近代化させる。上田駅近くに開業した常田館は、諏訪の製糸場笠原組を誘致したものであった。また、丸子地域依田川水系では、良好な水質を利用した製糸場が立ち並んだ。また、大屋駅は丸子地域や諏訪地域の大量の生糸を出荷するための駅として建設されている。全国初の「請願駅」である。



常田館製糸場施設

こうして信越本線の開業や日本初の蚕糸専門学校の設立、蚕種家による上田蚕種協業組合の発足など、産学官あげての蚕業振興策が上田を「蚕都」と呼ばれるほどの地位にのし上げた。文明開化の象徴ともいえる電気も明治34年(1901)に上田電灯株式会社により畑山に発電所が建てられ、供給されるようになった。

明治37年、上田を訪れた島崎藤村は上田のようすを「千曲川スケッチ」に次のように書いている。

上田は小諸の堅実にひきかえ、敏捷を以て聞こえた土地だ。(中略)たえず周囲に心を配って、旧い城下の繁昌を維持しなければ成らないのが上田の位置だ。店々の飾りつけを見ても、競って顧客の注意を引くように快く出来ている。塩、鯉節、太物※、その他上田で小売する商品の中には、小諸から供給する荷物も少なくないという。(※綿織物、麻織物の総称)

当時の商店街の活気とともに、上田の市民性をあらわしている。

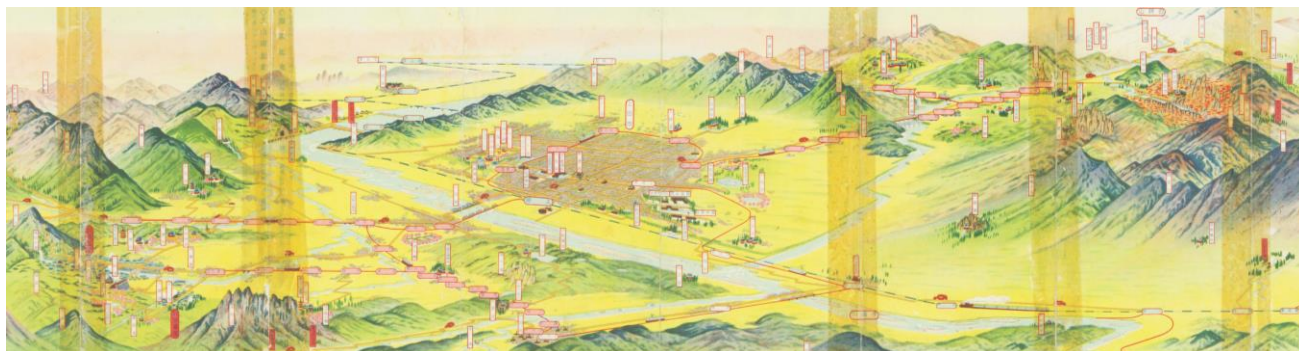


図22 上田市及其附近名所図絵

#### ○地元資本によるまちづくりと学習活動

大正期には、地元資本による鉄道が上田市域を網羅し、人々の移動や物資の運搬だけでなく、温泉や高原リゾート開発が一気に加速した。こうした都市の発展とともに、民衆の自己教育を基礎に、労働と結びついた生涯にわたる民衆の学習機関を創造しようとした「自由大学運動」が盛んとなり、「上田自由大学」が設立された。内容は、哲学、文学論、倫理学、心理学などの人文社会科学系の講義とし、長期間働きながら学習できる機関として運営された。上田自由大学は、高等教育の機会に恵まれなかった青年たちが、自らの手で、学習の場を創造していった運動であり、知的欲求の向上と自己成長のための学習運動として展開され、上田の生涯学習の先駆的活動といえる。この運動の中から「児童自由画運動」、「農民美術運動」も誕生し、「己の住む地域を自らの手で良くしたい」という明確な理念をもっていた。

## (2) 地域別特徴

### ① 中央地域

- 中央地域は、古くは東山道、中世以降は近世の北国街道に繋がる道が通り、多くの人・物・情報が行き交い、バラエティかつ秀逸・豊富な歴史と文化が形成されてきた。
- 中央地域の東部（旧神川村）は、古代以来の信濃国分寺が法灯を伝え、その門前と北国街道筋には養蚕家屋群が発達した。近代には大屋駅と駅前商店街が形成された。
- 中央地域の西部（旧上田町）は、真田氏による上田城築城と城下町の形成、そして北国街道上田宿として、また上州道、保福寺道の発着点として栄え、様々な文物が入り、産業が育ち町人の文化が繁栄した。近代には信越本線上田駅が開業し、常田館製糸場をはじめとする蚕糸業関係を中心に飛躍的に発展した。
- 近代の上田は、産学官の連携によって発展した。中央地域においては、製糸場や蚕繭集積の倉庫業、蚕種製造業等の産業と、蚕業に関わる学問教育、鉄道敷設や行政の官が連携してまちづくりを行ってきた。この産学官連携の精神を引き継いだ、産学官連携施設「一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）」は、地域産業の発展に寄与することを目的として活動している。
- 上田城下町の祭礼でもっとも盛大に举行されたのがいまに続く祇園祭である。海野町・常田村からは「お舟の天王山車」（市指定）や常田獅子、原町からは「お山の天王山車」、房山・山口からは房山獅子がでていた。この常田・房山獅子は、上田城築城や修築の際に舞われた三頭獅子といわれ、上田市を代表する祭礼となっている。また国分寺では、中世以降に、門前の壇信徒によって「蘇民講」が形成され、毎年1月8日の八日堂縁日を開催し、近隣諸国から参詣者を招いてきた。
- 金井正と山越脩蔵<sup>しゅうぞう</sup>が、山本鼎とともに興した児童自由画教育と農民美術運動と、猪坂直一<sup>いさなおかず</sup>とともに開講した上田自由大学の運動は、その後全国的に広がると同時に、上田市の社会教育や生涯学習の大きな指針となったことは、地域の誇りとなっている。



上田城跡



旧千曲会館

蚕業に関わる学問教育、上田蚕糸専門学校の同窓会館



蘇民将来符を求める人々で賑わう  
八日堂縁日



金井正



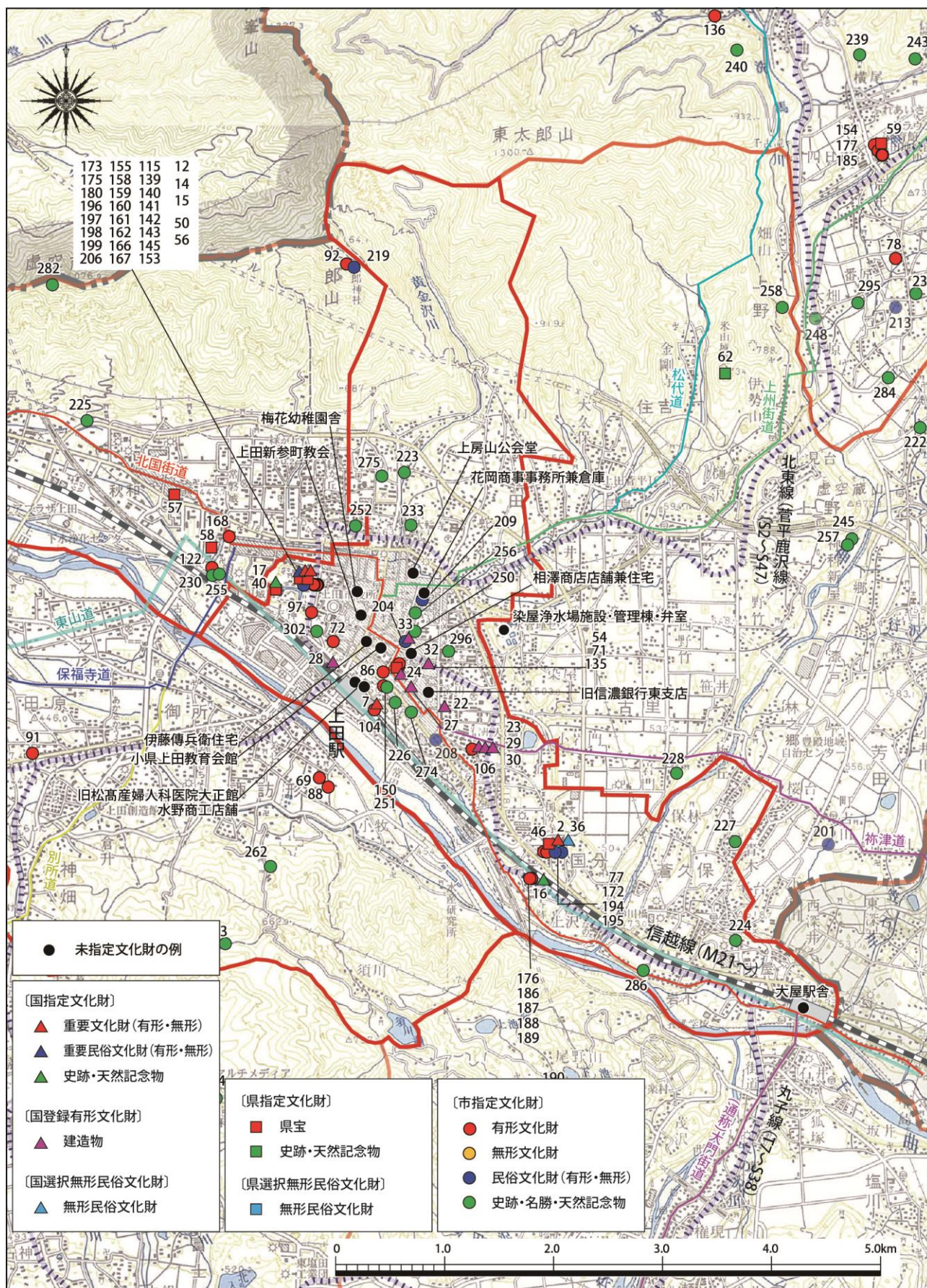


図 23 中央地域 文化財分布図



## ② 西部地域

- 西部地域は、虚空蔵山の南麓を北国街道が通り、この街道筋の町並みが残る地域である。特に上塩尻は上田宿の助郷として発展した。
- 秋和、上塩尻、下塩尻は、幕末から蚕種製造と養蚕業が盛んだったことから、養蚕家屋群を形成している。この地区に蚕種製造業と養蚕業が発達した背景には、自然環境が大きく影響している。千曲川岩鼻の強風により、蚕の有害虫の発生が抑えられたこと、田畑とならない痩せた河原や虚空蔵山の急斜面を桑園として活用してきたことである。
- 城下の西端にあたる新町自治会から諏訪部自治会にかけての一带には、北国街道と保福寺道との分岐の道標や、城下を隔てる矢出沢川にかかる高橋、そして枅形など、近世城下町と街道の様相が凝縮されている。さらに、保福寺道を古舟の渡しに向かって下る坂下には、幕末から近代の大養蚕家屋がまともに残り、往時の繁栄を色濃く伝えている。



虚空蔵山



道標

## ③ 城南地域

- 城南地域は、千曲川左岸、上田城の南対岸に位置し、下之条地区と中之条地区に条里遺構が発達している。中之条の字界が条里を斜行していることや地名から、古代東山道が推定される地域である。
- 戦国期の村上氏と武田氏の激戦地となった上田原古戦場が地域の中心にあり、古戦場の周辺には合戦で亡くなった武将の墓が点在し、供養の寺「観音寺」がある。
- 近世には、松本に向かう保福寺道が通ったことから、沿道に大規模な養蚕家屋の集落が発達している。また、沿道の上田原、下之条、築地、吉田には、熱田系の御師<sup>おし</sup>によって伝えられた太神楽獅子が分布している。この地域の太神楽は余興芸も充実している。
- 第二次大戦中は、上田飛行場や上田原地下工場などが置かれ、ここに向かう軍用道路も敷設された。これらの遺跡は現在も多く残っている。
- 岩鼻は、千曲川断層と千曲川の浸食活動による高さ 110m 余の切り立った崖である。中腹に見える大きな凹みは、千曲川の河床が高かったころ川の水がぶつかって削り取った跡であり、その奇景から巨人「でえら坊」、「大鼠と唐猫」、「小泉小太郎」伝説がある。岩肌には北海道などに分布する高山植物「モイワナズナ」が分布し、野鳥「チョウゲンボウ」が繁殖するなど、そうした価値も高く評価されている。



上田原合戦場の碑



上田飛行場跡碑



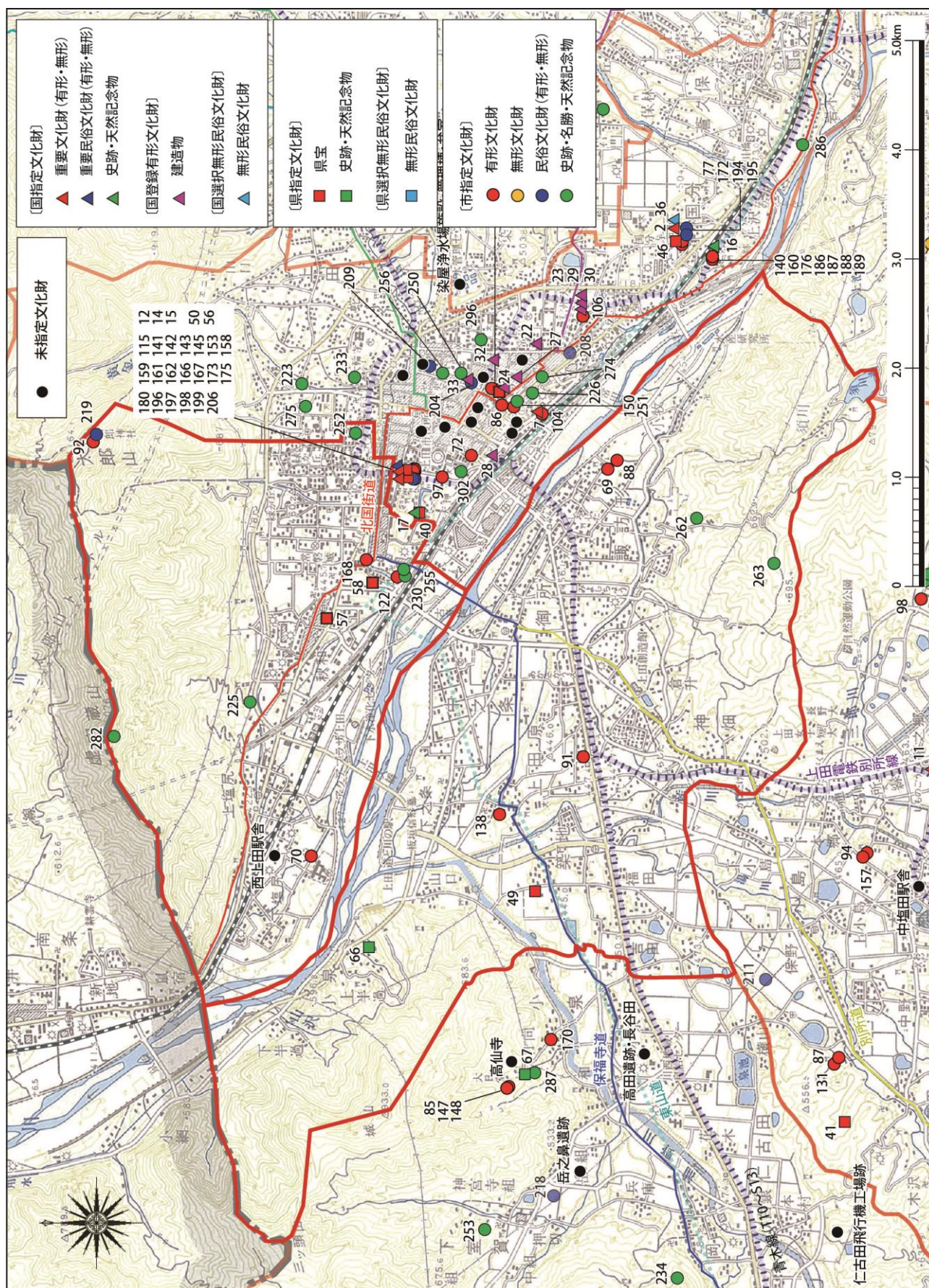


図 24 西部地域 城南地域 文化財分布図



## ④ 神科・豊殿地域

- ・神科・豊殿地域は、神川によって西の神科地区と東の豊殿地区に分かれる。神科地区には矢花の七つ塚（矢花古墳群）が、豊殿地区には下郷古墳群や赤坂將軍塚などの後期古墳群が存在する。
- ・神科地区の大部をなす染屋台地には、古代末から中世にかけて開拓されたと推定される染屋台条里水田跡遺跡が広がる。
- ・豊殿地区漆戸の八千原遺跡発掘調査においては、縄文時代中期～後期を中心とする柄鏡形敷石建物跡を含む集落遺跡、南に接する林之郷遺跡群E地区からは、弥生後期から古墳時代にかけての集落跡が確認されている。さらに林之郷遺跡群E地区の西側に位置する法楽寺遺跡からは、古代豪族の銅印「穴来（未）私印」、古代から中世にかけての銅三尊仏、銅製馨、布目瓦などが出土し、古代豪族の存在と仏教施設の存在が想定される。
- ・中世末の戦国時代、神科・豊殿地域には真田氏や武田氏、村上氏らが戦を繰り広げた砥石米山城跡をはじめ、真田・上州から上田盆地に抜ける上州道を抑える山城群が数多く築かれた。
- ・近世以降は、上州道筋や沓津道筋などの街道筋に沿って養蚕家屋群が発達し、現在の集落の原型をなしている。養蚕集落では蚕に対する信仰が盛んとなり、小井田の蚕影神社には「いっつあ」と呼ばれる蚕を飼育する藁製の円座が千個以上も奉納されている。
- ・明治35年(1902)、上田の町に初めて電灯を灯した発電所が神川西沿岸の畑山地区に築造された。この発電所跡は、蚕都上田における近代化を象徴する遺跡となっている。
- ・昭和2年(1927)には真田傍陽線が神科・豊殿地域を通り、昭和47年(1972)に廃線となっている。
- ・地域の北東端の殿城山麓に所在する「稲倉の棚田」は、元禄期頃から開拓が進んだと伝えられている。平成11年(1999)農林水産省の「棚田百選」に選定され、地域住民らが中心となってその活用を進めている。
- ・神科・豊殿地域には、8つの獅子神楽と1つの屋台囃子が伝わる。獅子神楽は、いずれも熱田系の丸一で、神科地区では笹井と染屋に、豊殿地区では小井田、下郷、中吉田、町吉田、林之郷、矢沢に、屋台囃子は豊殿地区の大日木に伝わっている。



砥石城跡



畑山発電所跡



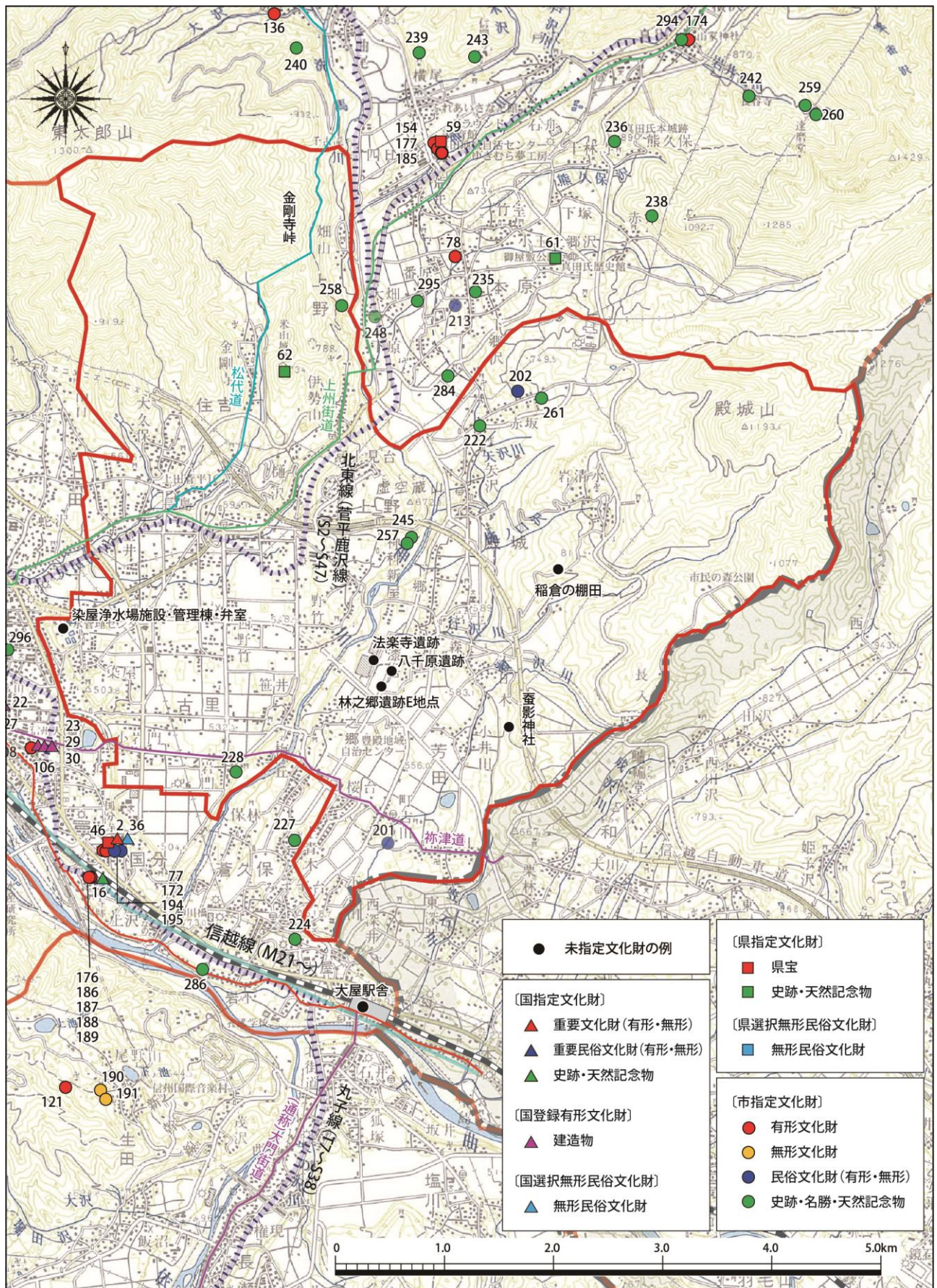


図 25 神科・豊殿地域 文化財分布図



## ⑤ 塩田地域

- 塩田地域は、南に独鈷山塊、西に夫神山塊が聳え、上田市の中でも特に雨の少ない地域である。このため、山々や水源の神仏に対する雨乞いの習俗と伝説が数多く伝わる。また、私有のものも含めると 239 を数えるため池や、灌漑用水の開拓によって克服してきた歴史と景観は、この地域を最も特徴づけるものである。
- 古代末から中世には仏教文化圏を形成している。特に独鈷山麓や夫神山麓に多くの寺社が建立されてきた。文化的に大きく発達した塩田地域には、北条氏による守護所がおかれ、鎌倉道が鎌倉にむかって東行する。塩田北条氏の庇護があったと思われ、塩田地域には臨済禅などの中世新仏教や天台の談義所學問所もあり、「信州の学海」と称される仏教文化が隆盛した。
- 雨の少ない厳しい自然環境を克服して開拓した豊かな穀倉地帯は、戦国期には武将たちの領地争奪の的となった。塩田城跡などの攻防の記録や、寺社の安堵状などに、村上氏、武田氏、真田氏たちが覇権を競う姿が伝えられる。
- 水源となる山への信仰と、雨乞い行事の「岳の幟」(選択) やため池の堤の上で松明をかざす「百八手」など、地域を特徴付ける習俗が多くある。また、手塚無量寺には、「元木の地蔵」といわれる雨乞いの地蔵菩薩立像が伝わる。下之郷三頭獅子(市指定) は、元禄 4 年(1691)来光寺池の土手を築く工事の地固めに出場した記録があり、近世以降も山や水に対する信仰は続いている。
- 元禄 6 年(1693)には、塩田平の人々の働きかけにより、四国八十八ヶ所霊場を勧請し、お寺やお堂、仏像等が造られた。その後、江戸時代後期の文政・天保期に、行者海心の発願により弘法大師像が納められる。この霊場巡りは、現在も行われている。
- 大正 10 年(1921)、別所温泉への湯治客を輸送する軌道線として三好町駅(現在の城下駅)～上田原駅～別所駅(現在の別所温泉駅)間の「川西線」(現在の別所線)が開業する。この鉄道敷設により、別所温泉には川端康成や北原白秋、川口松太郎、池波正太郎らの文人や高倉輝や山本宣治<sup>せんじ</sup>らの革新思想家が訪れており、上田市の革新的な運動や思想形成に影響を及ぼしている。



安楽寺八角三重塔



岳の幟祭礼行事



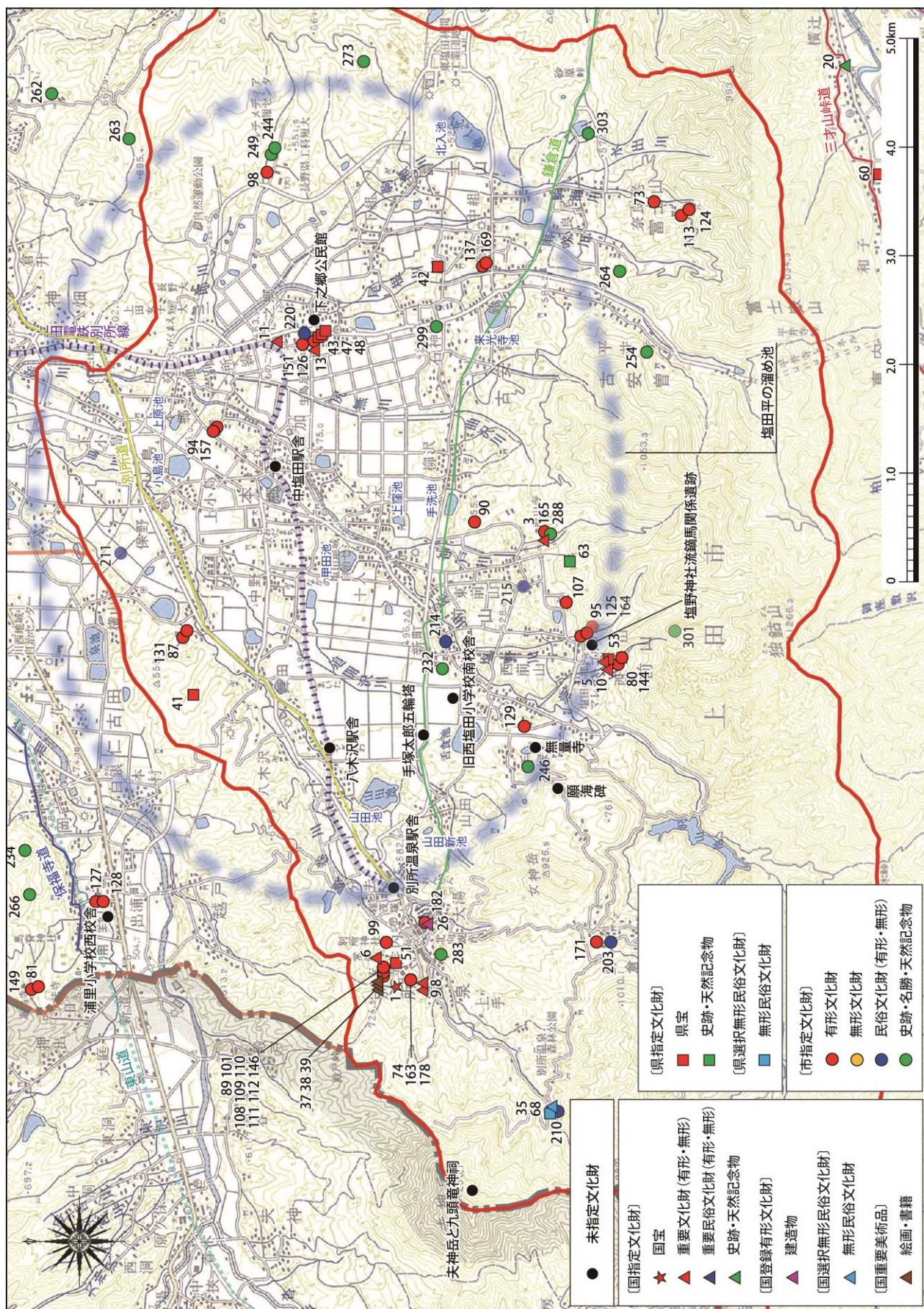


図 26 塩田地域 文化財分布図



## ⑥ 川西地域

- ・川西地域は、古代東山道が通った地域である。道筋はほぼ近世保福寺道に重なるものと想定され、平成17年(2005)には小泉字長谷田の保福寺道南隣接地で幅12mの道路遺構が検出されている。
- ・長谷田に隣接する高田遺跡は、東山道と室賀峠の分岐にあたり、布目瓦が出土している。また、室賀峠の入口岳之鼻遺跡からは瓦塔片が出土し、古代の寺院などの施設が色濃く想定される。
- ・東山道筋の浦野地区には馬背神社がある。馬背神社は延喜式内社子檀嶺神社(青木村)の東山麓に位置し、浦野地区には古代の塩原牧の存在も推定される。
- ・川西地域はまた、塩田平の仏教文化圏の北辺に位置し、中世にまで期限が遡ると推定されている東昌寺や高仙寺などがある。上室賀にある「五位塚の板碑」は、鎌倉時代建治年間の作で、長野県内最大最古といわれる。
- ・中世末の戦国時代には武田信玄が岡城を攻略し、丸馬出を三方に持つ信玄流の縄張りに修築している。この地は、宿敵上杉謙信との決戦の地、川中島・善光寺平へ向かう室賀峠へ繋がる道があり、信玄の小県西部の抑えであると同時に、北信濃攻略の足がかりとなっている。
- ・近世には、上田城下から松本に向かう保福寺道が通り、小泉、岡、浦野地区には街道筋の町並みが良好に残り、この町並みが近代の養蚕家屋群へと発展している。特に浦野地区は浦野宿となっていたため、宿場町の景観とともに枡形や高札場跡なども残っている。
- ・川西地域は、6つの獅子神楽が伝わるが、いずれも熱田系の御師によって、保福寺道を通じて伝えられたものである。
- ・第二次世界大戦末期には、仁古田山中に地下飛行場建設が着手され、飛行機の燃料に使うために松脂を採取した跡などが周辺の山々に残っている。



岡城跡



浦野宿



下室賀三頭獅子



仁古田地下飛行機組立工場



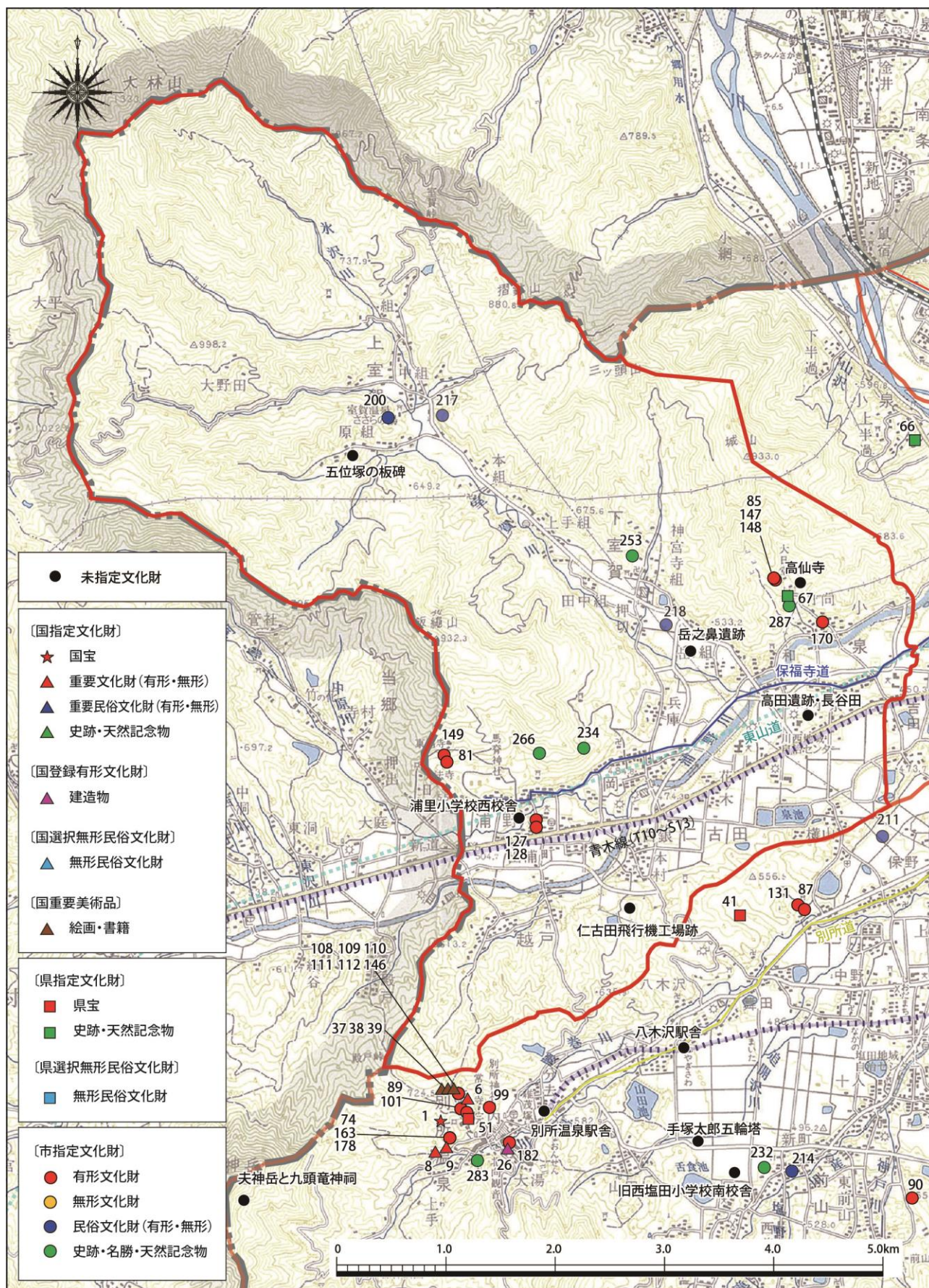
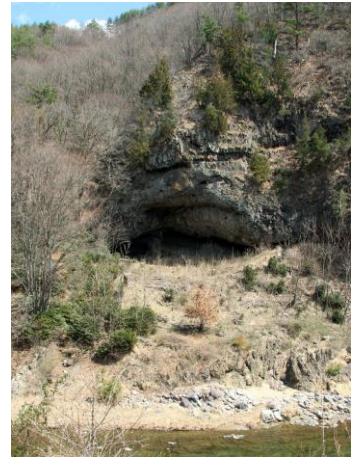


図 27 川西地域 文化財分布図

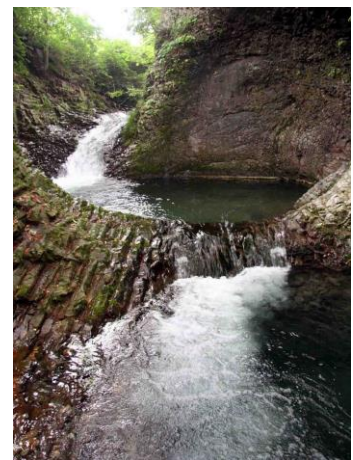


## ⑦ 丸子地域

- ・丸子地域の歴史と文化は、大きく依田川と内村川の2つの流域に分けられる。
- ・依田川中流の崖には、古墳時代としては独特な葬法「曝葬」「風葬」を物語る鳥羽山洞窟遺跡がある。また、下流右岸段丘上の社軍神遺跡からは、初期ヤマト政権の中心と考えられている纏向遺跡との繋がりを示す遺物が出土している。
- ・古代末、依田地区に身を寄せていた木曾義仲は、上田小県の土豪とともに挙兵し、平氏を追討して征夷大將軍に任ぜられた。この事件は、古代貴族社会から中世武士社会への画期となっている。
- ・中世以降、依田川に沿って中山道長久保宿や諏訪地域とを結ぶ大門峠道が通る。近代になると、大門街道と呼ばれた道に沿って、依田川の良い水質を利用した製糸工場が群をなし、北の大屋駅を通じて世界へ生糸を輸出した。またこの沿道は蚕業関係者の商店・歓楽街として発展した。
- ・内村川沿いには、松本地域と上田市を結ぶ三才山峠道が通る。沿道の地域や飯沼地区などでは大規模な養蚕家屋が集積し、幕末の蚕種・養蚕の輸出関係の史料が大量に伝わる。
- ・東御市と接する丸子地域の東辺、藤原田地区にも養蚕家屋が集積している。
- ・丸子地域の発展に大正期に敷設された上田丸子電鉄丸子線と西丸子線は欠かせなかった。丸子線は、上田東～大屋～丸子町間を運行した。西丸子線は、別所線下之郷駅を始発に丸子町の中心部西丸子駅を結ぶ路線として開業した。
- ・内村川の三才山峠道沿いには法住寺虚空蔵堂や霊泉寺など、中世以来の寺院が多く、塩田地域の独鈷山北麓と一体的な文化圏を形成している。
- ・三才山峠の麓には、鹿教湯温泉、大塩温泉、霊泉寺温泉の三つの温泉からなる丸子温泉郷がある。鹿教湯温泉文殊堂（県宝）は、日本三大文殊の一つとして参詣客を集め、霊泉寺温泉は、霊泉寺を中心に栄えてきた。また、霊泉寺川の途中には稚児ヶ淵伝説をもつおうけつ鰐穴が川底いっぱいに2つ並んでできている。
- ・丸子温泉郷は、江戸時代に湯治場として栄え、昭和31年(1956)に国民保養温泉地に指定された。鹿教湯温泉は、温泉を利用した鹿教湯病院のリハビリ施設・温泉クアハウスとともに現代湯治医療地として発展してきた。



鳥羽山洞窟遺跡



霊泉寺川稚児ヶ淵（鰐穴）



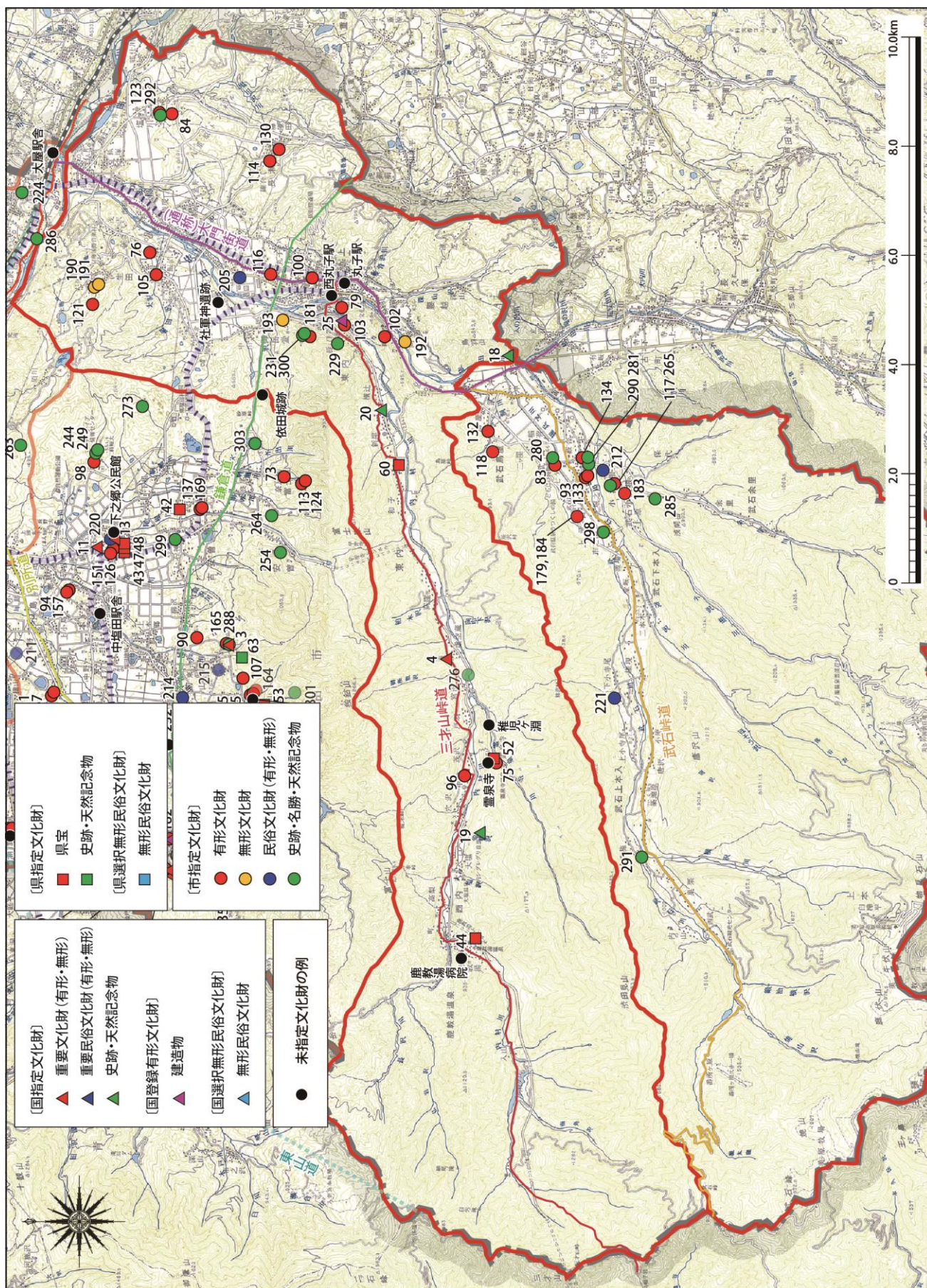


図 28 丸子地域 武石地域 文化財分布図



## ⑧ 真田地域

- ・真田地域は、四阿山（2,354m）に源を発する神川とその支流によって形成された扇状地と河岸段丘上に発達してきた。
- ・古代には四阿山を白山に見立てた白山信仰が入り、延喜式内社山家神社をはじめ、地域内のいたるところに白山信仰の文化財がある。寺院関係では、白山比咩<sup>ひめ</sup>の化身といわれる十一面観音菩薩像が、三島社御正体や実相院十一面観音菩薩立像にあらわれている。
- ・戦国時代にはこの地に真田氏が興る。真田氏は上州道に沿って領地を拡大し、沿道の山々に山城を築き、あるいは奪取しながら地域を守り治め、城下町を整備していった。また、上州道沿線はもちろん、上州道から分岐して松代へ至る松代道、須坂に向かう大笹道もあり、それぞれ街道筋には集落が発達している。
- ・集落には伝統的な習俗や芸能等が発達している。戸沢地区には、わら馬引きと道祖神祭が混交した「ねじ行事」が伝わる。また、傍陽横道集落には十九夜講と石造如意輪観音像が、真田氏居館跡のある本原の中原地区には、三頭獅子が伝わる。この三頭獅子は、常田獅子や房山獅子の原型となっている。
- ・昭和2年(1927)に真田傍陽線が開通し、上田駅と真田地域の傍陽駅、真田駅を結んでいた。この開通により菅平の観光開発が進み、真田傍陽線は菅平高原や群馬県への交通手段として、あるいは高原野菜、リンゴなどの農産物を輸送するための路線として利用された。
- ・真田地域の北に位置する菅平高原は、希少な動植物の宝庫でもある。ツキヌキソウや石割りのアオナシ、大笹街道のシナノキなどが自生し、菅平湿原にはクロサンショウウオが生息する。
- ・菅平高原の本格的な開発は、幕末以降の上田藩による。地域は養蚕と高原野菜を主とする農業、畜産によって発達する。昭和初期、スキーリゾートや避暑地としての開発が始まり、地域の農家は、冬季の現金収入の手段としてホテル・旅館業を興していく。



四阿山頂で行われている神事



実相院十一面観音菩薩立像



ねじ行事



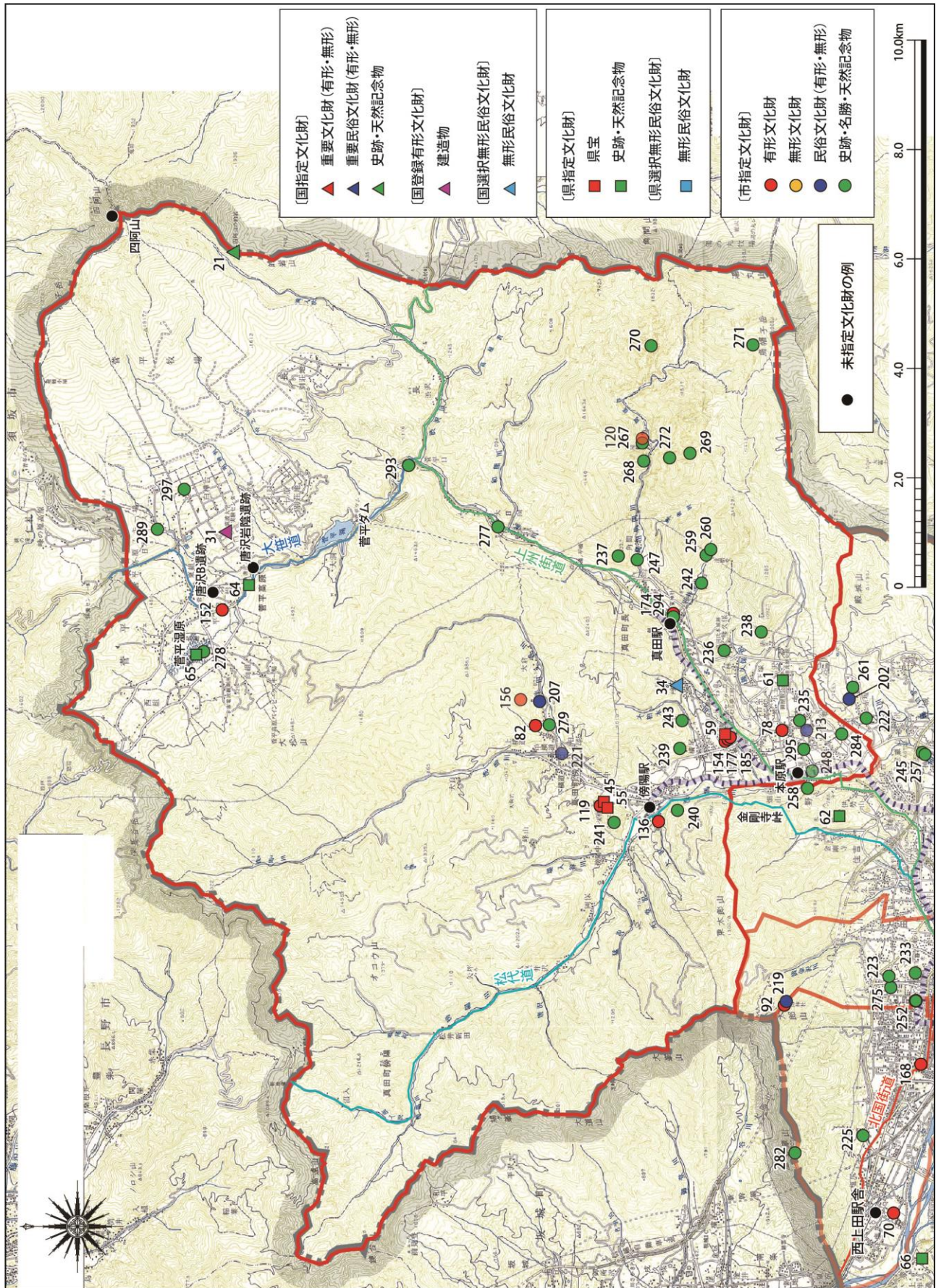


図 29 真田地域 文化財分布図



⑨ 武石地域

- ・武石地域は、古代の主要街道から外れ、中世の山城も数少なく、室町時代に依田庄武石郷として歴史上に現れる地域である。
- ・武石地域の祖先は平安時代後期の下総の武家武石氏であるという伝承が、地域の社寺に伝わっている。正念寺には、平安時代後期の阿弥陀如来立像が伝えられ、また鬼女紅葉伝説ものこる。
- ・『信府統記』（近世の信濃国内の地誌）には、武石峠に通じる道筋を「この路往還にあらず、松本より上田・小諸等の城下を除けて中山道長久保へ出る道なり」と記している。正規の道ではないが、上田・小諸の城下をさけて江戸へ通じる最短距離の道であったことが分かり、この道筋には集落や神社、お堂が現在も点在する。
- ・武石地域は、主要街道から外れた地域であるがゆえに、山間の農村の原風景をよく留めており、地域の魅力となっている。
- ・子檀嶺神社を主会場に、7年に一度執行される御柱大祭は、地域を挙げて取り組まれる神事である。1本柱が特徴で、御柱曳航の前につく「お練り行列」は大名行列を模したものといわれ、「おかめ」や「ひょっとこ」なども入る。



正念寺阿弥陀如来立像



お練り

### (3) 歴史文化の特性

- 上田市における人々の暮らしは旧石器時代にはじまり、関東地方や中部地方の遺跡にみられる縄文時代中期の「柄鏡形敷石住居」という独特な形態の住居や、弥生時代後期の千曲川流域に広がる「箱清水土器文化圏」など、広い交易圏・文化圏に属していた。
- 古代の上田市は、信濃国分寺と東山道を通じて古代の仏教的な宗教空間が形成されていた。当時、その主体は国家であり、地域の豪族等の一部有力者であった。中世になるとこうした土壌の上に、新たに台頭した武士等の支配者層が支援した中世仏教が、鎌倉道を介して広がり、「信州の学海」といわれる仏教文化圏を形作る。
- 上田市はまた、全国有数の小雨地帯として、水源となる山への信仰や雨乞いの習俗が発達した。中世以降、仏教と水源や雨に対する信仰や習俗が結びついて、地域の寺社を先導役として、あるいはメインステージとして行事が展開される。
- 水源を確保して水田等を開拓した遺構は、ため池や堰、条里水田等に残されている。この豊かな穀倉地帯の支配を巡って、上田市域も戦乱の舞台となっていく。その中、真田の地から真田氏が台頭し、山城を築き、上田城を築いて上田小県を治めていく。真田氏は、徳川との上田合戦、大坂の陣を通じて武勇を馳せ、上田市民の英雄として語り継がれる。
- 近世には街道や地域の道も整備され、宿場町をはじめ、沿道には集落が発達する。また、戦国期以来の城下町の集落も発展する。集落では、田畑の耕作とともに養蚕が盛んとなり、養蚕家屋群を形成する。上田市における蚕業（蚕種製造・養蚕・製糸）の発達は、山がちな傾斜地、痩せた土地、少雨、断崖を抜ける強風といった弱点を克服した成果であり、集落は、地域の伝統的な習俗や芸能を伝える母体として、現代に受け継がれる。
- 近代になると信越本線が上田市を通り、上田市の蚕業は爆発的に飛躍する。近代化が一気に進み、「蚕都上田」と称されるまでになる。この飛躍の素地には、近世後期以来の蚕種製造や養蚕の技術開発に加えて、産・学・官が一体となって学校や駅の誘致運動などを行ったことにある。
- 蚕都上田の繁栄を背景としながら、地域資源である温泉や高原が、地元資本による鉄道敷設とともに開発されていく。温泉は、外湯の湯治場から内湯の温泉ホテルへ、高原は、牧場や畑地から避暑地やスキーリゾート地へと変貌していく。同時に、先進・進取・敏捷といわれる気風を持つ市民は、近代の上田自由大学運動に見られるように、革新的な学習と実践を行った。
- 上田市は官道や街道が通過する結節点として重要な地点にあったことから、現代に至る長い歴史の中で、いつの時代も新しい文化をいち早く受容し、多彩な文化を形成してきたことが特徴である。

## 4 上田市の文化財の保存・活用施策の現状と課題

### (1) 調査・指定

#### ① 地域内分権と文化財保護

平成18年(2006)の市町村合併により、教育委員会事務局も統合された。それぞれにあった文化財保護部局も再編され、現生涯学習・文化財課が旧上田地域を担い、旧町村には教育事務所が設置され、各地域の文化財保護をそれぞれ担うこととなった。その後、業務の見直しがなされ、国指定文化財については、補助事業の関係からすべて生涯学習・文化財課が、県・市の指定文化財と未指定文化財については各教育事務所が分担して担当することとした。

現在、各地域の教育事務所は、業務の多忙化や文化財専門職の不在により、地域で文化財保護することが困難となりつつある。

#### ② 地域や種類における偏在

文化財件数を地域別にみると、中央と塩田、真田地域に多く、城南や神科・豊殿、武石地域が少ない。種別では、建造物や美術工芸品、史跡が多く、天然記念物が少ない傾向にある。

中央地域には、前述のとおり信濃国分寺(跡)〔国・県・市〕、上田城跡〔国〕、旧常田館製糸場施設〔国〕と、各時代を代表する文化財が数多く残る事に加え、上田市立博物館と信濃国分寺資料館があるため、文化財が集約されていることが要因としてあげられる。塩田地域は仏教文化財、真田地域は真田氏関係や山城を中心に指定件数が多い。

表7 文化財件数（地域別）（平成30年10月時点）

地域名	種別	国指定	県指定	市指定	国登録	国選択	県選択	地域別合計
中央地域		7	5	58	9	1		80
西部地域			2	7				9
神科・豊殿地域			1	9				10
城南地域			2	6				8
塩田地域		12*	8	53	1	1	1	76
川西地域			1	15				16
丸子地域		4	3	25	1			33
真田地域		1	6	43	1	1		52
武石地域				19				19
		24	28	235	12	3	1	303

※重要美術品（3件）を含んでいる。

#### ③ 未指定文化財の保護

近年の調査成果から（第3章に詳述）、自治会等で守っているお堂に古代・中世に遡りえる仏像があり、未指定であっても盗難や火災から守るべき案件が数多くあった。養



蚕家屋の調査では、家屋や屋敷が広大であるがゆえに、管理が行き届かなくなっていたり、既に空き家となっているケースも多く見られた。蚕都上田を支えた養蚕農家の遺構は消滅の危機にあり、保護措置が必要である。

#### ④ 文化財調査の継続

今後、文化財のあらゆる分野で、現地に赴き所有者等から聞き取りする悉皆的な調査を継続し、文化財の背景や取り巻く環境を把握することが大切である。

### (2) 保存・整備・公開

#### ① 防災・防犯対策の遅れ

- ・建造物へのき損や放火、美術工芸品の盗難が生じ、対策を検討する必要がある。
- ・国、県の指定文化財については、定期的に文化財パトロールを実施している。市指定文化財は件数が多く、毎年現状調査を実施することが困難な状況である。
- ・国指定文化財については自動火災報知設備や消火施設が整備されているものの、県指定や市指定については未設置の事例が多い。

#### ② 情報発信

- ・上田市は、「上田市文化財マップ」、「上田城・上田城下町絵図アーカイブ」、「上田を支えた人々～上田人物伝～」等のデジタル情報や、映像を使って文化財を紹介する「未来の贈り物 上田のお宝発見」をインターネットにて公開している。今後さらに、文化財情報のデジタル化やインターネット上の公開を進める必要がある。
- ・無形民俗文化財の祭事予定については、「広報うえだ」や市ホームページ、公民館だよりで紹介するなどの情報発信を行っている。

#### ③ 文化財保護を担う中核施設の設置・更新

- ・行政文書や歴史的地域資料等を収集・保存し、また旧市町村誌編纂事業により収集した資料を保存するために、仮称「公文書館」の設置の検討を進めている。
- ・上田市が設置している博物館等施設は、上田市立博物館、信濃国分寺資料館、丸子郷土資料館、ともしび博物館と市立美術館の5館がある。これらの施設には、多数の文化財が収蔵・保管されており、一般公開の展示を行ったり、様々な学習・研究団体に使用されたりしている。このうち、上田市立博物館は指定文化財の収蔵点数が最も多いものの、施設の老朽化が著しく、本市の中核施設として十分な機能を果たせない状況にある。

#### ④ 整備事業の推進

- ・信濃国分寺跡は、史跡整備基本計画に基づき公有化と発掘調査を進めているが、進捗は遅れている。計画策定から15年が経過し、諸条件の変化を踏まえた計画の見直しが必要である。

- ・上田城跡は、史跡整備基本計画に基づき、発掘調査と整備事業を進めてきており、旧上田市民会館の撤去と、跡地の再整備が必要である。
- ・建造物の保存活用計画や美術工芸品の保存方針等が確立していないため、個別に計画策定や方針の確立が必要である。

#### ⑤ 観光資源としての活用

上田市では、博物館、美術館、資料館などの文化施設や、塩田地域の仏教文化財と田園風景、ため池や河川の水辺の体験、上田城や城下町の風景、温泉や高原など、歴史・文化・自然資源を活用した観光が産業の大きな柱の一つとなっている。今後は、対象を蚕糸業に関する近代化遺産まで広げると同時に、ポイントからルート型、ルート型からエリア型、通過型から滞在型の観光施策に活かす必要がある。

### (3) 文化財と周辺環境の一体的な保全

文化財は、周囲の自然や風土と密接に関係しながら作られ、守られてきた。文化財の理解や活用につながる周辺の自然環境や町並景観などの周辺環境について、一体的な保全に努める必要がある。映画等のロケ地として文化財や町並みを活用している上田市においては、周辺の景観保全は重要である。

### (4) 生涯学習・人材育成

#### ① 生涯学習・公民館活動等における地域学習

上田市では、地域の公民館や図書館の社会教育施設が果たす役割は大きい。現在、地域公民館に集まる歴史研究会や、それ以外のサークルも数多く存在し、独自に文化財や歴史に関する学習活動を行っている。社会教育施設が、そうした学習活動の場の提供や助力をしているほか、出前講座で市職員が講師として出向き文化財に関する講座を実施している。

#### ② 有形文化財保護における守り手の育成

多くの文化財は、所有者個人や法人、寺院等の宗教法人、地域の神社、自治会などによって守られてきた。しかし近年、自治会においては、少子高齢化と過疎化、住民の価値観の多様化による政教分離政策等により神社などの地域の文化財の保護が困難となっていること、寺院では檀信徒が急激に減少していることなどによって、文化財の維持管理が困難となってきている。

#### ③ 無形文化財伝承における後継者育成

- ・地域の習俗や祭り、これらに関わる伝統芸能なども後継者の育成に苦慮している。上田市のある地域では、小学校と連携して伝統芸能を授業や運動会、文化祭で取り組み、将来その子がいったんはふるさとを離れても、帰ってきたときに理解と愛情が持てるよう、また後継者となれるよう工夫している。またある保存団体では、大人だけで開

催していた行事に、青少年育成会やPTAと連携して子どもが参画し、その親や祖母も参加する仕掛けをして、盛大に祭りを挙行している。

- ・指定文化財の中で伝統芸能等を継承する保存会等に対して、振興と後継者育成のために補助金を交付している（16団体）。伝統芸能の継承にむけては、補助金による支援だけではなく、他の方法による支援策が必要である。

## **（５）体制づくり**

### **① 行政の連携体制**

これまで、本市においては、教育委員会の生涯学習・文化財課が文化財保護行政を執行し、景観や伝統産業、観光といったその他の歴史文化に関連する業務については、都市建設部や商工観光部など関連部局の担当課が、9つの地域のまちづくりについては各地域自治センターや公民館などがそれぞれ行ってきた。しかしながら、文化財や歴史・文化を今後のまちづくりに有効活用するためには、文化財の本質的価値を守ることを基本としながらも、文化財保護行政以外の分野でも歴史文化を尊重したまちづくりの取り組みが行われるべきである。

そのためには、歴史文化の視点から市の内部の様々な施策を管理するネットワークと組織が必要不可欠である。

### **② 文化財保護を担う地域活動組織づくり**

本市には、指定・登録文化財以外にも、地域に住む人々の意識や生活に深く根付いた文化財が数多くあり、地域の一体感の共有や自己のアイデンティティの形成に大きな役割を果たしている。現実的には、全ての文化財をこれまでと同じ体制で保護していくことは難しく、これからは地域共有の財産として、社会全体で守っていく観点が不可欠であり、そのための体制づくりが求められる。

これまでも本市では、活発に文化財の保存・活用が繰り広げられてきたが、その活動は行政や市民、学術研究機関などが各々に行うことが多く、十分に連携が図られているとは言い難いものであった。また、文化財の保存・活用に資する市民団体も、調査・研究活動などが主なものであった。しかし、今後は、企業や学術研究機関なども含め全ての市民が一丸となって文化財の保存・活用や歴史文化のまちづくりに取り組むことが必要であり、そのための組織づくりが求められている。



## 第3章 文化財把握の方針

### 1 文化財調査の履歴（報告書名・刊行年・内容・編著者）

#### （1）旧市町村別調査履歴

##### ① 旧上田市

- ・上田市条里遺構分布調査・1973～1976・条里遺構と水路の分布調査・上田市教育委員会
- ・上田市の原始・古代文化・1974・埋蔵文化財分布調査・上田市教育委員会
- ・上田市神楽調査報告書・1976・市内の神楽について・上田民俗研究会
- ・上田市近代建築調査・1995・近代洋風建築の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・上田市民家調査・1996・上田市の民家 50 棟の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・上田市誌・1999～2004・上田市の自然、歴史、民俗・上田市誌編さん委員会
- ・上田市社寺建築調査・2003～2006 年度・社寺 230 棟の概要調査・NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会
- ・川西の石造文化財・2005 年度・川西地域の石造文化財悉皆調査・川西郷土研究会

##### ② 旧丸子町

- ・丸子町条里的遺構分布調査・1982・条里遺構と水路の分布調査・丸子町教育委員会
- ・丸子町誌・1992・丸子町の自然、歴史、民俗・丸子町誌編纂委員会

##### ③ 旧真田町

- ・真田町誌・1997～2002・真田町の自然、歴史、民俗・真田町誌編纂委員会

##### ④ 旧武石村

- ・武石村誌・2000・武石村の自然、歴史、民俗・武石村誌刊行会
- ・武石村の石造文化財・2000年度・武石村の石造文化財悉皆調査・武石村教育委員会

#### （2）長野県全域を対象とした調査履歴

- ・長野県石碑目録・1990・県内の石碑所在調査・長野県教育委員会
- ・長野県歴史の道調査報告書・1978～1995・県内の古代から近世までの道の調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近代化遺産・2009・長野県近代化遺産（建造物等）総合調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近世社寺建築第一次調査報告書・2002・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会

- ・長野県の近世社寺建築第二次調査報告書・1991・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の近世社寺建築・1982・長野県近世社寺建築緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の民俗芸能・1995・長野県民俗芸能緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県の諸職・1990・長野県諸職関係民俗文化財調査・長野県教育委員会
- ・長野県方言緊急調査報告書・1986・長野県の方言調査・長野県教育委員会
- ・長野県の民謡・1984・長野県の民謡緊急調査・長野県教育委員会
- ・長野県選択無形民俗文化財調査報告「味の文化財」・1984・郷土食の調査・長野県教育委員会
- ・長野県の中世城館跡・1983・長野県内の山城の分布調査報告書・長野県教育委員会
- ・長野県近代和風建築総合調査・2017・近代の和風建築物の分布等調査報告書・長野県教育委員会

## 2 構想策定に伴う文化財調査

上田市を特徴付ける文化財として、信濃国分寺以来の仏教文化財、中世戦国期の城郭群、そして蚕都上田の繁栄を示す文化財が挙げられる。このうち、城郭群については、長野県や宮坂武男氏の悉皆調査があったが、仏教文化財と蚕都上田の文化財に関する悉皆調査は実施されていなかった。

今回、調査研究が中世で止まっている仏教文化財、中でも盗難の被害が出ている仏像と、取壊しや空き家化が進む養蚕家屋群について悉皆調査を実施した。

### (1) 仏教文化財（仏像）調査

上田市の仏教文化財については、古代から中世室町初期までは調査研究や指定が進み、これまでの仏像の指定は、国指定が4件、県指定が4件、市指定が11件である。また時代的な内訳では、古代5件、中世11件、近世3件となっている。中世室町期以降については不明な点が多かったが、この要因としては、信濃国分寺や塩田平における古代から中世にかけての仏教文化財の質・量の豊富さが注目されてきたことと、先学の調査では近世の仏像は調査研究の対象としていなかったことが挙げられる。

今回の悉皆調査は、市内の寺院やお堂に所在する仏像を対象に、仏教美術史を専門とする武笠朗教授（実践女子大学）と小倉絵里子学芸員（高崎市タワー美術館）に依頼して実施した。平成28年から平成30年にかけて実施した結果、約1,500件を調査することができた。特に木彫の仏像について重点的に調査した結果、未指定の古代仏が12件、中世仏が13件確認され、いままで調査が及ばずに見過ごされてきた仏像の数多くあることが判明した。

大きなお寺の本尊で、多くの人に拝観されてきた仏像であっても、専門家の目で、須弥壇から下ろして調査することにより、どうしていままで指定されていないのか、と思われる案件もあった。また、所有者自身がその価値に気づいていないケースが多々あり、調査に際しての所見により、改めて保存の意識を高めていた。

近世以降でも、上田城下町原町呉服商万屋の成澤寛経（寛政9年(1797)生～明治元年(1868)没）が、成澤金兵衛の名で市内の88ヶ寺に奉納した弘法大師像、御室仏師源義邦、京仏師和田浄慶らの在銘作品が確認されているほか、廃仏毀釈により廃寺となった真田地域の白山寺金剛力士像が丸子地域の文殊堂で確認されたり、法住寺虚空蔵堂と独鈷山を挟んだ前山にも虚空蔵信仰が確認された。



仏教文化財調査中の様子

### (2) 蚕都上田に関わる養蚕家屋等調査

蚕都上田の繁栄を示す文化財の中には、旧常田館製糸場施設〔国〕や、信州大学繊維学部の建物群など、既に指定や登録された文化財がある。しかし、製糸工場に繭を供給



し、繁栄を支えた養蚕農家の家屋や遺構の調査は未実施であった。これは、かつてはどの地域にも当たり前に遍在していた養蚕農家の家屋について、文化財としての意識や、消滅の危機感が乏しかったことによるものと思われる。

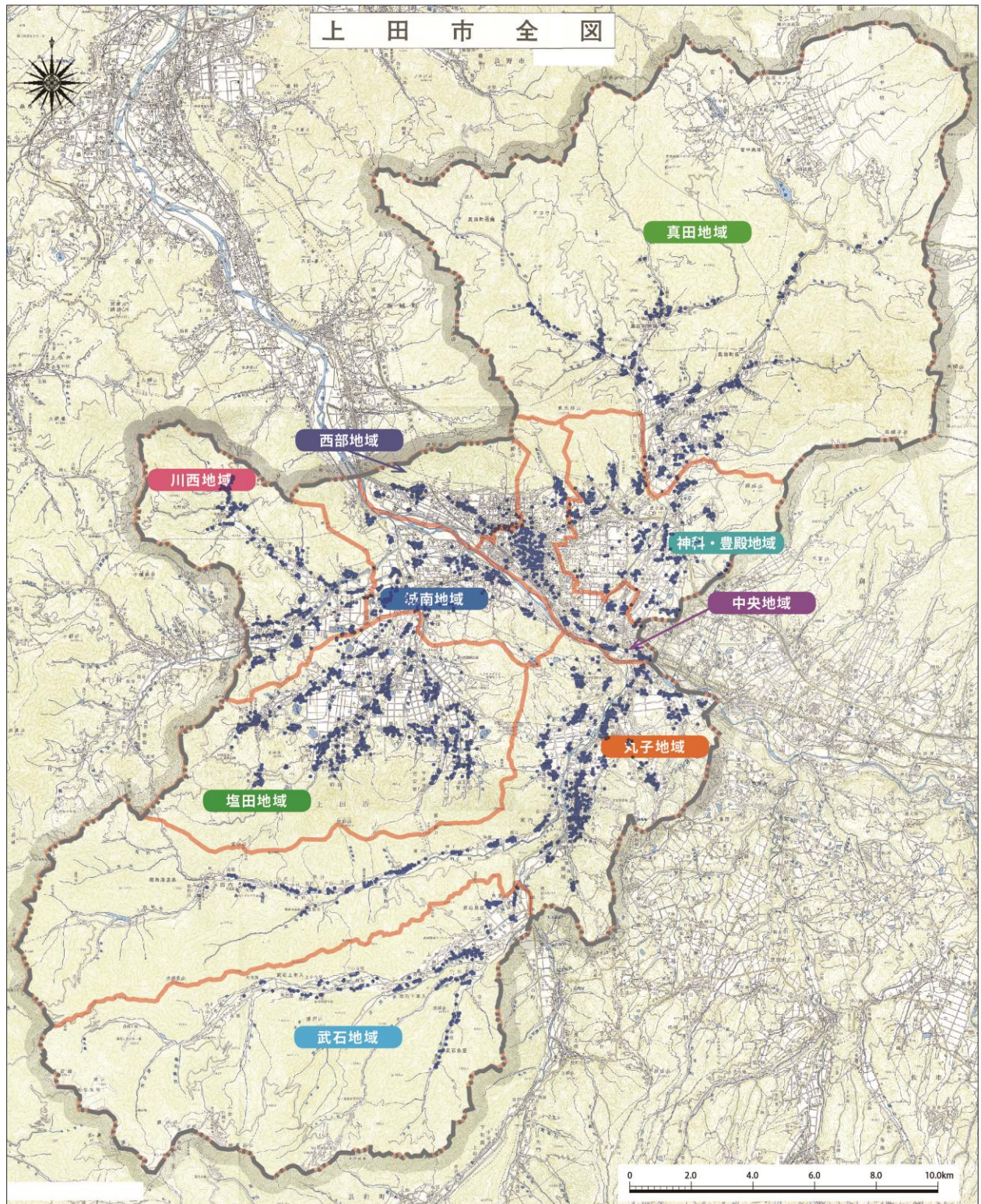


図 30 養蚕家屋等歴史的建造物分布図  
※昭和 20 年頃までに建てられたと見られる歴史的建造物の分布



今回、民俗学を専門とする太田喜美子講師（駒澤大学）に依頼し、駒澤大学博物館講座修了生とともに、昭和20年までの建物の所在調査と、養蚕農家の典型例に対する聞き取り調査を実施した。また、この悉皆調査は長野県近代和風建築総合調査を兼ねて実施した。

養蚕家屋の悉皆調査の結果、全市的に分布していることが判明した。また、塩田地域や丸子地域の平野部では、比較的広い敷地をとることができるため、広い屋敷地に主屋・土蔵・倉庫・蚕室・門・塀等の建物をコの字状や口の字状に配置する一方、山寄りの傾斜地では、敷地の制限により建物配置が比較的コンパクトになっていることなど、上田市の中でも地域的な特徴や偏りも明らかになりつつある。

このほか調査を通じて、家屋や屋敷の広大さにより管理が行き届かなくなったり、遂には空き家となっているケースも多く確認できた。蚕都上田を支えた養蚕農家の遺構は消滅の危機にあり、保護措置が必要である。

この建物調査では同時に、養蚕や農家の生活に関わる生業や暮らしの様相について、聞き取り調査を実施した。調査を通じて明らかになった事例の中には、屋敷に祀る神仏等の意味合いが不明になっている状況もみられた。建物というハードの中で営まれるソフトも、伝承・記録すべき時期となっている。



養蚕家屋等調査中の様子

### 3 今後実施すべき文化財調査

#### (1) 指定等に向けた調査

上田市では、文化財の指定等の際は、専門家の所見に基づく価値評価に加えて、その事例の重要性を客観的に判断できる一定の指標が必要であるという考えのもと、可能な限り類例調査を実施してきた。今後、指定や登録等が増えることが想定される分野の文化財に対しては、総合的に判断する指標が得られるよう、計画的に調査を進める必要がある。このため、主に以下の分野を対象に、地域性や年代的な特徴、あるいは希少性や消滅の恐れなどを把握するための調査を推進する。

##### ① 社寺建築

社寺建築は、中世建造物と、幕末から近代にかけての立川流や上田出身の竹内八十吉の作品に偏り、近世の建物についてはほとんど調査の手が入っていないのが実態である。旧上田市では、平成 15～17 年度に N P O 法人信州伝統的建造物保存技術研究会に委託して、社寺 230 棟の概要調査を実施しているほか、旧町村は町村誌編纂に際して調査をしている。今後、建物の老朽化による建て替えや、維持管理の困難さから取り壊しも予想されるため、以前の成果をもとに、補足調査を実施する。

##### ② 仏教文化財（仏像）

平成 30 年度に、ひとつおりの調査は完了するが、調査した仏像の中に、古代や中世に遡る可能性がある仏像が 10 点以上確認されている。この詳細な再調査を要する。

##### ③ 養蚕家屋群

平成 30 年度に、戦前までに建てられた家屋の分布調査と、典型例を示す調査票作成が終了する。今後はこの調査票をもとに、建築史や民俗学の専門家を交えての詳細調査を実施して、蚕種や養蚕を通じた近代化の歴史を明らかにする必要がある。

#### (2) 早急に行うべき記録等の調査

##### ① 地域の習俗や年中行事等の伝統文化

地域コミュニティにとって、地域の習俗や年中行事等の伝統文化の継承は重要な課題であり、自治会を中心に努力されているが、住民の高齢化や過疎化により、徐々に解体・消滅している傾向がある。

市町村誌編纂過程において、一定の調査は実施しているが、改めてこれを点検し、必要な追加調査を実施し、調査報告書にまとめる。

##### ② 石造文化財

上田市は古代東山道以来、中世鎌倉道、近世北国街道など交通の要衝として発展してきた。その道筋に沿って道標や道祖神、馬頭観音など、交通に関する石造文化財が数多く存在している。これらの石造文化財は、近年の道路改良等で原位置から移動されたり、



一箇所に集約されたりしている。

また、地域の講や信仰に基づく石造文化財も多種多様に存在し、これらの悉皆調査により記録として保存するとともに、周辺住民への聞き取りにより、原位置の確認や信仰のあり方などを確認する。

③ 埋蔵文化財（分布詳細調査）

上田市の埋蔵文化財の分布調査は、昭和49年(1974)に完了した遺物表採や聞き取りをもとに、図上で作成したものである。このため、精確性に欠けており、各種開発事業から埋蔵文化財を保護するため、試掘調査を基本にした詳細な分布調査が必要である。

④ 絵画等の調査

社寺等にある襖絵や軸、天井絵、絵馬について、これまで体系立てた調査を実施していない。なかには、保存状態が劣悪な屋外や、日光が当たる場所にあるため改善が必要ではあるが、まずは所在調査を実施して、リスト作成を行う。

## 第4章 文化財の保存・活用の基本方針

### 1 基本目標の設定

上田市には、古代から現代まで、建造物や美術工芸品、史跡、民俗など、どの分野においても優れた文化財が豊富にある。これは、古代東山道からはじまり、中世鎌倉道や近世街道、近代の国道と鉄道、そして現代の新幹線や自動車道などの高速交通網に至るまで、ひと・もの・情報が行き交うなかで、絶え間なく先進の文化を取り入れてきた証として残されたものといえる。

先進的な技術と思想を持ってつくられ、継承されてきた文化財は、すでに上田市の観光資源として大きな役割を担っている。同時に、郷土の歴史を学ぼうとする市民活動や、文化財を地域づくりに活用しようとする機運が盛んになっている。こうした文化財に関連する観光開発、地域学習、地域づくりは、多くの市民とともに取り組む必要がある。

一方で、本来地域の保有する文化財は地域が継承してきたものではあるが、歴史や文化財研究の専門性が高まるにつれて、歴史文化に触れ、学び、継承していく間口が狭まっていると感じる市民も多い。個々の文化財の保存と活用を、所有者等に委ねているだけでは限界があり、地域の共有財産として見直す機会も必要である。

したがって、これからの文化財保護においては、広範な市民が歴史文化に触れる機会を積極的につくるとともに、文化財保護について高い見識を持つ「ひと」を、行政、大学、NPO や民間研究会等が連携して育てていく必要がある。これによって、地域の歴史的・文化的背景をさらに深く学び究め、上田市が新たな文化を生む土壌となる。

上田市の文化財の保存・活用の基本目標は、「市民と産・学・官の連携・協働により、歴史や文化・風土を学び、継承し、磨き上げていくことにより、地域ごとあるいは上田市全体の魅力の向上に役立てること」とする。

## 2 基本方針

本市における文化財の保存・活用の基本方針は、以下のとおりとする。

### (1) 文化財調査と指定の推進

#### ① 調査・研究の推進

古文書等の文献史学、考古学、美術史学、建築史学、民俗学、自然科学等、多様かつ専門性の高い調査・研究を今後も推進していく。

上田市を特徴付けるものとして関連文化財群のテーマに沿った調査・研究を推進する。特に、次の3点について調査・研究のさらなる充実を図る。

- 1) 古代・中世の仏教文化の伝播と形成から、現代に連なる信仰や伝統文化までの、通史的な調査研究
- 2) 古代末の木曾義仲挙兵からはじまる武士社会の動向を示す居館・城跡や古文書
- 3) 幕末から始まる蚕種製造と養蚕、製糸業に関わる史資料の研究と保存

#### ② 調査・研究成果のアーカイブ機能の充実

上田市の文化財に関する基礎的な情報や調査・研究成果について、後続の研究や教育の場で活かせるように適切に収集・保存し、共有化を推進する。そのため、本市の図書館や博物館等の社会教育施設では、研究内容の相互共有やアーカイブ機能の充実を図り、歴史文化に関する情報を閲覧できる環境を整えていく。

史資料の収集保管の機能強化に向けては、仮称「公文書館」の設置を計画している。行政文書、歴史的地域資料等が収集・保存され、さらに旧市町村誌編さん事業により収集した資料も保存される予定である。

また、大学・研究機関のデータベースと相互連携を図る方法も検討する。

選択文化財となっている3件の無形文化財と、一部の民俗芸能等の映像資料は、マルチメディア情報センターで収集・活用されているが、今後も機会を捉えて無形文化財の映像記録の製作と収集を継続する。

#### ③ 文化財指定等の推進

上田市は、今後も文化財の指定・登録等を推進する。仏像調査によって確認できた古代・中世にさかのぼる貴重な仏像や、蚕種製造施設や養蚕家屋などの新たな分野の文化財については、その価値を認識し指定・登録を検討する。

上記以外の未指定文化財については、歴史的な景観を構成する要素と位置付けるなど、文化財保護行政以外の手法でも継承していく仕組みづくりを検討する。

#### ④ 市指定文化財の指定基準の明確化

指定・登録文化財が300件に及び、なかでも200件を超える市指定文化財については、旧市町村合併時に継承されたがその内容に齟齬があるため、指定基準の明確化を図っていく。



## (2) 文化財の保存と活用の推進

### ① 防災・防犯

- ・市民協働による「文化財パトロール」等を実施して、地域における文化財保護の意識を醸成するとともに、市民協働で文化財保護に努める。
- ・火災原因のトップが放火となっている現在、防火体制とともに、き損や盗難に対する防犯体制の整備は急を要する課題であり、順次整備していく。

### ② 情報発信

- ・指定文化財の所在地と概要を紹介するホームページ「上田市文化財マップ」については、現在は屋外にある見学可能な文化財である建造物・記念物のみを対象としているが、美術工芸品や民俗文化財も、所有者の同意を得ながら順次公開していく。
- ・広報や上田市ホームページに伝統行事の開催日程を掲載し、多くの市民や観光客の参加を促していく。
- ・(1)－②でアーカイブされた史資料について、積極的な公開を進めていく。

### ③ 整備事業の推進と見学公開の提供

- ・上田城跡と信濃国分寺跡については、発掘調査の成果を踏まえた整備を進め、市民や観光客に公開する。
- ・これまで実施してきた文化財建造物の修理の際の見学会や学習・講演会などは、今後も所有者と連携しながら積極的に開催する。

### ④ 博物館機能の充実

博物館は、地域の文化財や風土を理解し、常設展や特別展を通じて情報を発信・保管する上で欠かせない施設である。特に、漆器や精緻な工芸品の保存施設としての役割が大きい。

上田市には現在、上田市立博物館、信濃国分寺資料館、丸子郷土資料館、ともしび博物館と市立美術館の5館がある。前述の公文書館の設立とあわせて、既存施設の役割を再整理するための博物館構想を策定し、文化財の収蔵・管理及び保存・研究環境の充実と、市民や来訪者に系統のかつ分かりやすい展示紹介のできる施設づくりに取り組むものとする。

### ⑤ 地域内分権を活用した文化財の保存・活用

上田市は平成18年の市町村合併の際、「地域内分権」という考えのもと、9つの協議会が設置され、地域ごとに地域課題の解消や地域づくりを進めている。

文化財の保存・活用においても、この仕組みと連携し、指定・未指定の文化財を地域の核としたまちづくりを進めていく。

## ⑥ 観光資源としての活用

上田市の歴史・文化・自然資源を活用した観光施策を推進するため、有形文化財や無形文化財、記念物などを個別にPRするだけでなく、地域的、歴史的、自然的な関連を示す、第5章に掲げる関連文化財群等を例示し、通過型・点の観光から、滞在型・面の観光へ誘導する。具体的には、

- ・文化財の活用事業を観光情報としても情報発信する。
- ・フィルムコミッションと連携して、寺社等、文化財を活用した撮影を進める。
- ・歴史・文化に関連する一定のテーマをもった周遊観光ルート設定する。

等である。

## (3) 文化財と周辺環境の一体的な保全

景観のベンチマークとなる有形文化財については、景観法、都市計画法及びその他の市条例等に基づき、規制・誘導による保全を図る。

さらに、歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり法に基づく）を作成、認定を受けて、文化財保護と周辺環境保全の取り組みを重点的に進める。重点区域の候補には、独鈷山麓の仏教文化財及びため池群ならびに雨乞い信仰の景観を有する塩田地域、上田城下町と近代化遺産が集積する中央地域、四阿山の信仰と山城群からなる真田地域などが挙げられる。

無形文化財や美術工芸品等の文化財に関しても、保存管理上適切な周辺環境の整備を推進していく。

## (4) 歴史文化の学習と人材・後継者の育成

### ① 公民館活動等における地域学習の推進

地域の公民館や図書館の社会教育施設で行われる、地域の歴史文化に関連する学習活動、出前講座等については、まちへの関心や愛着を豊かに育んでいくことを目指し、多くの市民に対し、文化財に関する様々なテーマを気軽に学べる機会として積極的に提供していく。

### ② 有形文化財保護における守り手の育成

維持管理が困難となっている有形文化財が増えてきており、こうした状況に対応するためには、自治会や地域住民を対象とした文化財の学習活動によって、文化財としての価値を再認識できる仕掛けや、保護の守り手を自治会だけでなく地域自治組織や見学・参拝者等まで拡大するなど、積極的な働きかけを所有・管理者とともに進めていく。

### ③ 無形文化財伝承における後継者育成

- ・住民の主体的な後継者育成活動の経験を共有・実践していくため、保存団体の連絡協議会組織等を設立する。
- ・民俗芸能祭を開催するなど、無形文化財の保存会が誇りとやりがいを持てる機会を創

出する。

## **(５) 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針**

### **① 行政の連携体制**

本基本構想の周知を図つつ、行政内部で共通認識を持ち、文化財の保存・活用に対する一貫した取組みを進めるための体制づくりを推進する。

歴史文化の視点から様々な施策を管理するネットワークと組織を、庁内体制として構築することで、地域に根差し、一貫したコンセプトに基づくまちづくりの実現を目指していく。

### **② 市民、研究会、大学等との連携（文化財保護を担う地域活動組織づくり）**

市民参加による文化財の保存・活用を推進する役割を担う活動組織が、地域ごとに設置されるよう、組織づくりを進める。このほか、さまざまな民間の研究団体や本市に所在する大学等の研究機関と連携し、調査・研究・保護を地域住民とともに進めていく。

### **③ 文化財保護指導委員の配置**

文化財の巡視や所有者等への助言等を行う「文化財保護指導委員」を上田市に新たに配置し、文化財の日常的な管理の支援や防犯・防災対策等を行う人材の充実を図る。



## 第5章 関連文化財群の設定

### 1 関連文化財群の設定の考え方

本構想においては、関連文化財群として6つのテーマを設定した。関連文化財群の設定にあたっては、以下の条件を考慮して設定した。

- ◆有形・無形を問わず多種多様な文化財を含むこと
- ◆上田市の特性が顕著に表れていること
- ◆行政・市民による取組み等がされており、価値が認識されている、あるいは今後認識されることが期待できること

表8 関連文化財群のテーマと対象地域

関連文化財群	対 象 地 域
信濃国分寺と仏教文化財	市域全体
水と信仰の農業開発文化財	市域全体
真田氏の活躍と城郭文化財	市域全体
城下町と街道筋の文化財	中央地域／西部地域／塩田地域／神科・豊殿地域／川西地域／丸子地域／真田地域
蚕都上田の文化財	市域全体
近代の保養・観光開発の文化財	中央地域／城南地域／塩田地域／丸子地域／真田地域

関連文化財群は、上田市の歴史文化の個性として捉え、市民と行政が共有し、どのように後世に継承するかについて、重点的に検討し取組みを進めるテーマとする。

次節では、関連文化財群ごとに、概要（ストーリー、関連する文化財とその価値、分布状況等）について述べる。あわせて、保存・活用の基本的な方向性を示す。

表9 関連文化財群の記載事項

概 要	①ストーリー	上田市固有の歴史・地域特性、文化財の分布状況から、上田市らしさを表象するストーリーを提示する。
	②関連する文化財とその価値	関連する文化財を一覧に示し、文化財ごとにストーリーとの関連性や価値について示す。
	③関連する文化財の分布状況	関連文化財群を構成する文化財について、分布状況を示す。
保存・活用の基本的な方向性	①守り伝えるべき価値	各ストーリーにおいて、大切にすべき価値は何か、を述べる。
	②守り伝える方法	関連文化財群を、どのように守り育て、活用していくかについて方針を述べる。 特に、有形文化財や無形文化財、記念物など個別の保存・活用だけでなく、周辺の環境保全、観光施策等と連携した方針に留意する。

## 2 関連文化財群の概要と保存・活用の基本的な方向性

### 関連文化財群-1 信濃国分寺と仏教文化財

#### (1) 概 要

##### ① ストーリーの概要

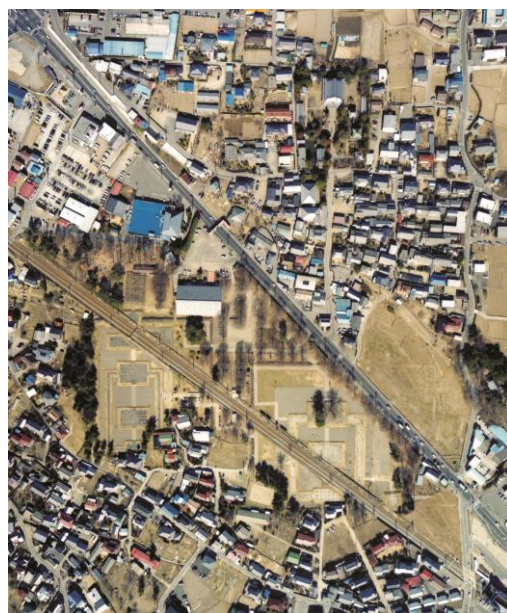
上田市は仏教文化財が豊富である。この背景には、古代には東山道、中世には塩田守護所と鎌倉を結ぶ鎌倉道、近世には北国街道や幾多の街道が上田市を通り、多くの人・物・情報が往き来したことによる。

古代8世紀、上田市には信濃国分寺が置かれた。千曲川に近い低地にあった古代の信濃国分寺は、遅くとも室町時代には寺の中心機能が段丘上に移り、現在の信濃国分寺に継承されてきたことは、信濃国分寺三重塔(重文)によって明らかとなっている。また、西部地域の唐臼遺跡からは、瓦塔片<sup>がとうへん</sup>が出土し、塔心礎も所在していることから、東山道日理駅に附属する布施寺の存在が推定される。

塩田地域の別所温泉常楽寺に伝わる石造多宝塔(重文)の銘文からは、古代末に同じ場所に木造多宝塔があったことが推定される。また、中禅寺の薬師堂、薬師如来坐像(いずれも重文)、金剛力士像(県宝)は、都から広まった古代末の仏教建築や仏像彫刻の様式を伝えている。この地域は、後白河法皇に繋がる最勝光院領塩田庄であり、都の皇族・貴族とつながる古代の仏教文化を伝える場所となっている。

神科・豊殿地域の法楽寺遺跡では、11世紀末から12世紀初頭の銅製三尊仏像が出土している。このほか、川西地域東山道筋の高田遺跡・東村遺跡、丸子地域諏訪田遺跡からは古代の寺院が想定される布目瓦が出土し、塩田地域堰口ノ一遺跡<sup>せんげぐちのいち</sup>や川西地域岳之鼻遺跡からは瓦塔片が出土するなど、古代仏教文化は上田市域に広がっていた。

中世には、塩田地域の常楽寺に天台宗の談義所、安楽寺に臨済禅寺院が構えられ、多くの学僧が往き来した。京都南禅寺開山の無関普門は、信濃国に生まれ塩田で修行した僧であり、そのさまを「信州の学海」と称した。この背景には、鎌倉時代の塩田地域を



信濃国分寺跡とその周辺



日理駅塔心礎



信州の学海碑

治めた幕府の重臣島津氏、その後の塩田北条氏が三代 60 年間にわたって仏教を庇護したことが推測される。そのことは安楽寺八角三重塔（国宝）をはじめ、前山寺三重塔、法住寺虚空蔵堂、前述の常楽寺石造多宝塔（いずれも重文）、西光寺阿弥陀堂、霊泉寺阿弥陀如来坐像、小泉大日堂、舞田の石造五輪塔（いずれも県宝）など、豊富な文化財が物語っている。

塩田地域以外にも、市内各所において古代・中世に遡る未指定の仏像が新たに確認されている。さらには、近世・近代も活発な造像活動が続いた状況が確認されている。この背景には、江戸幕府の寺請制度により社会生活の基盤が寺院にあり、おかげ参りに端を発する寺社参詣・物見遊山のブームに乗って、四国や板東霊場をはじめとする巡礼地を勧請したことによる造像や、行者海心と幕末の豪商成澤寛経が弘法大師像 88 体を造像・寄進した例、雨乞い等による造像などがある。多様な信仰の様子を伝えるこれらの仏像は、地域住民によって市内各所の寺院やお堂で大切に守られている。



塩田地域野倉の瑞光寺（廃寺）の千手観音坐像

台座に元禄 6 年(1693)の墨書があり、塩田平に四国八十八ヶ所霊場を勧請した際の造像と推定される。

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
1★	安楽寺八角三重塔	国宝 建造物	鎌倉時代末期。安楽寺は鎌倉新仏教「臨済禅」道場の中心施設。三重塔は中国の禅宗様建築である。
2▲	国分寺三重塔	国指定 建造物	室町時代中期。中世の信濃国分寺の様相を伝える遺構
3▲	前山寺三重塔	国指定 建造物	室町時代後期。塩田北条氏・村上氏の拠点塩田城の祈願寺
4▲	法住寺虚空蔵堂	国指定 建造物	室町時代。独鈷山の南麓、内村の谷に広がった仏教を示す遺構
5▲	中禅寺薬師堂	国指定 建造物	鎌倉時代前期。古代末に流行した阿弥陀堂建築の様式を伝える建築。塩田庄の中心施設。
6▲	常楽寺多宝塔	国指定 建造物	鎌倉時代。弘長 2 年(1262)銘。伝北向観音出現地に建つ。
8▲	木造惟仙和尚坐像	国指定 彫刻	安楽寺蔵。鎌倉時代末期(嘉暦 4 年・1329) 安楽寺に中国臨済禅を伝えた樵谷惟僊の頂相彫刻。
9▲	木造恵仁和尚坐像	国指定 彫刻	安楽寺蔵。鎌倉時代末期(嘉暦 4 年・1329) 惟仙の弟子、中国僧幼牛恵仁の頂相彫刻。
10▲	薬師如来坐像	国指定 彫刻	中禅寺蔵。平安時代後期(13 世紀前半)古代末に流行した仏像の様式「定朝様」を伝える。
11▲	銅造菩薩立像	国指定 彫刻	長福寺蔵 白鳳時代(7 世紀後半) 小布施の旧家に伝わった飛鳥・白鳳期の小金銅仏
16▲	信濃国分寺跡	国指定 史跡	奈良時代 全国に建立された国分寺のひとつで、上田小県に仏教文化が伝わる。信濃国では僧寺と尼寺が並列している。
42■	西光寺阿弥陀堂	県宝 建造物	室町時代後期(16 世紀前半)。古代末三間阿弥陀堂建築が、変容する過程を示す。
44■	文殊堂	県宝 建造物	天竜寺 江戸時代 文殊菩薩の化身の鹿が教えた、という鹿教湯伝説の中心施設。
46■	国分寺本堂（薬師堂）	県宝 建造物	江戸時代末期（万延元年 1860） 幕末の信濃国分寺信仰の広がり伝える大建築。



番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
52■	木造阿弥陀如来像	県宝 彫刻	霊泉寺 南北朝時代 中世の独鈷山南麓・内村に広がった阿弥陀信仰を伝える。
53■	木造金剛力士立像	県宝 彫刻	中禅寺 平安時代末 デフォルメの少ない古代末の金剛力士像の様式を伝える。
54■	銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	県宝 彫刻	願行寺 鎌倉時代 13 世紀 信濃国に伝わる数少ない善光寺式阿弥陀三尊
55■	木造十一面観音菩薩立像	県宝 彫刻	実相院 平安時代末 白山信仰の拠点山家神社にあった白山寺(廃寺)に伝わった本地仏。
74●	安楽寺経蔵 (附) 八角輪蔵	市指定 建造物	寛政 12 年(1800) 黄檗版一切経を治める。
81●	東昌寺鐘楼	市指定 建造物	天保 12 年(1841) 諏訪立川流の宮坂常蔵によって建てられ、立川流の広がりを伝える。
84●	南方薬師堂	市指定 建造物	安政 3 年(1856)、立川流竹内八十吉の作と伝わる。
85●	小泉大日堂	市指定 建造物	室町時代後期に建てられた大規模な宝形造五間堂。
93●	妙見寺 鳴龍	市指定 建造物	応仁年間、狩野派秀山信尹の作。「日本四方鳴竜」
101●	常楽寺本堂	市指定 建造物	江戸時代中期の密教系本堂の特徴と規模を持つ。
102●	全芳院本堂	市指定 建造物	元禄 12 年(1702)以降の築。大工は小泉彦七吉信
110●	絹本着色聖観音画像	市指定 絵画	常楽寺蔵 鎌倉時代作 延暦寺からの拝領と伝える。
111●	絹本着色愛染明王画像	市指定 絵画	常楽寺 室町時代後期
114●	仏生誕・涅槃図	市指定 絵画	藤原田公民館蔵。京都からもたらされたもの 2 幅
117●	聖観音立像	市指定 彫刻	武石小沢根観音堂。平安初期の作風の江戸時代中期作
118●	弥勒菩薩坐像	市指定 彫刻	武石鳥屋弥勒堂。元禄時代の鎌倉時代風の作
119●	木造馬頭観音坐像	市指定 彫刻	実相院観音堂本尊。平安時代後期の作
120●	木造僧形坐像	市指定 彫刻	真田町角間岩屋観音「おびんずる」様
121●	尾野山木造千手観音立像	市指定 彫刻	室町時代作 総高 318cm、像高 230cm の巨像
122●	木造阿弥陀如来立像	市指定 彫刻	芳泉寺 室町時代 慶長 17 年(1612)修理銘
123●	南方荒野板碑	市指定 彫刻	鎌倉時代 緑泥片岩製
130●	藤原田木造千手観音坐像	市指定 彫刻	依田窪地方の桃山時代の数少ない遺例
135●	木造菩薩立像	市指定 彫刻	願行寺 鎌倉時代初期 享保 15 年(1730)の上田宿場町の大火を止めた「火伏せ観音」伝説を持つ
136●	木造阿弥陀如来坐像	市指定 彫刻	耕雲寺本尊 室町時代中期の作
137●	西光寺金剛力士像	市指定 彫刻	鎌倉時代末 須坂の米子不動から譲り受けたと伝える。
138●	銅製鰐口	市指定 工芸品	観音寺 永享 9 年(1437)銘
139●	銅製雲板	市指定 工芸品	陽泰寺 応永 7 年(1400)銘
144●	銅製鰐口	市指定 工芸品	中禅寺 享徳 2 年(1453)銘
146●	木造百万塔	市指定 工芸品	常楽寺 奈良時代作 明治 41 年法隆寺から有償譲渡
147●	銅製御正躰 (懸仏)	市指定 工芸品	高仙寺 永享 10 年(1438)銘 真田山家神社から
148●	銅製孔雀文磬	市指定 工芸品	高仙寺 南北朝時代作か。
150●	銅製御正躰	市指定 工芸品	日輪寺 室町時代後期作
155●	銅製雲板	市指定 工芸品	個人蔵 上田小県地方の江戸期における希少な地方作
156●	銅製御正体	市指定 工芸品	真田町傍陽に伝わる白山信仰の本地仏十一面観音像
163●	黄檗版蔵経	市指定 古文書	安楽寺 寛政 12 年(1800)に京都宇治の万福寺宝蔵院から購入し、完全に保存される。
172●	信濃国分寺勸進帳	市指定 古文書	文政 12 年(1829)から万延元年(1860)にわたる国分寺信仰と本堂建立寄附を記す。
178●	安楽寺蘭溪道隆尺牘	市指定 古文書	文永元年(1263) 鎌倉建長寺の蘭溪道隆と安楽寺の樵谷両禅師の親交を示す
181●	岩谷堂法蔵寺奉加帳	市指定 歴史資料	大雨で法蔵寺が被害を受けた時に寄付を募った記録
186●	銅三尊仏	市指定 考古資料	法楽寺遺跡出土 古代末の地域豪族による仏教信仰
205●	下丸子釈迦涅槃図	市指定 有形民俗	享保 20 年(1735) 当下丸子村出の伊勢屋市兵衛氏寄進

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
①	唐臼遺跡(日理駅)塔心礎	未指定/史跡	東山道日理駅に附属した布施寺の遺構
①	唐臼遺跡(日理駅)出土瓦塔片	未指定/考古資料	東山道日理駅に附属した布施寺の遺物
②	岳之鼻遺跡出土瓦塔片	未指定/考古資料	東山道から善光寺平にむかう室賀峠道沿いの古代仏教信仰の遺物
③	木造神将立像	未指定/彫刻	信濃国分寺に伝わる平安時代の像
④	阿弥陀如来坐像	未指定/彫刻	芳泉寺に伝わる平安時代末の像
⑤	地藏菩薩立像	未指定/彫刻	別所温泉七苦離地藏堂に伝わる平安時代末の像
⑥	地藏菩薩立像	未指定/彫刻	瀧水寺に伝わる平安時代末の像
⑦	大日如来坐像及び天部立像	未指定/彫刻	上室賀大日堂に伝わる平安時代末の像
⑧	薬師如来坐像	未指定/彫刻	浦野薬師堂に伝わる平安時代末の像
⑨	阿弥陀如来坐像	未指定/彫刻	法樹院に伝わる平安時代末の像
⑩	薬師如来立像	未指定/彫刻	中野薬師堂に伝わる平安時代末の像
⑪	毘沙門天像	未指定/彫刻	長昌寺に伝わる平安時代末の像
⑫	聖観音菩薩立像	未指定/彫刻	円融寺に伝わる平安時代末の像
⑬	虚空蔵菩薩坐像	未指定/彫刻	前山虚空蔵堂に伝わる平安時代末の像。独鈷山を挟んで法住寺像と対を成す虚空蔵信仰か
⑭	虚空蔵菩薩坐像	未指定/彫刻	法住寺虚空蔵堂に伝わる室町時代の像。独鈷山を挟んで前山像と対を成す虚空蔵信仰か
⑮	大日如来坐像	未指定/彫刻	前山寺本尊 鎌倉時代の秀作
⑯	地藏菩薩坐像	未指定/彫刻	中禅寺本尊 鎌倉時代
⑯	千手観音立像	未指定/彫刻	中禅寺に伝わる室町時代の像
⑰	千手観音菩薩立像	未指定/彫刻	長福寺に伝わる鎌倉時代の像
⑱	釈迦如来立像	未指定/彫刻	向源寺に伝わる鎌倉時代の秀作
⑲	阿弥陀三尊立像	未指定/彫刻	願行寺に伝わる鎌倉時代の像
⑳	阿弥陀如来立像	未指定/彫刻	淨楽寺に伝わる鎌倉時代の像
㉑	釈迦仏	未指定/彫刻	経蔵寺に伝わる鎌倉時代の像
㉒	薬師如来坐像	未指定/彫刻	大福寺に伝わる鎌倉時代の像
㉓	毘沙門天立像	未指定/彫刻	北向観音堂に伝わる鎌倉時代の像
㉔	十一面観音菩薩坐像(懸仏)	未指定/彫刻	長谷寺に伝わる白山信仰の拠点山家神社にあった白山寺(廃寺)に伝わった本地仏懸け仏
㉕	金剛力士像	未指定/彫刻	文殊堂薬師堂 白山信仰
㉖	御正体	未指定/工芸品	山家神社 白山信仰
㉗	四阿山	未指定	白山に見立てられた山
㉘	四国霊場略縁起	未指定/古文書	元和6年(1693)に四国から札所を勧請した経緯を示す古文書。(舞田北条家文書)
㉙	四国八十八ヶ所霊場・札所	未指定	元和6年(1693)に四国から勧請され、塩田地域21ヶ所の寺堂に集約された。一部場所を変えながら存続し、札所めぐりが行われている。
㉚	四国八十八ヶ所霊場・仏像	未指定	元和6年(1693)に四国から勧請された札所に伝わる仏像と文政、天保期の行者海心発願による弘法大師像が納められる。



### ③ 文化財の分布

「信濃国分寺と仏教文化財」を構成する文化財は、市域に広く分布する。特に、塩田地域と独鈷山麓に集約しており、信仰の対象となる山岳と寺社の景観が密接に結びついている。

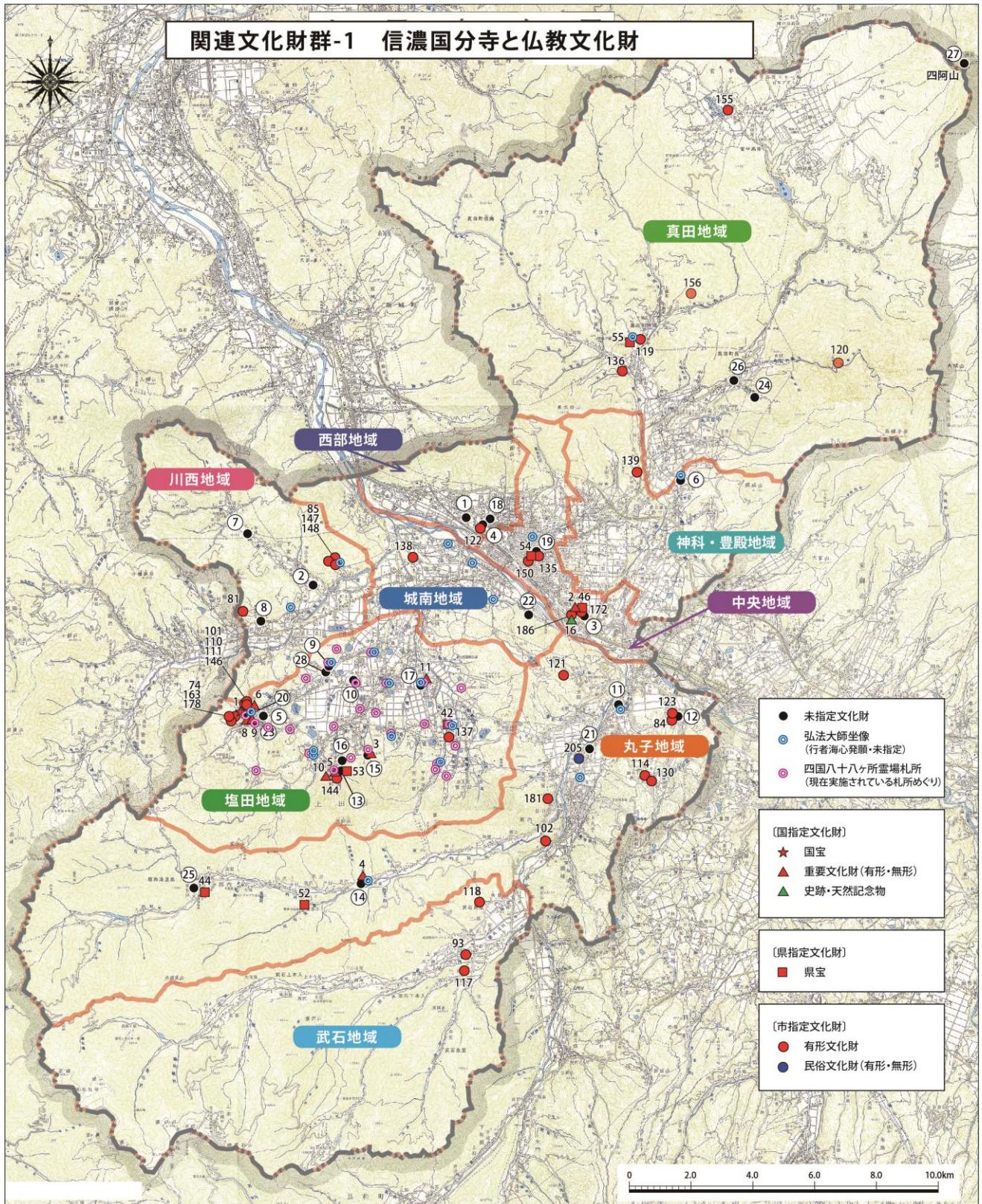


図 31 関連文化財群-1 信濃国分寺と仏教文化財分布図



## (2) 基本的な方向性

### ① 守り伝えるべき価値

#### ・ 地域の繁栄の象徴としての存在

古代信濃国分寺にはじまる仏教文化財の集積は、各時代の新たな仏教文化を受容しつつ、連綿と続いた地域の文化的な繁栄の象徴である。市内各所の寺院やお堂は、地域住民の心のよりどころとして現代に受け継がれている。

#### ・ 地域の気風を示す存在

上田市の仏教文化財は、上田市民の進取の気風を示す要素ともいえる。その代表的な事例としての信濃国分寺は、古代信濃国に新たな仏教文化を持ち込み、中世にはいち早く禅宗を広めた。仏教文化は、信仰の教義とともに、新たな書・絵画・彫刻の技法や流行、建築・作庭技術をも取り込んで、多様な形で各所に根付いている。

#### ・ 古道を通じた文物の交流の証

古代東山道や中世鎌倉道、近世北国街道等を通じて往来した、ひと・もの・情報が結実し、地域に仏教文化が形成された証であることを伝える。

### ② 守り伝える方法

#### ・ 歴史的景観と生活文化の融合

山岳と田園風景、寺社と門前町が濃密に結びついた良好な景観への認識が、開発の進行によって希薄になることを避ける必要がある。歴史的な特徴を踏まえ、快適な生活空間と歴史文化が共生する景観保全を進める。

#### ・ 観光資源としての活用

仏教文化財は、関連文化財群2「水と信仰の農業開発文化財」、6「近代の保養・観光開発の文化財」と結びついて、滞在型・周遊型の観光コースを提示できる。

#### ・ 健康事業との融合

塩田地域では、元禄6年(1693)に勧請された四国八十八ヵ所霊場の札所めぐりを仏教회가復活し、上田市観光協会や別所温泉観光協会が協賛して開催している。健康づくりウォークと共同して、地域の仏教文化財を知る機会として活用する。

#### ・ 建造物修理事業への参加

構成文化財のうち16件は建造物である。建造物の修理工事の機会に、地域住民や観光客に修理事業に参加してもらうことで、愛着が湧く。上田市では、平成23年の安楽寺八角三重塔のこけら葺屋根修理工事に際して、安楽寺の歴史・建築・仏像について3回の講演会と工事現場見学会を実施したほか、地元の塩田中学校生徒全員が、こけら板に将来の夢を墨書し屋根に葺き込んだ。こうした事業は、その後の法住寺虚空蔵堂や常楽寺本堂の修理工事にも継承されている。

#### ・ 調査成果の公開

仏教文化財（仏像）の悉皆調査の成果は、特別展を開催して広く公開する。

#### ・ 御開帳等の周知

寺院やお堂で開催される御開帳や行事を、広報やHP等を通じて広く知らせ、住民・観光客の参加を促す。

## 関連文化財群-2 水と信仰の農業開発文化財

### (1) 概 要

#### ① ストーリー概要

上田市は、年間降水量が 900mm 前後の小雨地帯でありながら水耕農業が発達し、塩田地域、川西地域、神科地域、丸子地域などの平坦部においては、中世以来の条里水田跡が土中に埋没することなく、現在まで少しずつ区画を変えながら残されている。しかし、その水源の確保は、地域ごとに大きく異なる。

塩田地域、川西地域、城南地域は、ため池と河川からの灌漑事業が盛んである。特に塩田地域のため池は数が多く、個人所有の池を含めて 200 余りを数える。塩田地域のため池の開拓が史料に残るのは上田藩主真田氏以降で、真田氏時代には、山田池、舌喰池、小島池、甲田池などが修増築もしくは新築された。上田藩主が仙石氏となった元和 8 年(1622)～宝永 3 年(1706)は、全国の大名が領内の新田開発に力を入れた時代で、仙石氏も用水の開削とともにため池の築造・修築に力をそそいだ。この時代に成立されたと伝えられるものに、<sup>てあらい</sup>手洗池、北の入池、上原池、上窪池、塩野池、山田新池などがある。これらのため池の築造は、上田藩の普請によるもの、寺院や個人が発起して作ったものなどがあり、地域の農民が管理してきた文化財といえる。また、塩田地域下之郷の三頭獅子(市指定)は、元禄 4 年(1691)来光寺池の土手を築く工事の地固めに出場した記録がある。

これらのため池や水源にまつわる、伝説や民話が残されている。塩田地域には、舌喰池の人柱伝説、甲田池の河童伝説、手洗池の英雄(義仲か手塚太郎)、弘法大師伝説を持つ独鈷山を水源とする産川の小泉小太郎大蛇伝説などがある。このほか、水源となる山への信仰と、雨乞い行事の「岳の幟」(選択)やため池の堤の上で松明をかざす「百八手」などの塩田地域を特徴付ける習俗もある。手塚無量寺には、「元木の地蔵」といわれる雨乞いの地蔵菩薩立像も伝わる。幕末から近代にかけては、比叡山太行満願海が塩田に招かれ、雨乞いや水乞いの行を行い、その軌跡が湧水の石碑や雨乞い幟などとして伝わっている。

近代には、養蚕の際に発生する蚕のさなぎを餌として鯉の養殖がこのため池で行われ、昭和 50 年頃には生産量が 1 千トンを上回り、「塩田鯉」として全国に名をとどろかせた。また、人の手によって築造されたため池や堰の水辺と里山は、マダラヤンマ(市指定)などの繁殖地となったり、コウノトリの飛来地ともなって、命をはぐくんでいる。



塩田平のため池景観



百八手

その他の中央地域、神科・豊殿地域、真田地域、丸子地域、武石地域では、深い森林を水源とした神川や依田川、内村川と、豊富な湧水地から水を引くことにより開拓が進められた。千曲川からは六か村堰、二か村堰・桝網堰・下塩尻用水、浦野川からは山崎堰・樋尻子堰、神川の東岸には吉田堰・林之郷堰・大屋堰・岩下堰などが引かれ、また、西岸には常田堰・久保堰・岩門堰・新屋堰・野竹堰・堀越堰が設けられた。これらの堰は、江戸時代より前にはその原型が造られていたようである。吉田堰は、真田地域の石舟で神川から取水し、神科・豊殿地域の神川左岸を潤している。吉田堰は女堰とも呼ばれるが、東御市海野地区に比定される童女郷の「おうな」に由来する。

四阿山は北陸の白山に見立てられ、白山大権現は水の山の神として信仰されることから、毎年6月1日に山家神社や上田市上下水道局などが地域住民とともに四阿山の清掃登山を実施している。また、神川の上流に昭和43年(1968)に建設された菅平ダムは、神川総合開発事業(発電・上水道)として、全国有数の少雨地帯である上田のかんがい用水確保を主目的に、菅平発電所とともに建設された利水ダムである。このダムの建設によって神科地区に豊富な上水道が確保され、地域の開発に大きく貢献している。



菅平ダム

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
35▲	別所温泉の岳の幟行事	国選択 無形民俗	雨乞い行事として地域的特色のある行事で、夫神岳山頂の九頭竜神の祠から各家で織った3丈の長幟を奉納したあと山頂から別所温泉街を経て別所神社まで、幟を担いで練り歩く。
68■	別所岳の幟りの習俗	県選択 無形民俗	
210●	岳の幟	市指定 無形民俗	
95●	塩野神社拝殿及び本殿	市指定 建造物	独鈷山に源を発する塩野川水源に祀られた神
99●	別所神社本殿	市指定 建造物	岳の幟の終点
124●	石造大姥坐像	市指定 彫刻	寛正3年(1462)の日照りの際に、富士嶽で雨乞いをして雨が降ったのでこれを造ったという。昭和初期まで、雨乞いの時にはこの像をお駕籠に乗せて村内の神社を回って祈り、時には池に放り込んだ。
303●	マダラヤンマ及びその生息地	市指定天然記念物	築造されたため池や堰の水辺と里山は、マダラヤンマの繁殖地となった
①	鈴子の大姥さま	未指定	百八手の雨乞いをして雨がなく、最後の頼みとしてこの像を池に沈めて「苦しかったら雨を降らせてください」と願いをかけた。
②	百八手・千駄焚	未指定	塩田地域に伝わる雨乞い行事で、寺院住職の読経・先導で人々がため池のまわりで松明をふり、「雨降らせたんまいな」と祈る
②	塩田平のため池	未指定	少雨の塩田平を潤し、水田開発を可能にした。池にまつわる民話も多く、近代では、養蚕で大量に発生する蚕のさなぎを餌として「塩田鯉」を養殖する。
③	元木の地蔵	未指定	無量寺 千ばつになると村人は、朝から晩まで「雨、降らせたんまいな。南無地蔵菩薩」と鉦を鳴らし、交替でお祈りを続ける。
④	願海湧水碑と幟	未指定	手塚 幕末の回峰行者願海の祈祷による湧水を示す石碑と、直筆の雨乞い幟
⑤	野倉の赤地蔵	未指定	雨乞いの最後の手段として、この赤地蔵を川へ投げ込み、雨が降るまで引き上げない。



番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
⑥	五加の絵堂の地藏さま	未指定	宝暦9年(1759)干ばつの際、下之郷の人々がこの地藏を絵堂川に着けて雨乞いした。ところが、隣村の五加には雨が降り、下之郷には降らなかったため、下之郷の人々はこれを放置し、五加の人々はお堂を作って祀った。
⑦	甲田池の河童伝説	未指定	河童の桵貸し伝説
⑧	舌喰池の人柱伝説	未指定	人柱伝説
⑨	手洗池の英雄手洗い伝説	未指定	木曾義仲、手塚太郎金刺光盛が手を洗ったという
⑩	手塚「菊水の水」	未指定	手塚紺屋町の湧水を呑んだ殿様が誉めて名付けた。
⑪	瀧の宮と瀧水寺	未指定	神科・豊殿地域の水源を祀る寺社
⑫	金井の雨降地藏	未指定	矢出沢川の下流 100m 出水をせき止め、地藏像を鎮めて雨乞いする。
⑬	羽ま石	未指定	山口の白山比咩神社にある石が、雨乞いの時にがまのような声を出す、という。
⑭	山伏塚	未指定	承応年間(1652-1655)の干ばつの際、戸隠神社からお種水(神水)を運んで祈るが雨は降らない。次に山伏に祈禱してもらったところ、東太郎山越に雨雲が湧き、雷鳴とともに雨が降る。雷が山伏を直撃して焼死させた。村人は土の塚に山伏を葬り、榎の木を一本植えた、という伝説。
⑮	しょってけ狸の伝説	未指定	大屋尾撫の「お助け地藏尊」「雨乞い地藏尊」の伝説と雨乞い習俗
⑯	吉田堰	未指定	女堰(童女堰)の人取り川伝説
⑰	夫神岳と九頭竜神祠	未指定	岳の幟の出発点。夫神は「霧(オカミ)」で、山頂には九頭龍神を祀り、その神を山から幟とともに塩田平に下らせる。
⑱	稲倉の棚田	未指定	棚田百選に選定。所在する石清水は、湧水の水源に恵まれ、白山も祀る。
⑲	四阿山	未指定	白山大権現は水の山の神として信仰を集める
⑳	菅平ダム	未指定	昭和43年(1968)、神川上流に建設されたダム。灌漑・発電・上水道確保を目的に建設された。
一	灌漑用水	未指定	農業用水確保のために、大きな河川や豊富な湧水地から灌漑用水路(堰)を設けることで、市内全域の開拓が進められた。
一	霜に関することわざ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・太郎山に逆さ霜かかると寒くなるから霜に注意</li> <li>・柿の芽がひらくと霜が降らない</li> <li>・ケヤキの芽ぶきがムラなくでると霜はなし</li> <li>・ケヤキの芽が高いところからでるとその年は暖かく下からでるとおそ霜あり</li> <li>・蛙が早く鳴き止むと霜の恐れあり</li> <li>・豆が皮をかぶってでるとおそ霜あり</li> <li>・よく晴れて風の無い日は霜</li> <li>・八十八夜に烏帽子岳に雪なければ晩霜なし</li> <li>・八十八夜の別れ霜</li> </ul>



③ 文化財の分布

「水と信仰の農業開発文化財」を構成する文化財は、水源や湧水地を含む塩田地域と神科・豊殿地域に多く分布する。

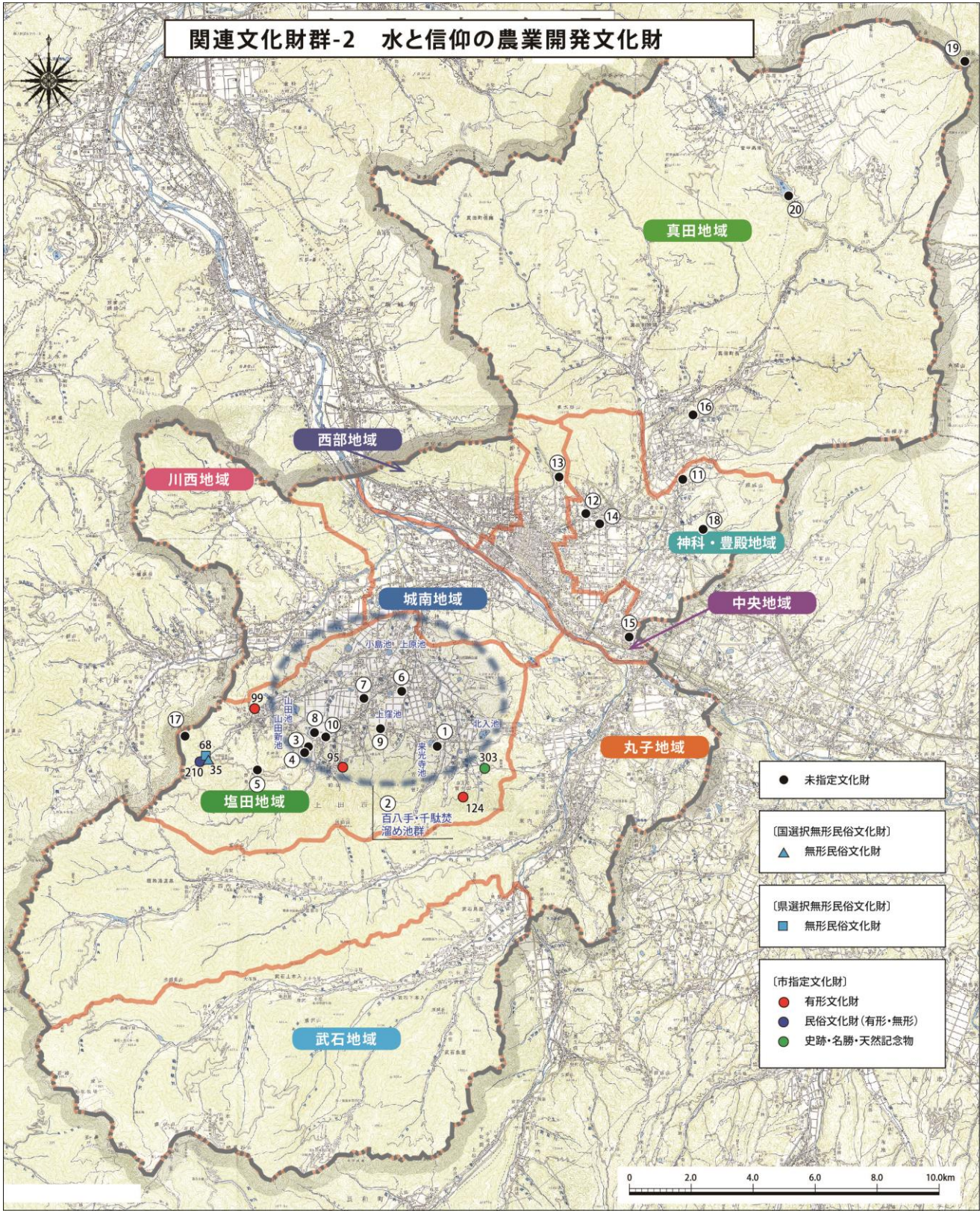


図 32 関連文化財群-2 水と信仰の農業開発文化財分布図



## （２）基本的な方向性

### ① 守り伝えるべき価値

#### ・ 先人の知恵と苦勞により開かれた水田の景観

塩田地域を中心とするため池群は、水田耕作や鯉養殖の水産業と結びついた地域の特徴を示す景観である。ため池は民話・伝説と結びついて、過酷な自然環境のなかで開発した先人の思いや、英雄・領主との関わり、教訓などが語られており、人格形成や人づくりがなされてきた。

また、ため池や自然の河川から水田へと水を分配し、供給する水路も、小雨の過酷な環境を乗り越えて地域を開発した歴史を示す文化財である。本関連文化財群は、ため池という「点」と灌漑水路の「線」、そして田園と山々の「面」、さらに人々の営みが融合して形成されていることに価値がある。

#### ・ 雨乞いなどの伝統行事を伝え、支える地域コミュニティ

天下の奇祭として知られる別所温泉の「岳の幟」行事は、雨乞い行事の代表である。また、大規模な干ばつ時に執り行われる「百八手」や寺社に伝わる雨乞いの修法は、地域の人々が総出で行い、地域のコミュニティを形成してきた行事である。

#### ・ ため池や灌漑水路が生み出す豊かな自然環境

ため池や灌漑水路は人が作り出した水域であるが、長い歴史が生物たちとの間に密接な関係を築いてきた。例えばトウヨシノボリは、水路を伝ってため池に進入し、そこで繁殖する。また、マダラヤンマ（市指定）は、ため池と、それに接する森林が繁殖の条件となるが、塩田地域の山沿いのため池はその条件に合致している。このようにため池や灌漑水路は、豊かな自然環境の形成にも寄与している。

### ② 守り伝える方法

#### ・ ため池の景観と灌漑水路の生活文化の融合

本関連文化財群を総合的に保全するには、地域住民の理解が不可欠である。

塩田地域と川西地域では、農林水産省の「田園空間博物館」事業により、地域を一つの「屋根のない博物館」として紹介・活用しようという構想に取り組んでいる。塩田地域の「とっこ館」を拠点施設として農業・農村の営みを通じてはぐくまれてきた地域資源を、歴史的・文化的視点から見直し、伝統的な農業施設や美しい景観として、魅力のある田園空間を生み出し、これらを地域住民が主体的に活用して歴史教育、都市との交流、自然観察、体験活動などを行うものであり、この取り組みを継続して進める。



塩田の里交流館（とっこ館）

#### ・ 棚田の景観保全と活用

神科・豊殿地域にある「稲倉の棚田」は、元禄時代から明治時代にかけて開田されたものといわれ、殿城山の裾から谷間にかけて大小様々な形状の棚田が広がり、水田開発の歴史を伝えている。この地域では、棚田百選の認定を契機に「稲倉の棚田保全委員会」



が設立され、地域住民と行政、J A、ボランティアなど、多くの人と共に保全活動を進めているため、今後も継続して進める。

- **雨乞い行事等の観光資源としての活用**

岳の幟祭礼行事は、毎年7月15日直近の日曜日に開催されており、長野県や上田市、観光協会や旅館組合等がPRし、多くの観光客を招いている。また、不定期であるが、干ばつの年に執行される「百八手」も、開催時にはPRして集客している。

- **ため池や雨乞い行事の学習と観光資源としての活用**

地域住民が「塩田平ため池フェスティバル」を開催し、ため池の歴史や自然環境、観光資源としての活用などについて、講演会やシンポジウム、見学会や百八手の執行・体験を企画している。また、札所めぐりとあわせてため池の見学ツアーを開催するなどしており、継続が望まれる。

- **ため池や棚田の景観の保護にむけた取り組み**

専門家とともに地域学習を開催し、ため池や棚田の景観の大切さを学びつつ「文化的景観」として保護する可能性を検討する。

## 関連文化財群-3 真田氏の活躍と城郭文化財

### (1) 概 要

#### ① ストーリー概要

中世末、信濃国と上野国の国境付近の山峡の里真田の地から身を起こした真田幸隆（幸綱）は、天文15年(1546)ころ武田氏に帰属し、上田小県の地を治める。嫡男昌幸は上田城を築き、その昌幸の子信之が上田藩主となるも、元和8年(1621)松代十萬石へ移封となる。この間およそ80年の真田一族の懸命な生きざまを中心に、その居城上田城や真田居館跡、周辺の山城などが、築城・奪取・落城・破却等の紆余曲折を経ながら現在に残っている。



真田居館跡

幸隆の生きた時代は武田氏の全盛期にあたり、その生涯の多くは信玄とともにあった。幸隆の長男信綱、次男昌輝が長篠の戦いで戦死したことで、三男昌幸が真田家を継ぎ、武田家滅亡後は北条、徳川、上杉、豊臣と主家を変えて生き抜く。

昌幸は、天正11年(1583)、上田城を築く。築城の地固めの際には城下の常田・房山の三頭獅子が踊ったという。天正13年(1585)、自領の沼田を北条氏直に与えよとの家康の命令を拒絶し、秀吉に従う。その結果、昌幸は徳川の大軍の攻撃を受けるが撃退する。

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いでは昌幸と二男信繁が西軍に、長男信之は家康の東軍に属した。上田城に籠城した昌幸らは、徳川秀忠の進軍を阻むが、戦は東軍の勝利に決する。東軍の勝利後信之は、父の領地であった小県郡と旧来の自領上野国沼田をあわせて領した。昌幸・信繁は信之の命懸けの助命嘆願により死は免れ、高野山九度山に蟄居、失意のうちに生涯を閉じる。

信繁は、慶長19年(1614)大坂冬の陣で豊臣秀頼に加勢し、大坂城の南に出丸「真田丸」を築いて活躍する。しかし、翌元和元年(1615)の夏の陣では、「日本一の兵」といわれる活躍をしながらも敗戦した。

東軍に与した信之は、大坂夏の陣の翌年から上田領の統治に専念する。統治の中心施設であるべき上田城は、関ヶ原の後破却されていたため、信之は代わりに三の丸に藩主屋敷を設けている。また、上田城下町は大手の堀の東側を拡張し、農村の開発も行って、上田藩の基礎を整備するが、元和8年(1622)、松代へ移封となる。



天正年間上田古図

真田一族はそれぞれの困難な局面で、選択と決断と知略を以て難局を切り抜けていった。その懸命な生きざま

は、江戸時代以降に小説や講談にて取り上げられて全国的に知られるようになり、現在も各種メディアやゲーム等でヒーローとして登場するなど人気が高い。真田一族の軌跡と市域にて繰り広げられた戦国大名の攻防の様子は、真田地域の居館跡や上田城跡のほか、市域の山々に残る山城跡、古文書、伝説等から伺える。



錦絵（真田父子上田籠城図）

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
13▲	生島足島神社文書	国指定 古文書	武田信玄や真田昌幸の文書がおさめられている
17▲	上田城跡	国指定 史跡	真田昌幸が築城
61■	真田氏館跡	県指定 史跡	真田氏の居館とされる。
62■	戸石・米山城跡	県指定 史跡	村上氏、真田氏の城
63■	塩田城跡	県指定 史跡	村上氏、真田氏の城
72●	上田藩主居館表門及び土塀・濠・土塁	市指定 建造物	真田信之が構えた居館
164●	紙本墨書武田信玄の朱印状	市指定 古文書	武田信玄が塩野神社に土地を寄進する旨の文書
165●	紙本墨書武田勝頼の朱印状	市指定 古文書	武田勝頼が前山寺に土地を認め、寄進する旨の文書
166●	紙本墨書開善寺宛武田信玄判物	市指定 古文書	武田信玄が戦勝祈願をしたものとされる。
167●	紙本墨書開善寺宛武田信玄寄進状	市指定 古文書	武田信玄が開善寺に土地を寄進する旨の文書
168●	紙本墨書武田信玄朱印状	市指定 古文書	武田信玄が向源寺に宛てた文書
169●	紙本墨書武田信玄朱印状（西光寺宛）	市指定 古文書	武田信玄が西光寺へ普請役等を免除した旨の文書
170●	紙本墨書武田信玄朱印状（小泉家）	市指定 古文書	武田信玄が小泉氏へ宛てた文書
171●	野倉惣帳	市指定 古文書	真田氏領主時代に村の貫高をまとめた文書
174●	真田氏文書	市指定 古文書	中世真田氏関連の文書
177●	真田氏給人知行地検地帳	市指定 古文書	天正年間の真田地域に関する真田氏の文書
208●	常田獅子	市指定 無形民俗	上田城築城時に奉納されたと伝わる
209●	房山獅子	市指定 無形民俗	上田城築城時に奉納されたと伝わる
230●	小松姫（真田信之室）の墓	市指定 史跡	真田氏室の墓
233●	寒松院（真田昌幸室）の墓	市指定 史跡	真田氏室の墓
234●	岡城跡	市指定 史跡	武田軍が改修したといわれる。
236●	真田氏本城跡	市指定 史跡	真田氏の居城だったとされている。
237●	松尾城跡	市指定 史跡	真田氏の城とされる。
238●	天白城跡	市指定 史跡	真田氏の城とされる。
239●	横尾城跡・内小屋城跡	市指定 史跡	真田氏の城とされる。
240●	根小屋城跡	市指定 史跡	真田氏の城とされる。
241●	洗馬城跡	市指定 史跡	真田氏の城とされる。
242●	真田幸隆・昌幸の墓	市指定 史跡	真田氏の墓
243●	真田信綱の墓	市指定 史跡	真田氏の墓
265●	中山城跡	市指定 史跡	武田氏に従った大井氏の城とされる。
266●	浦野城跡・御射山祭広庭跡	市指定 史跡	武田氏に従った浦野氏の城とされる。
①	依田城跡	未指定	武田氏、真田氏に従った依田氏の城とされる。
②	跡部城跡	未指定	真田氏に従った室賀氏の城とされる。
③	荒城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
④	飯縄城跡	未指定	戸石・米山城と連携した城とされる。
⑤	伊勢崎城跡	未指定	第二次上田合戦で真田信繁が入ったとも伝わる。



番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
6	竹把城跡	未指定	真田氏に従った室賀氏の城とされる。
7	市ノ町砦跡	未指定	第一次上田合戦で真田方の陣が置かれたと伝わる。
8	岩門城跡	未指定	村上方の城と伝わる。
9	牛伏城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
10	打越城跡	未指定	真田地域の豪族横尾氏の城とされる。
11	内村砦跡	未指定	武石の大井氏の城とも言われている。
12	浦野館跡	未指定	武田氏に従った浦野氏の館とされる。
13	鬼ヶ城跡	未指定	武田氏に従った大井氏の城とされる。
14	尾野山城跡	未指定	戦国時代に真田氏方の城となっていた。
15	尾引城跡	未指定	真田地域の豪族横尾氏の城とされる。
16	柏山城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
17	北林城跡	未指定	真田氏の祖、海野氏に従った矢島氏の城とされる。
18	小泉上の城跡	未指定	村上氏、武田氏に従った小泉氏の城とされる。
19	小泉下の城跡	未指定	村上氏、武田氏に従った小泉氏の城とされる。
20	虚空蔵山城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
21	小牧城跡	未指定	武田氏の城だったとされる。
22	小山城跡	未指定	武田氏により落とされたと考えられている。
23	笹洞城跡	未指定	真田氏に従った室賀氏の城とされる。
24	猿ヶ城跡(武石下本入)	未指定	武田氏に従った大井氏の城とされる。
25	芝宮城跡	未指定	第一次上田合戦時の徳川方陣城とされる。
26	陣場城跡	未指定	第一次上田合戦時の徳川方本陣とされる。
27	須々貴城跡	未指定	上田原の戦い時の村上方の本陣とされる。
28	染屋城跡	未指定	真田家家臣の大熊氏が守ったとされる。
29	高ツヤ城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
30	武石城跡	未指定	武田氏に従った大井氏の城とされる。
31	燕城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
32	殿城山城跡	未指定	武田氏戸石城攻め時の本陣との伝承がある。
33	遠見番所跡	未指定	真田氏の城とされる。
34	常田屋敷跡	未指定	真田氏に従った常田氏の居館とされる。
35	鳥羽城跡	未指定	武田氏に従った鳥羽氏の城とされる。
36	鳥屋城跡	未指定	村上方の城とされている。
37	中尾城跡	未指定	真田氏の祖海野氏から分かれた岩下氏の城とされる。
38	長尾城跡	未指定	真田氏の城とされる。
39	根場城跡	未指定	鳥屋城の支城と言われている。
40	箱山城跡	未指定	依田氏に近い丸子氏、箱山氏の城とされる。
41	花古屋城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
42	古城館跡	未指定	戦国時代に海野氏の家臣春原氏が守ったとされる。
43	堀の内跡	未指定	武田氏に従った大井氏の館とされる。
44	孫台跡	未指定	武田氏に従った尾山氏の城とされる。
45	馬伏城跡	未指定	齋藤氏が慶長5年の一揆で籠ったとされる。
46	丸子城跡	未指定	真田氏に従った丸子氏の城とされる。
47	三日城跡	未指定	真田氏方の城と伝わる。
48	原畑城跡	未指定	真田氏に従った室賀氏の城とされる。
49	女神山城跡	未指定	齋藤氏が慶長5年の一揆で籠ったとされる。
50	茂沢城跡	未指定	尾野山城の支城とされる。
51	持越城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
52	矢沢支城跡	未指定	矢沢城の支城とされる。
53	矢沢城跡	未指定	真田一族の矢沢氏の城とされる。
54	依田氏居館跡	未指定	武田氏、真田氏に従った依田氏の居館とされる。
55	和合城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。
56	飯綱城跡	未指定	太郎山系の山城群の一つとされる。

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
57	真田石	未指定	真田昌幸が上田城築城の際置いたとされる大石
57	真田井戸	未指定	上田城内の井戸で太郎山に通じる穴があると伝わる。
—	小松姫の婿選び伝説	未指定	小松姫が真田信之を夫に選んだとされるエピソード。
—	小松姫の加賀藩献上品略奪と松代移封の伝説	未指定	将軍家養女である小松姫が将軍献上品を奪うため、街道沿いではない松代へ加増して移封したとの伝説。
58	舞田の葦	未指定	真田家が上田城内の座敷に舞田村の葦を使用したところ大評判となり、値段が上がったとの伝説。
59	上田古図	未指定	天正12年(1584)の絵図で、松代藩士佐久間氏所蔵の模写とされる。(市立博物館)
60	天正13年信州上田合戦図	未指定	第一次上田合戦の図とされる。(市立博物館)
61	生島足島神社	未指定	真田氏や武田氏等、この地を治めた権力者の寄進を受けている。
62	真田昌幸着用具足	未指定	真田昌幸の具足で、家臣の河野氏が拝領したとされる。(市立博物館)
—	真田昌幸画像	未指定	晩年の肖像とされている。(個人蔵)
63	宮下善七郎宛真田昌幸感状	未指定	天正11年(1583)に昌幸が小泉郡平定の際家臣の宮下氏に宛てた感状。(市立博物館)
—	飯島市之丞宛真田昌幸感状	未指定	天正11年(1583)に昌幸が小泉郡平定の際家臣の飯島氏に宛てた感状。(個人蔵)
—	長井権助宛真田昌幸宛行状	未指定	天正11年(1583)に昌幸が家臣に土地を与えた際の書状。(個人蔵)
64	宮下太兵衛宛真田昌幸宛行状	未指定	天正13年(1585)に昌幸が家臣に土地を与えた際の書状。(市立博物館)
65	宮下太兵衛宛真田昌幸請取状	未指定	慶長元年(1596)に宮下氏に宛てた証文。(市立博物館)
—	飯島市之丞宛真田昌幸判物	未指定	慶長2年(1597)に昌幸が飯島氏に宛てた許可状。(個人蔵)
66	高槻・新木宛真田昌幸朱印状	未指定	天正14年(1586)のもの。(願行寺)
—	大野主馬書状	未指定	慶長20年(1615)に出された軍令状。(個人蔵)
67	真田幸村画像	未指定	真田信繁(幸村)とされる。(市立博物館)
68	真田父子犬伏密談図	未指定	犬伏の別れの状況を描いたとされる。(市立博物館)
69	真田信之安堵状	未指定	慶長6年(1601)に信之が開善寺に宛てた安堵状。(市立博物館)
70	真田信之朱印状	未指定	慶長11年(1606)に信之が出した上田城下町に関する朱印状。(市立博物館)
—	長井権介宛真田信之宛行状	未指定	慶長6年(1601)に家臣の長井氏に宛てたもの。(個人蔵)
71	下之郷六供・社人衆宛真田信之安堵状	未指定	慶長6年(1601)に生島足島神社に宛てたもの。(生島足島神社)
72	開善寺宛真田信之安堵状	未指定	慶長6年(1601)に開善寺に宛てたもの。(海禅寺)
73	工藤長七宛真田信之朱印状	未指定	慶長13年(1608)に生島足島神社神主へ宛てたもの。(生島足島神社)
—	飯島庄九郎宛真田信之安堵状	未指定	元和3年(1617)に信之が出した安堵状(個人蔵)
74	金箔瓦	未指定	上田城跡から出土した瓦。真田氏時代の遺物と考えられる。(市立博物館)
75	錦絵真田父子上田籠城図	未指定	明治時代の錦絵で、第二次上田合戦を描いたもの。(市立博物館)
76	錦絵真田幸村勇戦之図	未指定	幕末の錦絵で、大坂夏の陣を描いたもの。(市立博物館)
77	錦絵真田幸村巡見図	未指定	明治時代の錦絵で、大阪冬の陣を描いたもの。(市立博物館)
78	山家神社	未指定	真田氏にも守られていた神社。上田城の鬼門除けに位置するとされている。
79	信綱の鎧	未指定	信綱の墓から発見されたもの。(信綱寺)
80	血染めの陣羽織	未指定	長篠合戦で討死した信綱の首級を包んだとされる。(信綱寺)
—	真田昌幸宛北条氏邦宛書状	未指定	天正10年(1582)3月12日に出されたもの。(個人蔵)
81	刺繍種子阿弥陀三尊	未指定	昌幸の妻寒松院の作とされる。(大輪寺)
—	織田信長禁制	未指定	天正10年(1582)3月に下塩尻に出されたもの。(個人蔵)



### ③ 文化財の分布

「真田氏の活躍と城郭文化財」を構成する文化財は、市域全体に分布している。特に山城跡の数が多く、平野を見下ろせる位置や、街道の要所に設けられている。

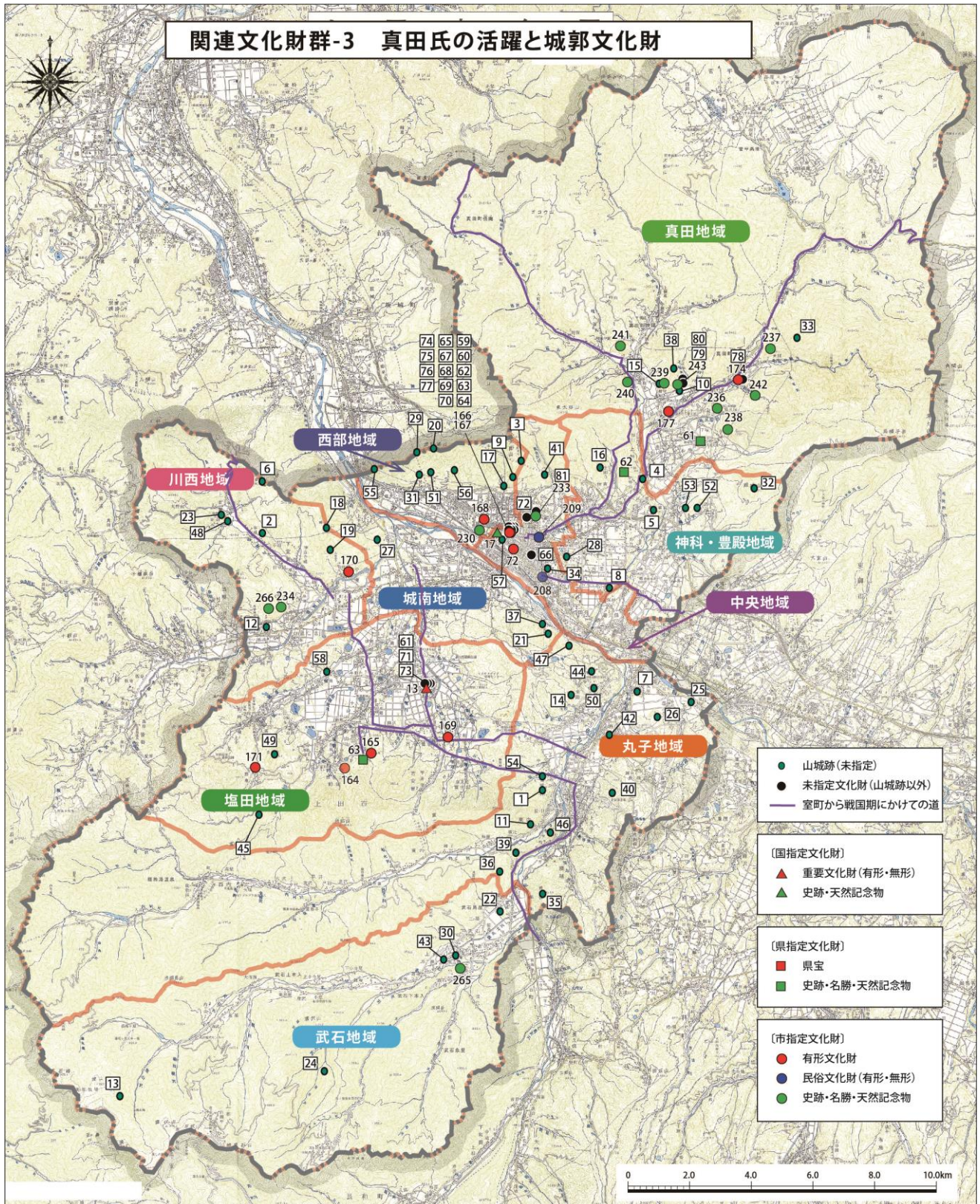


図 33 関連文化財群-3 真田氏の活躍と城郭文化財分布図



## (2) 基本的な方向性

### ① 守り伝えるべき価値

#### ・ 上田市民の英雄、真田一族の生き方

真田氏は、戦国の動乱の中で、地域と一族を守るために情勢を読み、時機を先取りし行動したものとして、上田市民の英雄となっている。山城や上田城に残された文化財は、その卓越した戦略性を伝えるものである。

#### ・ 城郭遺構の変遷

中世城郭は、山城から段丘崖を利用した平城へと変遷していく。上田市では、峠の出入口や道沿いに、村上氏や真田氏など、上田市とその周辺の武士によって塩田城や砥石城などの山城が築かれた。16世紀半ば頃までには川西地域に岡村氏によって浦野川段丘崖上に居館が建てられた。天文22年(1553)武田氏がこれを攻略し、虎口に丸馬出しと三日月堀を設けた、「武田流」による縄張の城に修築している。そして、天正11年(1583)千曲川尼が淵の段丘崖に、真田昌幸によって上田城が築かれていく。

上田市では、こうした山城から平城への変遷過程を、多くの城郭を通じて知ることが出来る。

### ② 守り伝える方法

#### ・ 上田城跡の整備

上田城跡は、国や県の補助金やふるさと寄付金などを財源に、調査研究活動の進捗とともに史実に忠実な史跡公園としての整備を進める。加えて、都市公園や広域避難場所としての機能を併せ持つ市民の公園として、また上田市を代表する観光資源として整備を進めていく。

#### ・ 山城跡の整備と活用

山城跡は、多くが山岳や森林地帯にあり、林業の衰退や里山の荒廃とともに保全の危機にある。西部地域では、西部公民館を拠点に太郎山・虚空蔵山縦走路トレッキングが開催され、山城跡に繋がる歩道の整備が実施されている。また、「健幸都市うえだ」の活動として、地域の健康ウォーク活動も盛んである。こうした活動と連携して文化財や歴史の学習や保全を進めていく。

#### ・ 古文書や絵図、軍記物のウェブサイトでの公開

上田市は、貴重な文化財のデジタル化や映像記録に取り組み、その成果をウェブサイト上で公開している。その中には、武田信玄に関わる起請文(生島足島神社文書)や絵図、軍記物等が掲載されており、今後も、城郭を築いて合戦を繰り広げた武将の活躍に関する歴史資料等について、ウェブサイト上でのわかりやすい公開・発信に努める。

#### ・ 三頭獅子の周知と活用

上田城の築城の際に舞われたと伝える三頭獅子について、演舞の日などをPRして周知するとともに、上田城跡や関連する地域のイベント等で活用する。

## 関連文化財群-4 城下町と街道筋の文化財

### (1) 概 要

#### ① ストーリーの概要

上田市は、古代には東山道、中世には鎌倉道、近世には北国街道、近代には信越線の鉄道網を介して、各時代の最先端の文化がもたらされ発展してきた地域である。特に中世末の戦国期以降、近世にかけて、主要道沿いに城館と城下町が築かれるようになり、領地の治安を守ると同時に、市が開かれるなど、人と物が集まり交流する経済活動の場となった。

そうした城下町のうち、上田城下町には、市神とともに常田・房山獅子や祇園祭礼などが伝わり、また塩田城下町には、市神、前山三頭獅子、塩野神社の甲子祭が伝わり、今も地域に根付いている。特に上田城下町は、北国街道の宿場町となったことから、江戸や各地から伝えられた俳諧や和算、蘭学、書、絵画など、多様な庶民文化や習い事が花開き、現在もこうした習い事をたしなむ気風がある。

北国街道に沿う上塩尻の集落は江戸時代後期以降、蚕種製造で栄えた地区である。その他、秋和、下堀、岩下なども蚕種製造で栄えた集落である。蚕種の販路は、関東や東北など広域に及んでいて、蚕種製造家がほぼ年間を通じて自ら売り歩いた。蚕種製造家は、販路地域からの帰途の際、お茶や綿などの商品を仕入れて戻り、商いをしていた。上塩尻に限らず市域の集落においては、かつての蚕種製造家を「お茶やさん」「綿やさん」などと呼ぶのはその名残である。

松本と上田を結ぶ保福寺道は、古代東山道筋にあたる道であり、近世には伊勢や熱田に通じる道となった。沿道の越戸・仁古田・岡・下室賀岳の組・町小泉・吉田・築地・上田原・下之条の集落に太神楽が伝わっているが、いずれも伊勢や熱田の御師によって伝えられたものである。

上州(群馬県)と上田を結ぶ上州街道は、戦国期に真田氏が上田に進出した道である。沿道には「四日市」という地名があったり、砥石城下の伊勢山に市が立っていたことが知られる。



伊勢山の砥石城下町



丸子大門街道の景観

別所道は、保福寺道から分かれて別所温泉にむかう信仰の道である。北向観音には、慈覚大師円仁や西行らの僧侶、平維茂ら武将の伝説が伝わるほか、「片参り」伝説のもととなる尾州（愛知県）知多郡新田の市之助の厄除け物語がある。

このように、城下町と街道筋の集落は、現在の基幹集落の原型となっており、多くの人・物・情報が往き来したことにより、様々な由来や特徴を持った町並み、寺社や石造物、伝統行事や習俗が根付いている。

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
34▲	戸沢のねじ行事	国選択無形民俗	室町時代（伝：永正元年（1504）） 「ねじ」は、縁起物などをかたどった米粉でつくる食物で、子どもの無病息災を祈る。馬引き行事と道祖神祭りが合わさったといわれる。
49■	旧倉沢家住宅主屋及び客座敷	県宝 建造物	保福寺道に沿った築地集落に残る17世紀中期～19世紀前期の庄屋の家屋群
50■	紙本墨書著色正保の信濃国絵図	県宝 絵画	正保4年（1647）。幕府が正保元年（1644）に全国の主要大名に国絵図や郷帳、城絵図の提出を求めたもので、当時の道筋が知られる。
158●	加舎白雄自筆画賛屏風	市指定 書跡	江戸時代中期に活躍した俳諧師加舎白雄の書。上田に俳諧文化を伝えた。
159●	加舎白雄自筆酒中仙屏風	市指定 書跡	江戸時代中期に活躍した俳諧師加舎白雄の書。上田に俳諧文化を伝えた。
160●	海野町柳沢家日記（本陣日記）	市指定 古文書	上田城下町の海野町の間屋の日記。
161●	原町滝沢家日記（問屋日記）	市指定 古文書	上田城下町の原町の間屋の日記。
162●	元禄信濃国絵図	市指定 古文書	元禄14年（1701）幕府に提出した絵図の縮小版で、当時の村名や国境、道筋が記されている。
173●	天保信濃国絵図	市指定 古文書	正保の国絵図作成後の改訂版で、当時の道筋が知られる。
175●	上田藩村明細帳	市指定 古文書	宝永3年（1706）の上田藩の村勢要覧で、年貢、用水、橋、家の数、人口、馬の数、職人、寺社、稲の種類、その他の農作物、薪取り場などが記される。
177●	真田氏給人知行地検地帳	市指定 古文書	真田昌幸の検地帳と推定される領地支配の動向が知れる好史料
204●	お舟の天王山車	市指定 有形民俗	寛政12年（1800）以来、上田城下町の祇園祭で曳航される山車。
206●	祇園祭礼屏風	市指定 有形民俗	文久3年（1863）、原町の呉服商浜田屋伊助が長男の誕生を祝って屋台を牽きだした様子を町絵師田口九蛙に描かせたもの
208●	常田獅子	市指定 無形民俗	上田城築城の際の地固めに舞われたと伝える、城下町を代表する三頭獅子
209●	房山獅子	市指定 無形民俗	上田城築城の際の地固めに舞われたと伝える、城下町を代表する三頭獅子
213●	三ッ頭獅子	市指定 無形民俗	真田氏の本貫、真田地域本原に伝わる三頭獅子で、常田獅子・房山獅子の原型といわれる。
215●	前山三頭獅子	市指定 無形民俗	塩田城の城下町前山に伝わる三頭獅子。
217●	上室賀三頭獅子	市指定 無形民俗	杵杵明神に保存されてきた獅子と伝えられる
218●	下室賀三頭獅子	市指定 無形民俗	鎮守である、出浦室賀神社の秋祭りに舞われる
252●	竹内善吾武信の墓	市指定 史跡	19世紀前期の算術家の墓。（呈蓮寺）
①	旧上田城下町	未指定	城下町、宿場町として栄え、商工の町人文化や祭礼行事が伝わっている。現在の中心市街地の地割りは、この城下町が形成された際の遺構である。
②	本原地区	未指定	真田居館の城下町
③	伊勢山地区	未指定	砥石城下町



番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
④	東前山地区	未指定	塩田城下町
⑤	岡地区	未指定	岡城の北に隣接する、保福寺道の街道筋の集落
⑥	塩尻地区	未指定	北国街道筋の集落 養蚕家屋群を形成する。
⑦	岩下地区	未指定	北国街道筋の集落
⑧	大屋地区	未指定	北国街道筋の集落であり、信越本線大屋駅前の町
⑨	坂下地区	未指定	保福寺道の街道筋の集落 養蚕家屋群
⑩	築地地区	未指定	保福寺道の街道筋の集落 養蚕家屋群
⑪	小泉地区	未指定	保福寺道の街道筋の集落 養蚕家屋群
⑫	浦野地区	未指定	保福寺道宿場町 養蚕家屋群
⑬	戸沢地区	未指定	上州道の脇街道筋の集落 養蚕家屋群
⑭	大日向地区	未指定	上州道の街道筋の集落
⑮	中吉田地区	未指定	称津街道の街道筋の集落
⑯	小島地区	未指定	別所道(北向観音道)の街道筋の集落
⑰	保野地区	未指定	別所道(北向観音道)の街道筋の集落
⑱	舞田地区	未指定	別所道(北向観音道)の街道筋の集落
⑲	八木沢地区	未指定	別所道(北向観音道)の街道筋の集落
⑳	長瀬地区	未指定	大門道(諏訪街道)の街道筋の集落
㉑	中丸子地区	未指定	大門道(諏訪街道)の街道筋の集落
㉒	上丸子地区	未指定	大門道(諏訪街道)の街道筋の集落
㉓	腰越地区	未指定	大門道(諏訪街道)の街道筋の集落
㉔	金剛寺地区	未指定	松代道の街道筋の集落
㉕	傍陽地区	未指定	松代道の街道筋の集落
㉖	辰ノ口地区	未指定	三才山道の街道筋の集落
㉗	東内地区	未指定	三才山道の街道筋の集落
㉘	平井地区	未指定	三才山道の街道筋の集落
㉙	西内地区	未指定	三才山道の街道筋の集落
㉚	別所温泉地区	未指定	別所道(北向観音道)終着の寺院と温泉の集落
㉛	信州上田城絵図	未指定	正保4年(1647)に仙石政俊が幕府に提出した絵図で、当時の上田城や城下町の姿をかなり忠実に表している(市立博物館蔵)
㉜	仙石氏在城時代の上田城下町図	未指定	原本製作時期は不明であるが、仙石氏の時代の上田城と城下町を表したもの(市立博物館蔵)
㉝	仙石氏家臣屋敷割図(写)	未指定	『仙石時代上田城及城下町之図』の絵図との大きな違いは、城下に住む藩士の住まいに氏名と禄高が記入されており、貴重な情報である。(市立博物館蔵)
㉞	安政年間上田城下町絵図	未指定	幕末の不安定な世の中で作成された、上田城下町を知ることができる貴重な一枚(市立博物館蔵)
㉟	斎藤善兵衛撰算額	未指定	文政11年(1828)に閑流の算額を学んだ斎藤善衛門が奉納した体積を求める額(北向観音)
㊱	善光寺大地震絵馬	未指定	弘化4年(1847)尾州知多郡新田の市之助の厄除け物語(北向観音)
㊲	西行の戻り橋伝説	未指定	別所の入口、山田峠と相染橋において、西行が入場を拒否された伝説
㊳	太神楽	未指定	保福寺道に沿って伊勢・熱田の御師が伝えた太神楽(越戸・仁古田・岡・下室賀岳の組・町小泉・吉田・築地・上田原・下之条)



## ③ 文化財の分布

「城下町と街道筋の文化財」を構成する文化財は、町並景観や伝統的な習俗、古文書等を含んでおり、市域各所の集落に広く分布する。

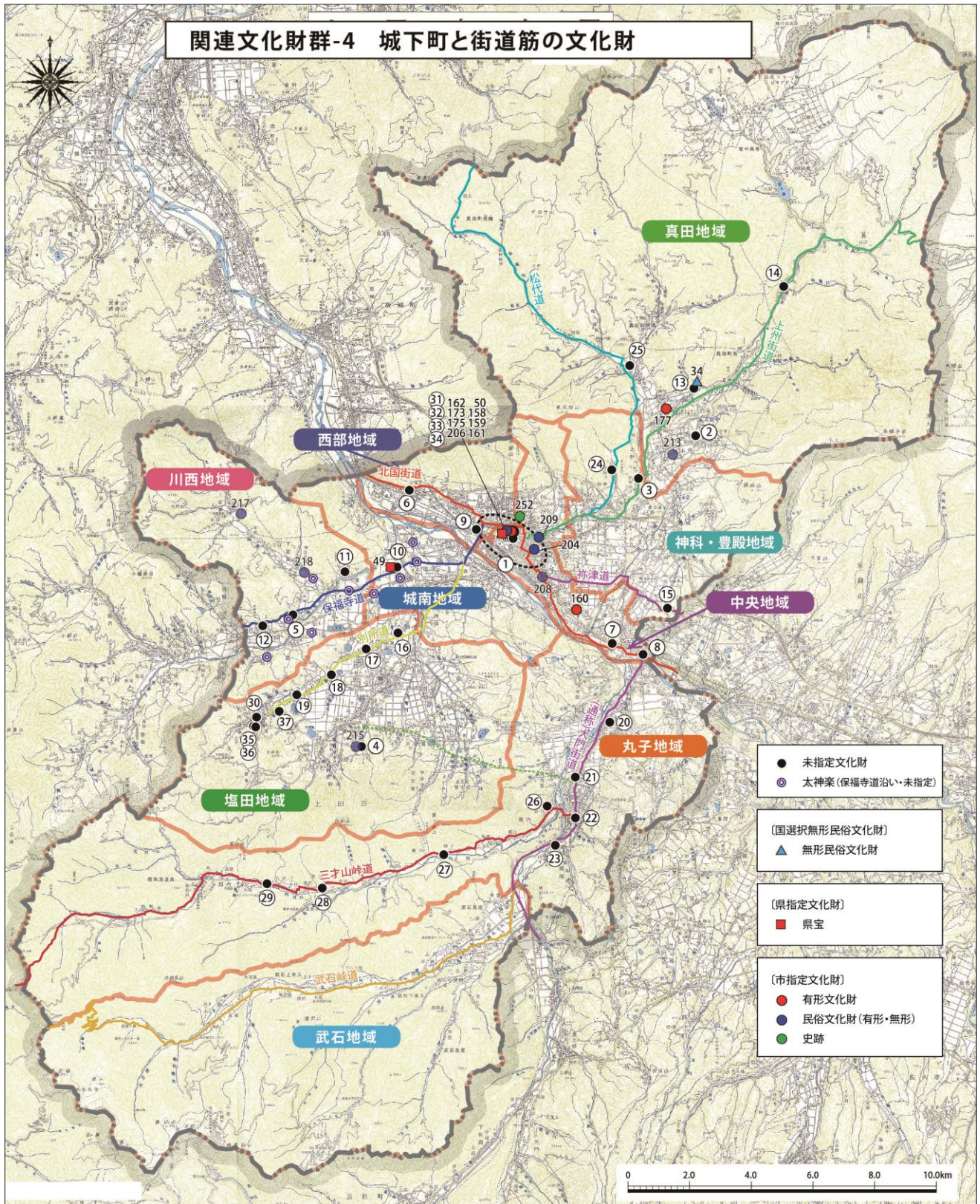


図 34 関連文化財群-4 城下町と街道筋の文化財分布図



## **（２）基本的な方向性**

### **① 守り伝えるべき価値**

#### **・ 集落まるごと、ひと、もの（有形文化財）、情報（無形文化財）**

山城の城下や近世に遡りえる道筋には、地域の核となる集落と建造物群、文化財が集積され、現代に連なる集落・地域の中核として存在し続けている。

これらは、各々が単独で存在しているのではなく、密接に関連しながら伝承されてきた。

### **② 守り伝える方法**

#### **・ 地域史の編纂活動の推進**

現在、県や市の助成金を活用して、自治会誌や地域史などの編さん・出版が活発に行われている。こうした活動を継続的に支援して、市内各所の地域誌づくりを推進する。

#### **・ 地域住民による調査の推進**

地域や集落の歴史や文化財の調査は、住民自らが地域を知り、次世代の地域づくりに向けた大切な活動と位置付け、地域住民による有形・無形の文化財の悉皆的調査と、その継承を考える機会をつくりだしていく。

また、住民自らが文化財や歴史の調査を実施する際、その方法やデータの整理を共有化し、全市的に相互活用できるシステムを構築する。

#### **・ 地域を知る活動**

健康ウォークや公民館活動、学校教育と結んで、地域巡検活動を実施し、「地域を知る」活動を推進する。



## 関連文化財群-5 蚕都上田の文化財

### (1) 概 要

#### ① ストーリーの概要

上田市の名産「上田紬」は、蚕種の製造過程で出る大量の出殻繭を利用して、真綿をつくり、そこから糸を紡ぎ、布に織り上げた。また、生糸を使った織物上田縞は江戸時代中期には江戸、京都、大坂などに広く流通した。

ただし、江戸中期までの蚕種業に関しては、奥州福島<sup>しんたつ</sup>の信達地方が本場となっていた。信達地方とほぼ同じ気象条件をもつ上田盆地に蚕種業が広まり、幕末には全国一の産地となった。

蚕種製造でもっとも重要なことは、きょう蛆（カイコノウジバエ）のいない蚕でなければならない。この蚕の飼育には歩桑とよばれる桑が最適で、千曲川の氾濫原や虚空蔵山から山口扇状地にかけてのガレ地、特に西部地域塩尻地区でよく育った。加えて小雨という上田盆地の自然条件を最大限に利用して、蚕種業が発展した。

明治以降は器械製糸が普及し、生糸を大量に生産した。大迫輝通は『日本の製糸都市』で 1,000 釜以上ある製糸業の盛んな都市を上げているが、上田は最盛期に 1,500 釜以上を擁し、県内では岡谷・須坂・松本・小諸などとともに製糸都市として繁栄した。上田市域では、丸子地域依田川水系の良好な水質が製糸に向いていたため、製糸工場の集積地となった。なかでも依田社では大正期に、生糸の輸出先であるアメリカに向けた英語版 P R 映画と、女子工員を集めるための会社のデモンストレーション映画を、アメリカ人映画技師を招いて製作している。これらは、当時の製糸工場の繁栄を伝えるばかりでなく、現存する最古の P R フィルムとして価値が高い。

明治 10 年代には信濃銀行・塩尻銀行・神川銀行・保全会社塩田銀行などが続々と設立され、小県郡の金融機関は明治 17 年時点で 83 社を数え、県下第 1 位、県内銀行の 7 割が集中した。これをみても上田・小県郡の蚕糸業や商業が他の地区に比べ非常に活発だったことが分かる。

蚕は「お蚕さま」と呼ばれ、神として信仰され、祀る神社や遺跡も数多く残る。塩尻地区の座摩神社や別所地区の三島神社、富士山地区の猫山観音などが蚕の神として信奉されている。なかでも神科・豊殿地域小井田にある蚕影神社拝殿には、蚕を飼育する藁で編んだ円座「いっつあ」（市指定）が大量に奉納されている。また、真田町傍陽の三島神社にも円座「いっつあ」（市指定）がある。昭和 16 年（1941）、上小蚕糸業同盟会は、蚕影神社を上田大星神社の摂社として造営をする。以来現在まで、関係者によって例



上田紬



信濃国蚕業頌功碑

年蚕糸祭が開かれている。

全国で栄えた蚕糸業であるが、上田で重視されたのが教育と研究である。明治 25 年(1892)、郡立小県蚕業学校が設立された。ここでは養蚕の実地教育に力を入れ、地域の養蚕業の技術向上に大きな役割を果たした。また、蚕糸業発展の人材育成に大きく貢献し、全国から集まった生徒たちは、修学後は郷里や国外で活躍して養蚕の発展に尽くした。さらに、明治 44 年(1911)、わが国で唯一の蚕糸学の国立専門学校である上田蚕糸専門学校が設立され、教育と蚕業に関する研究が行われ、蚕糸関係を中心とする技術革新が進められた。

こうした学校の設立・誘致には、地域住民や産業界、議会・行政の尽力があった。明治 21 年(1888)、国営で信越本線が開業し、蚕業製品が世界へと輸出され、上田市の近代化は一気に進む。こうした産・学・官の連携による蚕糸業の発展は、近代の上田の大きな特徴となっている。

蚕糸業で栄えた農民の中から、あらたな思想や学問を学ぶ気風が芽生える。神川村の青年、金井正と山越脩蔵は、山本鼎と児童自由画教育と農民美術運動を興すとともに、猪坂直一とともに信濃（上田）自由大学も開講し、これらの運動は、全国的に広がっていく。

昭和恐慌を契機に蚕糸業は衰退し、製糸業は昭和 59 年に、養蚕業は平成 11 年に終焉を迎える。しかし、蚕都繁栄の証として、旧常田館製糸場施設（重文）をはじめ、養蚕家屋群や風穴、駅舎・教会などの近代建築などが市内の至る所に見られるばかりか、上田蚕種協業組合では現在もお蚕種製造が続けられ、上田蚕糸専門学校は信州大学繊維学部へと発展し、新たなファイバー技術により医療や宇宙服など最先端の研究を続けている。

※「蚕都上田」という表現は、猪坂直一が執筆した『上田近代史』（昭和 45 年刊）が初見である。



信州大学繊維学部（旧上田蚕糸専門学校）講堂内部



藤本蚕種株式会社保存繭標本

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
7▲	旧常田館製糸場施設	国指定 建造物	明治36年ほか。明治33年(1900)、上田の生糸商人の誘致を受け、岡谷の笠原組が開業間もない上田駅の近くに進出した。当時の製糸工場は、生産ばかりでなく、工女たちの衣食住や医療・娯楽等、生活の機能を備えていた。
22▲	上田蚕種協業組合事務棟	国登録 建造物	大正6年(1917)。蚕種の品質維持・向上とブランド確立のために蚕種家が共同出資して建設した。
23▲	信州大学繊維学部講堂	国登録 建造物	昭和4年(1929)。明治44年(1911)開校の上田蚕糸専門学校の講堂。建物の意匠として、桑や繭、蚕・蛾が各所に付けられる。
24▲	旧常田幼稚園舎	国登録 建造物	大正8年(1919)。長野県へのキリスト教の布教は、信越本線沿いを中心に展開された。カナダ・メソジストは布教の一環で幼稚園教育を実践した。上田城近くの梅花幼稚園は商家を、常田幼稚園は養蚕農家などを対象にした。
25▲	依水館主屋	国登録 建造物	大正7年(1918) 製糸結社、依田社の迎賓館施設で、アメリカからの視察団を迎えるために建設された。
27▲	旧草間歯科医院	国登録 建造物	大正12年(1923)。蚕業で栄えた上田町には、医者の開業も相次いだ。この建物は、隣接する旧長峰医院の応接として建てられ、その後草間歯科医院の病棟兼住宅として転用された。
28▲	飯島商店	国登録 建造物	明治27年頃(1894)他。米穀商を営んでいた飯島家は、明治21年(1888)、上田駅の開業にあわせて現在の駅前に移転した。現在事務所や工場棟として使用している建物は、明治期に倉庫業を営んだ上田倉庫(株)の繭倉庫で、かつては駅前一帯に立ち並んだ繭倉庫の遺構である。
29▲	信州大学繊維学部資料館 (旧上田蚕糸専門学校貯繭庫)	国登録 建造物	明治43年(1910) 上田蚕糸専門学校の繭貯蔵倉庫。
30▲	信州大学繊維学部守衛所 (旧上田蚕糸専門学校門衛詰所)	国登録 建造物	大正元年(1912)/昭和4・39年移築他 上田蚕糸専門学校の拡大とともに移転をくりかえす。
32▲	相澤商店店舗兼住宅	国登録(申請中)	昭和10年(1935) 当時の都市計画による街路拡幅計画を反映した土蔵造の看板建築
33▲	旧松高産婦人科医院大正館	国登録(申請中)	大正4年(1915)築 中心市街地の東端に位置し、蚕業で栄えた上田町には、医者の開業も相次いだ。
97●	旧上田市立図書館	市指定 建造物	大正4年(1915) 上田男子小学校同窓会が明治天皇の崩御を機に、市民から寄付を集めて「明治記念館」を建てた。当初から図書館機能を備え、大正12年(1923)から昭和45年(1970)まで市立図書館として使われた。学びを尊ぶ上田らしい建物。
98●	旧宣教師館	市指定 建造物	明治37年(1904)。長野県へのキリスト教の布教は、信越本線沿いを中心に展開された。カナダ・メソジストが婦人宣教師の住宅兼幼稚園の保母育成舎として建てた。
100●	カネタの煙突	市指定 建造物	大正9年(1920)、カネタ製糸工場のボイラーの煙突として製作される。レンガ造の円筒形の煙突は県内唯一
103●	依水館客殿及び玄関	市指定 建造物	大正7年(1918)、依田社により建てられた迎賓館施設。全体に大正時代の建物の特徴をよく示している。
104●	笠原工業常田館製糸場	市指定 建造物	旧常田館製糸場施設に同じ
106●	旧千曲会館	市指定 建造物	昭和10年(1935)建設。大正4年(1915)発足の上田蚕糸専門学校同窓会の会館。大学と、産業界や官公庁に就職した同窓生が交流する産・学・官の交流連携拠点として、蚕都上田の繁栄をもたらした。
197●	藤本蚕種株式会社保存繭標本	市指定 有形民俗	近世から優良な蚕種製造と普及のために、640種2,500粒の繭を標本とした。
201●	円座	市指定 有形民俗	小井田の蚕影神社に奉納された1,000個以上の蚕を飼育する藁製の円座。
207●	三島神社の円座	市指定 有形民俗	傍陽の三島神社に奉納された蚕を飼育する藁製の円座。



番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
258●	畑山発電所跡	市指定 史跡	明治 35 年(1902) 上田の町に初めて電灯を灯した発電所跡。
296●	桑の木	市指定天然記念物	中心市街地に位置する上田図書館に残った、かつての桑園にあった桑の木。
①	信濃国蚕業頌功碑	未指定	下塩尻 明治 24 年(1891) 建造 信濃国の蚕業に関する歴史や由来を記した石碑
②	座摩神社	未指定	下塩尻の虚空蔵山中腹に、保食神(養蚕神)を祀る。
③	三島神社	未指定	別所風穴の入口に、蚕神として祀られる
④	猫山観音	未指定	養蚕の害獣、鼠を除ける猫の観音として信奉される
⑤	小井田の蚕影神社	未指定	「いっつあ」を奉納する蚕影神社
⑥	蚕養国神社	未指定	昭和 16 年竣工の蚕業関係者による神社 中央地域大星神社境内に祀られる
⑦	群立小県蚕業学校	未指定	現在の長野県上田東高校。当初は上田城近くの丸堀に開校し、その後、現上田高校敷地、旧常田館製糸場隣、そして現在地へと移転する。
⑧	上田蚕糸専門学校	未指定	現在の信州大学繊維学部 明治 43 年(1910) 日本最初の蚕糸専門学校として開校し、講堂や同窓会館等が残る。
⑨	大屋の河川のレンガ橋	未指定	明治 21 年(1888)、信越線上田駅—軽井沢駅間が開通した際に瀬沢川に架けられたレンガ橋
⑩	大屋駅舎	未指定	明治 28 年(1895) 蚕糸業製品を世界に輸出するために建設された全国初の請願駅
⑪	西上田駅舎	未指定	大正 9 年(1920) 大屋駅と同じく、地域の蚕業製品を運び出すために開設された請願駅
⑫	旧信濃銀行東支店	未指定	大正 14 年(1925) 蚕業の繁栄により上田町には多くの銀行が出来た。上田東駅開業とともに開店し、昭和恐慌により閉鎖した銀行店舗。
⑬	水野商工店舗	未指定	昭和 2 年(1927) もとは新聞店で、昭和 25 年 (1950) に約 300m 曳家して移築した看板建築
⑭	花岡商事事務所兼倉庫	未指定	昭和 5 年(1930) 昭和初期の商店建築
⑮	梅花幼稚園舎	未指定	明治 35 年(1902)。長野県へのキリスト教の布教は、信越本線沿いを中心に展開された。カナダ・メソジストは布教の一環で幼稚園教育を実践した。上田城近くの梅花幼稚園は商家を、常田幼稚園は養蚕農家などを対象にした
⑯	伊藤傳兵衛住宅	未指定	大正 12 年(1923) 上田瓦斯創立者で、元上田市長の住宅。伝統的な真壁造
—	蚕種・養蚕家屋群	未指定	幕末～近代の蚕種製造や養蚕を行った農村家屋群 (図 30 参照)



## ③ 文化財の分布

「蚕都上田の文化財」を構成する文化財は、町の近代化に伴う商店・倉庫、洋館等の建造物が集積した中央地域に多く分布する。養蚕家屋は市域全体に分布する（第3章参照）。

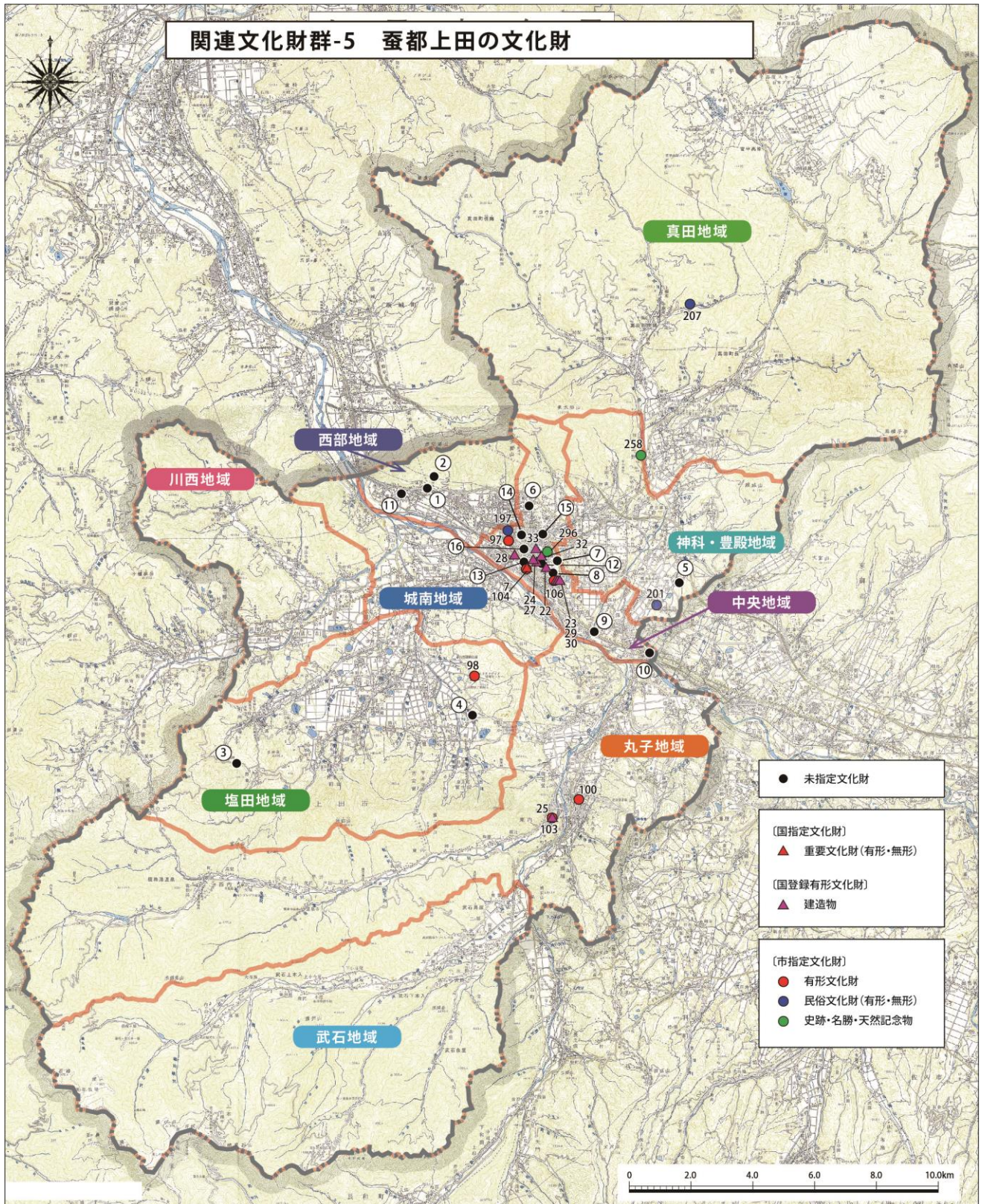


図 35 関連文化財群-5 蚕都上田の文化財分布図



## （２）基本的な方向性

### ① 守り伝えるべき価値

#### ・ 蚕種製造業の遺構と養蚕家屋群

上田の蚕種製造は、地域の先人の卓越した研究と技術により世界を席巻した。この技術は現在も上田蚕種協業組合に継承されている。また、蚕糸の出荷時期を調整する風穴や冷蔵施設が多く残っており、上田の特筆すべき技術と遺構として重要な要素である。

蚕種製造や養蚕を行った養蚕家屋も、全市的に広く分布し、特に西部地域塩尻や丸子地域藤原田などに集中して残されている。これら養蚕家屋のスタイルは、当地方における住宅建築の規範となっており、養蚕を営まなくても住宅は養蚕家屋風にした家屋も散見され、上田の建築文化の特徴を示す。

#### ・ 製糸場施設

現在の笠原工業株式会社に引き継がれた旧常田館製糸場施設（重文・市指定）は、木造多層の繭倉庫群と製造関連施設である。国内の多くの木造多層式繭倉庫が、業種転換により取り壊されていくなか、同社では、発泡スチロールの保管用倉庫として転用されて残ってきたことは、文化財の保存と活用のひとつのヒントとして貴重な例である。

#### ・ 鉄道関連遺産

明治 21 年(1888)開通の信越線の遺構は、中央地域の踏入や大屋のレンガ橋や、明治 29 年開業の大屋駅舎、大正 9 年(1920)開業の西上田駅舎などに残されている。この鉄道は、上田の蚕糸業だけでなく、上田市の社会全般の大変革をもたらした。

#### ・ 「もったいない」のころ

上田紬は、出殻繭から手間をかけて布に織り上げたものである。繭内のサナギは、ため池の鯉養殖の飼料として活用された。旧常田館製糸場施設では、繭倉庫が前述のように転用されてきた。商店の近代建築も「使えるうちは使う」と、上田市の気質には「もったいない」の気質が随所に示されている。

### ② 守り伝える方法

#### ・ 用途の転用と新たな価値付けによる活動

本関連文化財群は、旧常田館製糸場施設のようにいまなお現役として活用されているものと、維持や世代交代の困難さから消えつつある養蚕家屋、風穴のように忘れ去れつつある文化財が混在している。風穴は近年、日本酒やワイン、そばの種の保存などに活用されつつあるが、新たな価値の付加や利活用の方法の開発などによって、保存と活用の両立を図っていく。信越線に関しては、現在は第三セクターのしなの鉄道(株)によって利用されているが、近代化を象徴する文化財として、その周知と保全に努めるとともに、利用者増のためのイベント開催など、積極的な活用を進める。



## 関連文化財群-6 近代の保養・観光開発の文化財

### (1) 概 要

#### ① ストーリーの概要

上田市には、塩田地域の別所温泉をはじめ、丸子地域の丸子温泉郷（鹿教湯・大塩・霊泉寺）など、多くの温泉に恵まれている。それらの開湯の歴史は明らかではないが、近世には湯治場として栄え、近代には温泉観光地や療養所として発展した。

別所温泉は、大和武尊伝説や枕草子の「七苦離の湯」「七久里の湯」の伝承により、信州最古の温泉といわれる。近世には、上田藩主や家臣らの湯治場として利用されてきたほか、北向観音は、参詣地として賑わった。大正の初めまでは大湯と北向観音の周辺に5、6軒の旅館があるだけで、主たる客層が養蚕農家の湯治客であり、これを迎える旅館もまた、春から秋まで蚕種製造や養蚕を営んでいた。しかし、大正6年(1917)に、別所で蚕種業を営んでいた南条吉左衛門が花屋ホテル（国登録）を創業、同7年から内湯化が推進される。さらに、大正10年には南条氏ら地域の財界人によって別所線が開通し、一気に温泉観光地として繁栄する。内湯化は、温泉旅館・ホテルの高級化志向の高まりであり、湯治場からリゾート地へと変貌する当時の全国の温泉地の大きな流れであった。

丸子温泉郷は、鹿教湯、霊泉寺、大塩の3箇所の温泉地からなり、三才山峠の西の麓に位置する。江戸時代には湯治場として栄え、昭和31年(1956)には、3箇所がともに国民保養温泉地に指定された。鹿教湯温泉には温泉を利用した病院やリハビリ施設が設けられ、現代湯治医療地として発展してきた。

鹿教湯温泉は、文殊菩薩の化身の鹿が教えた湯治場としての伝説を持ち、文殊堂（県指定）が建立され「日本三大文殊」の一つとして参詣客を集めてきた。昭和9年の鹿教湯温泉案内図では、2つの外湯と旅館街が見えるが、旅館に内湯が入るのは戦後となる。

霊泉寺温泉は、昭和6年の「霊泉寺温泉案内図」には、9軒の旅館が建ち並び、内湯を引いていたという。大塩温泉は、戦国時代に甲州武田軍の兵を癒したとする、信玄の隠し湯伝説を持つ温泉である。

菅平高原や美ヶ原高原では、高地・冷涼な自然を生かしたスキー場やリゾート地の開発が行われてきた。菅平高原では、昭和2年(1927)に馬場忠三郎が菅平の開発に着手し、菅平の四季の良さやスキーツアーコースの開発・紹介のため「上田山岳会」を創設した。昭和3年(1927)の「上田市及其附近名所図絵」には、「スキースロープ」「避暑地」とある。昭和5年(1930)、オーストリアのスキー指導者シュナイダーが来日、日本で初めて菅平で滑走し、日本の近代スキーが始まった。翌昭和6年の「菅平スキー場案内図」に



花屋ホテル



鹿教湯文殊堂

は菅平の山々にスロープが開かれ、キャンプ場や別荘地、菅平ホテルや宿舎が紹介されている。

美ヶ原高原は、上田市・松本市・長和町にまたがる高原である。山頂付近は、古代から放牧地として利用されたという伝承があるが、文献上の初見は近世の『信府統記』である。明治42年(1909)には美ヶ原牧場が開かれ、本格的な牧場として利用が始まった。昭和5年(1930)に山本小屋が開業し、登山者が増加した。同29年には道標と避難所としての機能を持つ「美しの塔」が建設され、同32年には林道が、同56年には観光道路の「ビーナスライン」が開通し、美ヶ原のリゾート開発は一気に進む。

こうした地域の文化財や温泉、自然の資産を活用し、地域を発展させるため、信越線上田駅や中心市街地を発着点とする鉄道網が開発され、近代上田市は発展してきた。その発展の過程で、多くの文人や政治家、学者等が上田市、別所温泉を訪れ、新しい思想や制度を取り入れた上田市民が、独自の文化を形成してきた。その象徴が、上田自由大学であった。

## ② 関連文化財一覧

番号	文化財の名称	指定区分	ストーリーとの関連性、その他
26▲	花屋ホテル	国登録 建造物	大正7年(1918)他 内湯化のはじめ
31▲	筑波大山岳科学センター菅平高原実験所大明神寮	国登録 建造物	昭和34年(1959)築 高原地帯の生物や地理の研究を目的として昭和9年(1934)に設立された研究所の宿舎
44■	文殊堂	県 宝 建造物	宝永6年(1709)築 鹿教湯伝説を伝える仏堂
101●	常楽寺本堂	市指定	第1回原水爆禁止世界大会議長を務めた半田孝海大僧正と、世界の宗教指導者とともに平和と核兵器の廃絶を訴え続けた、初代上田市名誉市民の半田孝淳前天台座主の生家。
①	上田電鉄 千曲川架橋	未指定	大正10年(1921)、別所温泉への湯治客を輸送する「川西線」(現在の別所線)の千曲川架橋
②	別所温泉 石湯・大師湯・大湯	未指定	江戸時代以来の外湯
②	別所温泉 大湯薬師堂	未指定	別所温泉大湯に祀られる薬師。仏像は、17世紀末から18世紀初めの造像
③	北向観音善光寺大地震絵馬	未指定	「善光寺だけでは片参り」の起源を示す絵馬。北向観音を参詣した後善光寺へ向かった参詣者が、弘化4年(1847)の善光寺地震に遭うが難を逃れた、という伝説
③	北向観音節分会	未指定	大正3年(1914)に信者や湯治客の楽しみに始めた。
④	北向観音出現伝説	未指定	天長2年(825)、慈覚大師円仁の祈祷による北向観音出現の伝説。(常楽寺)
⑤	鬼女紅葉伝説	未指定	別所温泉に伝わる平維茂による鬼女紅葉の退治伝説。維茂の墓と伝わる古墳がある。
⑥	鹿教湯温泉薬師堂	未指定	鹿教湯温泉薬師を祀る。
⑥	鹿教湯病院・三才山病院	未指定	湯治場から温泉を利用した医療へと発展した病院。写真家土門拳もリハビリをした。
⑦	霊泉寺	未指定	鬼女紅葉伝説の平維茂湯治、霊泉寺開創
⑧	稚児ヶ淵	未指定	霊泉寺稚児の悲恋と入水伝説地
⑨	菅平ホテル	未指定	昭和6年(1931) 菅平の最初のホテル
—	上田市及其附近名所図絵	未指定	昭和3年(1927) 菅平高原に「スキースロープ」「避暑地」の表記
—	上田電鉄 別所温泉駅舎・八木沢駅舎・中塩田駅舎及び各駅ホーム等	未指定	大正10年(1921) 大正10年開通の上田から別所温泉にいたる上田温泉軌道の駅舎



## ③ 文化財の分布

「近代の保養・観光開発の文化財」を構成する文化財は、塩田地域・真田地域と丸子地域に分布する。

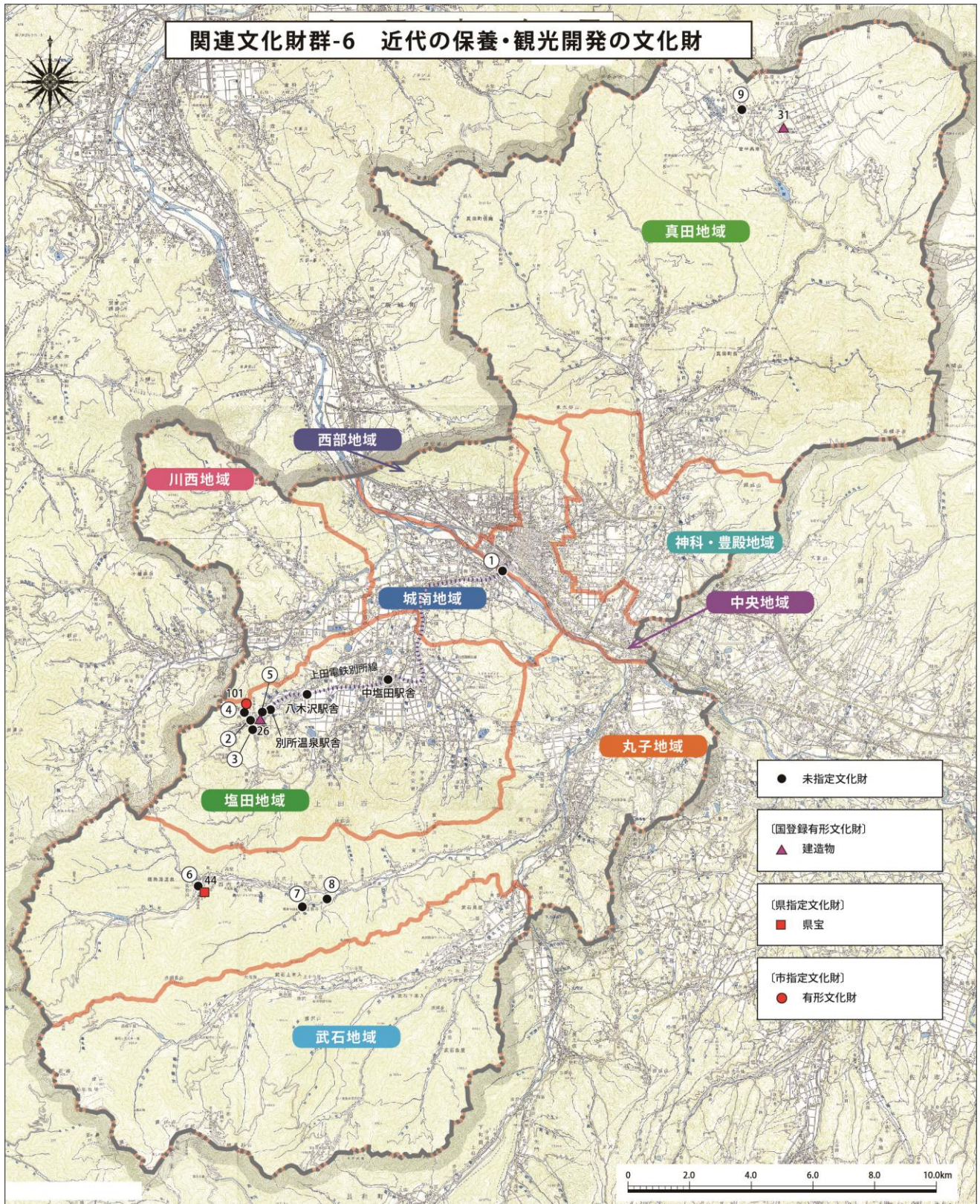


図 36 関連文化財群-6 近代の保養・観光開発の文化財分布図



## （２）基本的な方向性

### ① 守り伝えるべき価値

#### ・ 温泉の発展史と文化財群

温泉地は現在、温泉リゾートとしての観光が主となっているが、長野県では古来から湯治場としての療養が主目的であった。そこに近現代の医療とリハビリ機能が付加されて発展したのが鹿教湯温泉である。旅館建築と文殊堂（県指定）などの文化財、そして療養施設が一体となった温泉街は、長寿県長野を支えた重要な歴史と文化である。

別所温泉は、湯治場として利用されてきたが、大正期になると鉄道敷設とホテル建設が進んでリゾート地として発展し、周辺の寺社等文化財もPRされた。この別所温泉の発展とともに、地域の先進的な人物が、革新的な思想家や学者を招き、地域独特の革新活動を展開してきた。常楽寺を核とした夏季大学開設や反核平和運動、旅館経営者による革新思想などは、古代以来の別所温泉の歴史と文化財とともに、継承されるべき気質である。

#### ・ リゾート活用と自然保護

美ヶ原の開発では、高度成長期の開発と環境保護が先鋭的に表れた。こうした議論は、1996年の長野オリンピックの道路や会場整備でも顕著に表れ、自然の保護と開発の調和が図られている。2019年にはラグビーワールドカップのイタリア練習会場として菅平高原が決定し、新たな開発が進められている。開発と環境保全を天秤にかけるのではなく、両立を目指して議論してきた歴史は、今後も引き継がれるべきことである。

### ② 守り伝える方法

#### ・ 観光振興の観点からみた文化財の活用

市域の温泉地の旅館は現在、宿泊者数の激減により閉鎖が相次いでいる。この背景には、新幹線や自動車道による首都圏からのアクセスの良好さにより、日帰りや通過地となっていることが挙げられる。周辺文化財のPR、川魚や松茸などの地場グルメとの複合的な戦略により、滞在型プランを構築するなど、温泉街の振興とともに周辺の文化財を保全していく。

#### ・ 自然環境の保全活動との連携

上田市域は、四阿山の2,354mから盆地部の420～430mまで、標高差が2,000m弱を図る。また、昼夜や夏冬の寒暖差も大きい。このため、多種多様な生物が存在していることを、文化財マップ等を活用して紹介する。また、自然保護活動や青少年育成キャンプ、大学と連携して、自然の実態を伝え、開発と保護の両立を図る。

## 第6章 歴史文化保存活用区域

### 1 歴史文化保存活用区域の考え方

第二次上田市総合計画では、「地域の特性と発展の方向性」において、「自然や文化などそれぞれの地域の特性を生かしながら、将来の発展に向けて地域が取り組むまちづくりの方向性」を、9つの地域ごとに示している。この地域区分は幾たびかの合併の経緯のなかでも、旧町村の単位と文化的背景を引き継ぐものであり、中学校や公民館の設置単位ともなっている。

したがって、歴史文化保存活用区域は上田市全域を対象とし、次節において9つの地域別に保存・活用の方向性を示す。なお、「② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性」は、第二次上田市総合計画から歴史文化に関わる内容を抜粋した項目である。



図 37 上田市の地域区分と地域特性

## 2 保存活用の方角性（地域別）

### （1）中央地域

#### ① 中央地域の概要

- ・ 中央地域は、千曲川右岸の段丘上にある。上田駅を中心に市街地が形成された本市の玄関口であり、上田城跡や信濃国分寺など上田市を代表する文化財を擁した市の中心地域となっている。
- ・ 正月の信濃国分寺八日堂縁日、春の上田城千本桜まつり、中心市街地にて行われる夏の伝統行事である上田祇園祭、秋の上田城紅葉まつりなど、四季を通じて文化財を活用した賑わいと交流に取り組んでいる。
- ・ 近代の「蚕都上田」を支えた産学官連携の精神は、現在の産学官連携施設「A R E C」に引き継がれ、地域産業の発展に寄与している。また、信州大学繊維学部では、新たなファイバー技術により医療や宇宙服など最先端の研究を続けている。



上田城千本桜まつり

#### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方角性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方角性	取組の内容	視点・要素
中央地域	歴史的資源や豊かな自然環境を保全・活用した賑わいと交流の拠点を目指します。	歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり	数多く残る歴史遺産の価値を再認識して、観光振興に生かすとともに、こうした遺産との融合・調和を図り誇りをもてるまちづくり
			歴史的文化遗产ともいふべき、地名等についての認識を深めて、地元住民の意見を聞きながら、歴史的地名等を後世に残すまちづくり
		産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興	農民美術、上田紬や蚕都上田として栄えた歴史的文化遗产に触れながら、地域に伝わる伝統工芸の振興、後継者の育成と技術の継承

#### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 中央地域の神川地区は、信濃国分寺を中心に栄え、庶民の信仰を集めて賑わってきたが、八日堂縁日を担ってきた蘇民講は、近年後継者の確保が課題となっている。
- ・ 史跡信濃国分寺跡は、保存整備基本計画を平成 17 年に策定し、保存活用の方角性を定めている。その後、整備に向けて史跡公園用地の公有化と発掘調査を進めてきた。
- ・ 史跡上田城跡は、旧市民会館の取り壊しと、その後の整備が課題となっている。
- ・ 中心市街地においては、上田城築城と城下町の形成に伴い、各町名と地割が整えられた。上田城下町に由来する地名と地割は、現在まで続くコミュニティと町並み景観の原型となっている。この地名と歴史的景観の保全が課題となっている。



- ・ 祇園祭の「お舟の天王山車」曳航と「常田獅子」や「房山獅子」は、城下町に伝わる伝統的な芸能であり習俗である。「お舟の天王山車」は、老朽化に伴い長らく曳航を中断していたが、2014年に復活している。「常田獅子」や「房山獅子」は市を代表する三頭獅子であるが、地域住民の高齢化や過疎により、後継者不足に苦慮している。



祇園祭（常田獅子）

- ・ 近代の蚕都上田は、産学官の連携によって発展してきた。本市の近代的な発展を示す文化財は、旧常田館製糸場施設（重文）をはじめとして、中央地域のいたるところに存在している。一方で、保存・活用に対する意識が不十分な面もあり、滅失されることもある。



祇園祭（お舟の天王山車）

- ・ 児童自由画教育と農民美術運動の歴史と成果は、山本鼎の作品を中心に上田市立美術館に継承されているが、農民美術運動は、後継者問題を抱えている。また、上田自由大学運動は、現在の上田市の社会教育や生涯学習の大きな指針となっているものの、顕彰する文化財は少ない。
- ・ 中央地域には、博物館施設として上田市立博物館、信濃国分寺資料館、市立美術館の3館がある。丸子郷土博物館、ともしび博物館とあわせて、既存施設の役割を再整理した博物館構想を策定し、文化財の収蔵・管理及び保存・研究環境の充実と、市民や観光客に系統のかつ分かりやすい展示紹介のできる施設づくりが求められる。

#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 信濃国分寺を中心とするエリアについては、史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画を一部見直し、最新の調査成果を反映させたのち、公有化した土地の整備を進めていく。また、蘇民将来符頒布習俗（国選択）も一体的に継承する。
- ・ 史跡上田城跡整備基本計画では、史跡指定地について、文書・文献資料や古写真、発掘調査の成果によって整備する方針を掲げている。このため、課題となっている旧市民会館の取り壊し・整備を重点的に進めていく。
- ・ 上田城跡の三の丸にある武家屋敷、城下町・宿場町の町屋や社寺、北国街道と上州道の街道筋にある町並み景観、蛭沢川や矢出沢川の水辺の景観は、上田城の魅力をいっそう際立たせるものとして保存の方策をさらに検討する。
- ・ 中央地域全体を蚕都上田の繁栄を物語るゾーンと位置付けて、町並みや建造物の修景指針を定めて誘導を図るなど、中央地域の魅力をさらに輝かせるための保存活用の方策を検討する。
- ・ 児童自由画教育と農民美術運動は、発祥の地である神川小学校、工房、市立美術館とともに活動を継承していく。上田自由大学については、関連する文化財の掘りおこしとともに顕彰する方法を検討する。

## (2) 西部地域

### ① 西部地域の概要

- 西部地域は、上田城下町の北西側、太郎山から虚空蔵山の麓に所在する。閑静な住宅地、中小の商店や工場、卸団地などが田園空間に混在する地域である。
- 北国街道沿いの秋和地区から上塩尻、下塩尻地区にかけては、養蚕家屋が良好に残っている。
- 上田城寄りの下紺屋町から諏訪部にかけては、保福寺道との分岐や、「ぜんか(こ)うじみち」「北向観音」等の道標、矢出沢川に架かる「高橋」など、城下から在への転換点としての景観がみられる。
- 西部地域の北部にある、太郎山と虚空蔵山の山麓の平地には、新たな住環境が創出され、新旧住民のコミュニケーションを図りながら、住民参加によるまちづくりを進めている。



善光寺道道標

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
西部地域	歴史的、文化的資源を保全しながら、恵まれた環境を生かすとともに、商業機能などを活用して、賑わいを創出するまちづくりを目指します。	歴史的遺産等の積極的な活用による地域の振興	地域資源の調査を行い、必要なものの保全を図るとともに、観光資源につなげていくなどの利活用を推進
			地域の伝統文化や昔から伝わる行事の継承を推進
		地域が誇れる自然環境の保全、整備と有効活用	矢出沢川沿いの遊歩道、公園、北国街道、歴史の散歩道、山城などを生かしたトレッキングコースを設定し、新たな観光資源の創出や健康づくりへ活用
		多様な地域の資源を活用し、将来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てるまちづくり	子どもが自然に親しめる広場・公園を整備し、自然に親しみ、郷土の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りを持てる子どもたちを育成 学校と地域が連携し、地域ならではの行事への参加や伝承を通じて、地域ぐるみで子どもの郷土理解と育成を推進

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- 近世街道筋に建ち並ぶ秋和地区、上塩尻地区、下塩尻地区、坂下地区の養蚕家屋群は、西部地域の自然環境と密接に関連しながら発達した文化財であると考えられるが未指定である。近年、住民の高齢化とともに、その敷地や家屋の広大さが、維持管理・継承を困難にしている。



上塩尻地区の養蚕家屋群

- ・ 北国街道と保福寺道との分岐や、城下を隔てる矢出沢川にかかる高橋、枡形、保福寺道の千曲川の渡しなど、近世城下町と街道の様相が凝縮されており、歴史の散歩道として整備するなど往時のたたずまいを活かすように取り組んでいる。
- ・ 北国街道の北を流れる矢出沢川は、上田城築城の際に河道を付け替え、城の北の大外堀として機能させた。現在は市街地の水辺の憩いの空間として活用されている。
- ・ 豊作を祈願する生塚の鳥追い祭りは、昭和12年に中断していたが、地域の青少年育成活動と結んで、平成元年に復活している。



鳥追い祭り

#### ④ 保存・活用の方向性

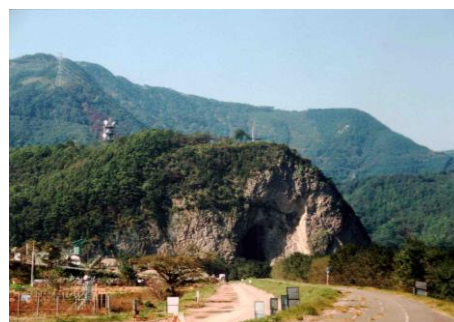
- ・ 養蚕家屋群については、文化財指定・登録等の保護措置を検討するとともに、所有者や地域住民との協働により維持管理・継承ができる方法について検討を進める。
- ・ 矢出川沿いとその周辺における街道、橋、枡形、道標等からなる歴史的景観については、都市整備・街路整備事業と連携し、憩いの空間創出などの現代的な役割を加味しながら継承していく。
- ・ 公民館を中心に実施しているトレッキング・ウォーキング活動の対象範囲として、芳泉寺等の寺社に伝わる文化財、虚空蔵山等に残る山城跡、西上田駅舎のほか、千曲川と虚空蔵山の自然景観に桑園跡・風穴をとりこむなど、その範囲を広げていく。



### (3) 城南地域

#### ① 城南地域の概要

- ・ 城南地域は、農地と新興住宅地が混在した地域である。幹線道路の整備に伴い、商業施設などの集積と住宅地の開発が見込まれている。
- ・ 千曲川をはじめ産川や浦野川、小牧山や半過岩鼻の奇景、自然豊かな須川地区などの景観と、優良農地が広がる。
- ・ 城南地域は、県指定が1件、市指定が6件と、指定文化財が他地域に比べて少ない。



半過岩鼻

#### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
城南地域	千曲川をはじめ産川や浦野川、小牧山や上田原古戦場、半過岩鼻など奇景や原風景の残る豊かな自然や農地を大切に保全するとともに、秩序ある都市空間づくりを進めます。	「上田 道と川の駅」を活用した地域振興の推進	千曲川・半過岩鼻などの自然環境、上田原古戦場・天白山などの歴史的資源及び芝生広場・ウォーキングコースなどの公園施設を生かした観光振興の推進
		歴史的・地域的資源の保全と活用	地域の歴史や文化を伝承し、地域に誇りと愛着を持ち歴史的・地域的資源の保全を推進
			歴史的資源を活用し、地域住民同士の交流を通していきいきと生活できる地域づくりの支援

#### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 村上氏と武田氏の激戦地である上田原古戦場が地域の中心にあり、古戦場の周辺には合戦で亡くなった武将の墓や供養の寺が点在する。現在これらに対し、地域住民の手により、案内板等が建てられている。
- ・ 保福寺道沿道の上田原、下之条、築地、吉田地区には、熱田系の御師によって伝えられた太神楽獅子が分布しているが、継承・後継者育成に困難を強いられているものもある。
- ・ 第二次世界大戦の戦争遺跡については、公民館活動を中心に、隣接する川西地域や塩田地域とあわせて、学習活動に活用されている。
- ・ 岩鼻の岩石や自生するモイワナズナ、営巣するチョウゲンボウは、定期的な観察とパトロール等によって保護する必要がある。

#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 上田原古戦場については、引き続き観光施策、公民館活動、地域活動と連携して、マップの作成や説明板等の充実をすすめていく。
- ・ 保福寺道の街道筋や半過の谷間に発達した養蚕家屋集落や沿道の石造文化財は、城南地域の歴史と生活を伝えるものであり、調査を進めて地域づくりの資産として活

用していく。また、旧倉沢家住宅は、築地地区の歴史を語る中核施設として位置付け、積極的な整備と活用をすすめる。

- 神楽は、住民の生活に根付いた民俗文化財として、その後継者育成について、保存団体や所有者とともに検討していく。
- 半過岩鼻については、直下に建設された「上田道と川の駅」を運営する「おとぎの里」の活動と連携して、地質学的な価値や、伝説、動植物について周知と保護を図っていく。
- 戦跡については、すでに実施している説明板の設置や、公民館活動における学習活動をさらに推進していく。



旧倉沢家住宅

#### (4) 神科・豊殿地域

##### ① 神科・豊殿地域の概要

- ・ 神科・豊殿地域は、神川によって西の神科地区と東の豊殿地区に分けられる。神科地区の太郎山に発する扇状地は、近代には桑園として、現代はリンゴなどの果樹園として開発されてきた。
- ・ 神科地区の大部をなす染屋台地には、古代末から中世にかけての開拓と推定される染屋台条里水田が広がり、米作りを中心とした農業が営まれてきた。近年は、高速道路のインターチェンジや幹線道路の整備で、商業地・住宅地として開発が進んでいる。
- ・ 豊殿地区は、東に殿城山が聳え、神川左岸段丘上に水田や畑地が広がる農村の景観を色濃く残している。
- ・ 豊殿地区殿城山の西麓にある赤坂滝宮神社や龍水寺は、豊富な水源が信仰の対象とされてきた。



赤坂滝宮神社

##### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
神科・豊殿地域	広域交通の結節点である上田菅平インターを上田市の玄関口として、史跡や田園、自然資源など地域資源の連携と活用により産業・観光振興や地域間交流の促進を進めます。	地域の農業振興と地域内の財産・資源の活用	地域の財産である砥石米山城跡、矢沢城跡、稲倉棚田、未整備の伊勢崎城跡（富士見台、神科新屋地籍）、矢花古墳群等を再認識・再発見し、広く発信

##### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 神科地区には矢花の七つ塚（矢花古墳群）があり、豊殿地区には下郷古墳群や赤坂将軍塚古墳などが存在する。それらの一部は文化財に指定されているものの、活用は不十分である。
- ・ 砥石米山城跡をはじめとする山城跡への誘導は整備されているが、その城下町の家屋や石造文化財、街道筋の町並み景観や養蚕家屋群、習俗等については、調査が行き届いていない。
- ・ 小井田の蚕影神社には、「いっつあ」と呼ばれる蚕を飼育する藁製の円座が千個以上も奉納されているが、養蚕の衰退とともに奉納する習俗がなくなり、現存資料の保存



赤坂将軍塚古墳



いっつあ



が急務となっている。

- ・ 畑山発電所跡や真田傍陽線の遺構は、アクセスが難しかったり傷みも激しくなっている。
- ・ 獅子神楽と屋台囃子は住民の生活に根付いた民俗文化財ではあるが、後継者育成の課題に直面している。

#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 地域を斜行する上州道とその沿線・支道の集落景観、山城や城下町の一体的な景観、古墳群や寺社など、神川や山々の自然環境と歴史的景観を総合的に保存活用するための計画等を策定して、地域の魅力として発信していく。
- ・ 畑山発電所跡や真田傍陽線の遺構へのアクセス詳細を、既存の文化財マップ等で明らかにし、学習や観光資源として活用する。
- ・ 生活に根付いた神楽等の後継者育成方法について、保存団体や所有者とともに検討していく。

## (5) 塩田地域

### ① 塩田地域の概要

- ・ 塩田地域は、独自で厚みのある歴史文化を形成してきた地域である。歴史的建造物や寺社が集積し、ため池群と美しい田園風景、さらには別所温泉もあり、豊富な文化・観光資源に恵まれている。
- ・ 塩田地域においては、北向観音や生島足島神社の二年参りと初詣、春の節分会、夏の岳の幟、秋のマツタケ狩りなどが行われ、四季を通じて多くの人が訪れている。
- ・ 観光業をはじめ農林業等多様な産業間の連携や地域内外の交流を促進し、歴史・自然・生活が調和した交流拠点としてのまちづくりを進めている。

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
塩田地域	豊富な資源と貴重な財産を見つめ直し、生かします。 貴重な史跡・文化財を保全し、次世代へ継承します。	地域特性を生かした観光振興	史跡や文化財を結ぶ道路・遊歩道の整備等、観光ルートの整備促進
		史跡・文化財の保全と次世代への継承に向けた取組の推進	史跡・文化財の保護保全に取り組む地域団体との連携協力の促進

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 塩田地域の特徴の一つであるため池は、農水省のため池百選（平成 22 年選定）において「塩田平のため池群」として選定されている。一方、農業人口の減少と高齢化により、その維持管理が困難となってきた。
- ・ 独鈷山麓にある塩田地域は、古代以来の仏教文化財の指定件数が多いが、近世の寺院建築に調査の手が入っていないものが多い。
- ・ 水源となる山への信仰と、「岳の幟」（選択）や「百八手」などの雨乞い行事が多く、塩田地域を特徴付ける習俗である。
- ・ 大正 10 年(1921)、別所温泉への湯治客を輸送する「川西線」（現在の別所線）が開業している。温泉リゾートやその鉄道敷設の歴史では、比較的早期に位置するものと思われるが、その温泉開発に大きく関わった駅舎や橋梁等については文化財としての保護措置が執られていない。
- ・ かつての穀倉地帯や山麓においては宅地開発が進んでおり、歴史的な景観が損なわれつつある。



百八手



別所温泉駅

④ 保存・活用の方向性

- ・ ため池の歴史的な調査を、地域住民や農政関係部局とともに行う。その調査成果を学習しつつ、地域全体で継承する方法について検討を進める。
- ・ 仏教文化財については、今後も調査を継続し、評価の定まったものから順次文化財指定を進めるとともに、観光資源や地域学習に活用していく。
- ・ 歴史・自然・生活が調和した塩田地域の秩序ある土地利用をめざして、住宅地としての利便性向上と歴史的景観の保全との調整を図り、計画的な土地利用を推進する。
- ・ 各地区や寺社で継承されてきた雨乞い行事や祇園祭、三頭獅子等の祭礼行事について、積極的に情報発信し、誘客とともに地域住民のコミュニティを高める。



**七苦離地藏**  
平安時代末の地藏立像  
別所温泉の入口にある  
七苦離地藏堂に安置  
(未指定文化財)



## (6) 川西地域

### ① 川西地域の概要

- 川西地域は、上田市域の最も西側にあり、周囲を子檀嶺岳や飯縄山、夫神岳等に囲まれ、浦野川や阿鳥川、室賀川が流れる田園地域である。
- 東山道や保福寺道、室賀峠道などに由来する古刹や史跡が多く点在する。

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
川西地域	史跡などの地域資源の有効活用を進めます。	交流・体験を中心に据えた地域興しの展開	地域で活動する諸団体と連携を図りながら、自然豊かな環境を生かした都市部の子どものちとの交流事業を推進

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- 川西地域は、古代東山道が通り、古代寺院の存在が想定される発掘調査の成果もある。現在は、東昌寺や高仙寺などがあり、塩田平の仏教文化圏の北辺に位置しているが、知名度が低い。
- 保福寺道には、近代の養蚕家屋群へと発展してきた町並みの様子がうかがえる。特に浦野地区はかつての浦野宿であり、町並み景観の中に枡形や高札場跡などが残っているが、詳細な調査は未実施である。
- 戦国期に武田信玄が攻略した岡城跡は、丸馬出を三方に持つ縄張りに修築した武田流の城跡であり文化財指定されているが、公営住宅等により城郭全体の姿がわかりにくくなっている。
- 6つの獅子神楽は、いずれも後継者に苦慮している。
- 戦跡は、近年地域学習の場として活用され、説明板等が整備されつつある。



岡城跡

### ③ 保存・活用の方向性

- 交通の要衝として栄えてきた川西地域に残る、街道筋の町並み景観、民俗芸能・石造物等の文化財について、地域住民とともに調査を行う。その調査成果は、道の歴史と関連づけながら、インターネットや説明板等により発信していく。
- 岡城跡は、公営住宅の建て替えの時期を捉えて、郭の特徴が理解できるように整備を進める。
- 古代寺院跡等を示す埋蔵文化財の出土地には、説明板等を設置して周知とPRに努める。
- 神楽は、住民の生活に根付いた民俗文化財として、川西地域全体で継承が図れるよう、後継者育成等について保存団体や所有者とともに検討していく。



下室賀三頭獅子

## (7) 丸子地域

### ① 丸子地域の概要

- ・ 丸子地域は、千曲川の左岸に位置し、依田川と内村川にそって延びる地域である。豊かな自然と文化が調和した地域であり、対岸はるかに望む菅平高原や烏帽子岳の雄大なパノラマは、四季折々の装いごとに絶景である。
- ・ かつては製糸工場が多かったが、現在は工業集積地として上田市の製造業を支えている。
- ・ 丸子温泉郷は環境省の国民保健温泉地に指定され、周囲の自然がおりなす風情、「文殊堂」や「五台橋」の幽玄な景観と相まって、古くて新しいヘルシータウンとして注目を集めている。
- ・ 丸子地域は、自然と融合する芸術の里、健康と癒しの里を大切にして積極的に情報発信している。



五台橋

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
丸子地域	丸子温泉郷や信州国際音楽村などの観光・文化資源を効果的に連携させながら、地域内外の交流を促進します。	自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり	歴史的資産の有効活用を検討し、誇りの持てるまちづくりを推進

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 鳥羽山洞窟遺跡は、貴重な遺跡として史跡指定されているが、保存活用計画は未策定である。
- ・ 依田城に身を寄せていた木曾義仲が、この地から挙兵した事実を伝える遺跡や文化財の調査研究が進んでいない。
- ・ 飯沼地区や藤原田地区には、大規模な養蚕家屋群が集積されているが、具体的な保存・活用の方策がない。
- ・ 三才山峠道沿いの法住寺や霊泉寺、文殊堂などは、独鈷山北麓の塩田地域と一体的な仏教文化圏を形成しているが、保存・活用が進んでいない。
- ・ 丸子温泉郷には、寺院と仏教説話・伝説が多くある。鹿教湯温泉文殊堂は「日本三大文殊」の一つとされ、参詣客を集めてきたが、あまり知られていない。また、霊泉寺川にある、稚児ヶ淵伝説をもつポットホールと呼ばれる甌穴について、保護が進んでいない。
- ・ 鹿教湯温泉には、脳卒中や骨関節疾患のリハビリテーションでは全国屈指の設備、環境を有する温泉療養所がある。丸子温泉郷の湯治場としての歴史は、温泉と医療

必當館  
蚕種製造を手がけた養蚕家屋

を直結させた湯治医療地として継承されてきたが、観光客は減少している。

- ・ 丸子郷土資料館は、公文書館との併存が検討されている。

#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 鳥羽山洞窟遺跡は早急に保存活用計画を策定し、今後のあり方について検討する。
- ・ 木曾義仲に関連する資料の調査研究を進め、市内外の地域と連携して情報発信していく。
- ・ 飯沼地区や藤原田地区の養蚕家屋群は、地域の養蚕や蚕種・生糸の輸出史料とあわせて調査研究し、成果を発信する。
- ・ 三才山峠道沿いの仏教文化財は、丸子温泉郷の寺院と仏教説話や伝説とともにPRする。また、丸子温泉郷の、江戸時代以来の湯治場としての歴史を広め、あらたな観光・誘客資源として活用する。
- ・ 丸子資料館の改修の際は、丸子地域の蚕種製造や養蚕・製糸の歴史と資料を紹介する機能の充実を検討する。



木造阿弥陀如来坐像  
霊泉寺 14世紀 長野県宝



## (8) 真田地域

### ① 真田地域の概要

- ・ 真田地域は、戦国武将真田氏の発祥の地として、寺社、山城、居館等の関連する史跡が数多く残り、多くの観光客が訪れる地域である。
- ・ 日本百名山の一つである四阿山（2,354m）と根子岳（2,207m）の麓、標高 1,200m から 1,600m に広がる菅平高原は、夏はスポーツ合宿、冬はスキー等で賑わっている。近年では、高地トレーニング地としてトップアスリートも訪れている。
- ・ 自然環境の特性を生かした農産物の生産、地域営農集落組織による多様な取り組みがある。



菅平高原

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
真田地域	自然、歴史・文化、スポーツリゾート、農業などの地域資源の連携推進により、地域産業の活性化と交流促進のまちを目指します。	地域資源を生かした観光振興	真田氏発祥の郷の歴史や自然を背景に、地域の生活・文化などに触れる参加・体験型観光の推進等産学官民連携による観光地づくり

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 真田氏発祥の地として、山城へのルート表示などは整備されているが、山城跡の整備は遺構の説明、樹木の除伐等の維持に留まっている。
- ・ 山城の城下町や街道筋には、古い集落が発達しているが、集落にある建造物や石仏、習俗、伝統行事等の詳細な調査はされていない。
- ・ 真田傍陽線は、菅平の開発や、高原野菜、リンゴなどの農産物を輸送するための路線として盛んに利用され、地域の近代化に大きな役割を果たしたが、橋脚の基礎やトンネル、ホーム跡等の遺構は、徐々に失われつつある。
- ・ 菅平高原の希少動植物や、「四阿山の的岩」として文化財指定されている四阿山麓の安山岩の柱状節理の大岩脈については、定期的なパトロール等が必要である。



真田地域傍陽地区三島平の集落景観  
集落の三島神社には、平安末の「銅製御正体」や「円座（いっつあ）」が奉納されている。



真田幸隆・昌幸の墓 長谷寺  
(中央幸隆・右昌幸・左幸隆夫人)

#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 山城跡には、説明板等を設置するとともに、樹木の除伐や除草等を地域住民と協働して進めることにより、真田地域全体の戦国期の歴史理解が深まるような現地公開に努める。
- ・ 城下町や街道筋の集落にある建造物や石仏、習俗、伝統行事等の総合的な調査を進め、古代から近代までの厚みのある真田地域の歴史と文化を明らかにして、地域学習や観光施策に活用する。
- ・ 真田傍陽線の遺構は、近代化や開発を進めた原動力として貴重であり、軌道や駅跡の表示等を検討する。
- ・ 菅平高原の天然記念物については、筑波大学山岳科学センターや地域住民と協働したパトロールを実施する。

## (9) 武石地域

### ① 武石地域の概要

- ・ 武石地域の南側にある国定公園美ヶ原高原は、標高 2,034m を計る。武石地域の総面積 87.67k m<sup>2</sup> の約 9 割が山林で占められており、美ヶ原高原からはいく筋もの尾根が派生して、谷を形作り、武石川の清流を生み出している。
- ・ 3 月には、春を演出する「福寿草の里づくり活動」、5 月には、地域全体を花桃のピンクに染める「花咲か爺さん活動（一里花桃の里）」に取り組んでいる。
- ・ 武石地域の人々が育んできた、そして、人々を暖かく包んでくれるこれらの宝物を引き継ぎ、絶えることなく次世代へ伝え、上田市の「最高の田舎」として住み良い地域づくりを目指している。



巢栗溪谷・お仙ヶ淵

### ② 歴史文化の観点から見た地域の発展の方向性（第二次上田市総合計画より抜粋）

	発展の方向性	取組の内容	視点・要素
武石地域		地域の特性を生かした教育の推進とスポーツの振興	地域の課題や歴史など生涯にわたる学習機運の醸成と、スポーツの振興、健康・体力づくり活動の充実

### ③ 代表的な文化財（現状と課題）

- ・ 7 年に一度執り行われる子檀嶺神社御柱祭行事〔市〕は、武石地域を挙げて取り組まれる神事であり住民活動であるが、地域住民の減少と少子高齢化により、開催が困難となりつつある。
- ・ 樹木や鉱物等の天然記念物の指定件数が多いが、美ヶ原高原の特徴を表した文化財指定の事例は少ない。
- ・ 妙見寺の鳴龍〔市〕は、室町時代の文化財であり、日光山、京都相国寺、青森龍泉寺とともに「日本四方鳴龍」の一つに数えられるが、観光客は少ない。
- ・ 近代には風穴を利用した蚕種製造や養蚕が行われ、現在はそれを日本酒や果実の貯蔵に活用している事例がある。一方、風穴への道が崩壊して、現状が分からなくなっているものもある。



子檀嶺神社御柱祭行事



妙見寺の鳴龍



#### ④ 保存・活用の方向性

- ・ 子檀嶺神社御柱祭行事は、武石地域を代表する文化財であり、観光振興やコミュニティの維持にとっても重要な資源として、地域とともに引き続き継承に努める。
- ・ 美ヶ原高原の天然記念物や武石川の巣栗溪谷や焼山の滝などの魅力に溢れた自然景観を、地域の歴史と文化、農村景観と一体的に継承していく。
- ・ 毎春の「余里の一里花桃」は「世界中で一番きれいな二週間」といわれ、まさしく桃源郷の様相を呈しており、山間の農村の原風景を維持する活動を今後も継続し、地域の魅力として発信する。
- ・ 全国的にみて貴重な文化財であり、観光資源ともなる鳴龍の情報発信をさらに進める。
- ・ 風穴を地域づくりの資源として、さらに活用する。

## 第7章 文化財保存活用地域計画に関する事項

### 1 基本的な考え方

上田市文化財保存活用地域計画（以下、地域計画）は、上田市歴史文化基本構想に掲げる目標の実現に向けて、具体的な施策の方向性や方策等を定めて国の認定を得ることにより、多岐にわたる文化財の保存・活用の取り組みを、関係する各主体との協働のもとに、計画的に推進するために作成する。

地域計画は、上田市が作成主体となり、対象となる区域の市民や関連する各種活動団体、専門家等と連携・協力して作成する。本構想で示した6つの「関連文化財群」と9つの「歴史文化保存活用区域」は、本市の地域計画においても大きな役割を担うものとして位置付ける。また、地域計画に示す文化財の保存・活用に関する措置は、本構想に示す各方針に即すものとし、計画期間中に行う事業や関係法令上の措置など具体的な内容について、実施時期を可能な限り明確にした上で記載する。都市計画行政や景観行政、農林行政、観光行政、地域自治組織等の関連する行政部局との連携のもと、市民や活動団体等との協働体制を構築して、地域に根ざした保存・活用の取り組みを推進する。

### 2 保存活用計画に定める事項

地域計画の記載事項は、次に掲げる（1）から（9）までを必須事項として定める。地域計画は、本構想で定めた目標・方針を踏まえて作成することを基本とする。また、本構想で示した6つの「関連文化財群」と9つの「歴史文化保存活用区域」については、文化庁が示す指針に沿って、必要な見直しを行い記載する。

- （1）上田市の概要
- （2）上田市の文化財の概要
- （3）上田市の歴史文化の特徴
- （4）文化財の保存・活用に関する課題
- （5）文化財の保存・活用に関する方針
- （6）文化財の保存・活用に関する措置
- （7）文化財を把握するための調査に関する事項
- （8）計画期間
- （9）文化財の保存・活用の推進体制
- （10）その他、上田市の実情を踏まえた必要な事項

## 第8章 文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針

### 1 文化財保護行政の庁内体制の構築

第4章（5）「文化財の保存・活用を推進するための体制整備の方針」のもと、多くの関係者が上田市の歴史・文化を踏まえ、一貫したコンセプトに基づくまちづくりの推進が図られるよう、庁内体制を構築する。

- ・第一に上田市の文化財・社会教育・農政・観光・都市計画等の諸施策の分野を横断できるよう、文化財の保存・活用に関する庁内組織を形成する。
- ・次に、都市計画審議会や景観審議会、商工観光施策、農林水産業の推進やプランニングなどに、歴史の専門家や文化財担当職員を積極的に参加できるようにする。
- ・さらに、上田市文化財保護審議会内に、文化財保護事業の進捗や結果についての報告や本構想の評価を行う、協議の場を設置する。

### 2 地域内分権における文化財保護の体制整備

9つの地域自治組織ごとに、市民の視点で文化財を活用しながら、地域市民参加で守り生かす取り組みを推進する。その推進組織としては、9つの地域自治組織内に（仮称）歴史文化保存・活用推進協議会（以下「推進協議会」という。）を設け、文化財に関する様々な事業の企画や助言、情報交換等を行い、市民参加による文化財保存・活用を推進する役割を担うこととする。

その効果としては、第一に市民レベルでの文化財の調査・研究・管理の促進が期待される。市内には指定・登録文化財のほかにも多くの未指定の文化財が所在しているが、これらをすべて行政や所有者だけで管理していくことは困難である。そこで、各地域の推進協議会のもとで文化財に関する情報提供や管理状況の報告を行う活動をしていただくことで、基本データベースの情報の充実や、最新情報に保つことができると考えられる。

次に、文化財の活用や情報発信などが期待できる。例えば、近年取り壊しや空き家となる歴史的建造物が増加している。これらを上田市の空き家バンクに登録して活用し、移住・定住を促したり、まちづくり団体の活動拠点や情報発信の拠点、飲食店などに活用したりすることは、歴史や文化を尊重した魅力ある地域づくりの一助となると考えられる。

### 3 高等教育施設や専門家との連携体制

文化財の調査・研究の際に学術研究機関や専門家と連携を図ることで、調査・研究精度の向上を図るとともに、地域の学術研究成果の充実なども併せて図ることができる。

本市には、信州大学（繊維学部）、長野大学、筑波大学（山岳科学センター菅平高原実験所）、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校の5校の高等教育施設がある。こ



これらの施設や教職員、学生らと連携して、文化財の調査・研究・保護を地域住民とともに進めていく。

また、推進協議会や地域団体による文化財の修理活動なども考えられる。団体内に、地元の建築士や大工、専門家などからなる部会を設置し、学術研究機関などとも連携し、文化財の修理などに携わることで、地域産業の活性化と技術の向上、後継者の育成などへと繋げていく。